

地域創生学群 地域創生学類 (2013年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	1学期	1	2	1
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	2
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	3
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	4
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	1学期	1	2	5
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	1学期	1	2	6
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子	1学期	1	2	7
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	8
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	9
	1年				
	可能性としての歴史 HIS200F 未開講	2学期	2	2	
2年					
現代社会と文化 ANT210F 未開講	2学期	2	2		
2年					
言語と認知 LIN210F 未開講	1学期	2	2		
2年					
共生社会論 SOW200F 未開講	2学期	2	2		
2年					
共同体と身体 PHR210F 未開講	2学期	2	2		
2年					
戦争論 PLS210F 未開講	2学期	2	2		
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会		2	2	
	BIO200F 未開講	2年			
	情報社会を読む		2	2	
	INF200F 未開講	2年			
	地域資源管理論		2	2	
	ENV200F 未開講	2年			
■教養演習科目	教養基礎演習I	1学期	1	2	10
	GES101F 神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	11
	GES101F 徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習I	1学期	1	2	12
	GES101F 廣川 祐司	1年			
	教養基礎演習I (防衛セミナー)	1学期	1	2	13
	GES101F 戸蒔 仁司	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	14
	GES102F 眞鍋 和博 他	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	15
	GES102F 神原 ゆうこ	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	16
	GES102F 徳永 政夫	1年			
	教養基礎演習II	2学期	1	2	17
	GES102F 廣川 祐司	1年			
	教養基礎演習II (防衛セミナー)	1学期	1	2	18
	GES102F 戸蒔 仁司	1年			
教養演習A I	1学期	2	2		
GES201F 未開講	2年				
教養演習A I (防衛セミナー)	1学期	2	2		
GES201F 未開講	2年				
教養演習A II	2学期	2	2		
GES202F 未開講	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養演習科目	教養演習AII (防衛セミナー) GES202F 未開講	1学期	2	2	
	2年				
	教養演習BI GES301F 未開講	1学期	3	2	
	3年				
	教養演習BI (防衛セミナー) GES301F 未開講	1学期	3	2	
	3年				
教養演習BII GES302F 未開講	2学期	3	2		
3年					
教養演習BII (防衛セミナー) GES302F 未開講	1学期	3	2		
3年					
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	19
	1年				
	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	20
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 松尾 太加志 他	1学期	1	2	21
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 森永 今日子	1学期	1	2	22
	1年				
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	23
	1年				
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子	2学期	1	2	24
	1年				
	未来を創る環境技術 ENV003F 龍 有二 他	1学期	1	2	25
1年					
私たちと宗教 PHR006F 関 一敏	2学期	1	2	26	
1年					
思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	27	
1年					
文化と表象 MCC001F 真鍋 昌賢	2学期	1	2	28	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	言語とコミュニケーション LIN001F 漆原 朗子 他	2学期	1	2	29
		1年			
	文学を読む LIT001F 岩本 真理子 他	2学期	1	2	30
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	31
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 中道 壽一	1学期	1	2	32
		1年			
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	33
		1年			
	政治のなかの文化 ANT001F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	34
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	35
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	36
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治 他	2学期	1	2	37
		1年			
共生の作法 LAW001F 二宮 正人 他	1学期	1	2	38	
	1年				
法律の読み方 LAW002F 小野 憲昭 他	2学期	1	2	39	
	1年				
社会調査 SOC003F 叶堂 隆三	2学期	1	2	40	
	1年				
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	41	
	1年				
企業と社会 BUS001F 山岡 敏秀	1学期	1	2	42	
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 伊原木 大祐	1学期	1	2	43	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正	1学期	1	2	44
		1年			
	都市と地域 RDE002F 伊藤 解子 他	1学期	1	2	45
		1年			
	現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期	1	2	46
		1年			
	開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	47
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 前田 淳 他	1学期	1	2	48
		1年			
	テロリズム論 PLS001F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	49
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	1学期	1	2	50
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 金 鳳珍	2学期	1	2	51
		1年			
	韓国の社会と文化 ARE010F 金 貞愛	2学期	1	2	52
		1年			
	エスニシティと多文化社会 IRL001F 久木 尚志 他	1学期	1	2	53
	1年				
歴史の読み方I HIS004F 八百 啓介	1学期	1	2	54	
	1年				
歴史の読み方II HIS005F 小林 道彦	1学期	1	2	55	
	1年				
そのとき世界は HIS002F 小林 道彦 他	2学期	1	2	56	
	1年				
戦後の日本経済 ECN002F 迎 由理男	2学期	1	2	57	
	1年				
ものと人間の歴史 HIS003F 中野 博文 他	1学期	1	2	58	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	59
	1年				
	ヨーロッパ道徳思想史 PHR005F 伊原木 大祐	2学期	1	2	60
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	61
	1年				
	メンタル・ヘルスII PSY002F 中島 俊介	2学期	1	2	62
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	63
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 徳永 政夫	1学期	1	2	64
	1年				
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 加倉井 美智子	1学期	1	2	65
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 高西 敏正	2学期	1	2	66
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 徳永 政夫	2学期	1	2	67
	1年				
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 加倉井 美智子	2学期	1	2	68
	1年				
	自己管理論 HSS003F 河津 慶太	2学期	1	2	69
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	70
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (サッカー) HSS081F 磯貝 浩久	1学期	1	1	71
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (テニス) HSS081F 黒田 次郎	1学期	1	1	72
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 美山 泰教	1学期	1	1	73
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 美山 泰教	1学期	1	1	74
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 鯨 吉夫	1学期	1	1	75
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 加倉井 美智子	1学期	1	1	76
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	77
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	78
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 黒田 次郎	2学期	1	1	79
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バレーボール) HSS082F 美山 泰教	2学期	1	1	80
		1年			
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	81	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 鯨 吉夫	2学期	1	1	82	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (サッカー) HSS082F 磯貝 浩久	2学期	1	1	83	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	84	
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	85
		1年			
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	86
		1年			
コミュニケーション実践 CAR111F 眞鍋 和博	2学期	1	2	87	
	1年				
グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 永田 公彦	2学期	1	2	88	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引		
		クラス					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 未開講	1学期	2	2	2年		
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 休講	2学期	2	2		2年	
	地域の達人 CAR212F 休講	2学期	2	2	2年		
	サービスラーニング入門I CAR110F 坂本 毅啓	1学期	1	2		1年	89
	サービスラーニング入門II CAR180F 坂本 毅啓	2学期	1	2	1年		
	プロジェクト演習I CAR280F 未開講	1学期	2	2		2年	
	プロジェクト演習II CAR281F 未開講	2学期	2	2	2年		
	プロジェクト演習III CAR380F 未開講	1学期	3	2		3年	
	プロジェクト演習IV CAR381F 未開講	2学期	3	2	3年		
	■教養特講	教養特講I SPL001F 休講	2学期	1		2	1年
		教養特講II (ホスピタリティ論) SPL002F 西澤 健次 他	2学期	1	2	1年	
		教養特講III SPL003F 休講	2学期	1	2		1年
教養特講IV SPL004F 休講		2学期	1	2	1年		
■情報教育科目	データ処理 INF101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2		群	92
	データ処理 INF101F 浅羽 修丈	2学期	1	2	再履		

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現 INF230F 未開講	2学期	2	2	2年
	情報表現 INF230F 未開講	2学期	2	2	
	情報表現 INF230F 未開講	2学期	2	2	2年
	情報メディア演習 INF330F 未開講		3	2	
■外国語教育科目	英語I (律政群 1 - A) ENG101F 下條 かおり	1学期	1	1	94
		律政群 1 - A			
	英語I (律政群 1 - B) ENG101F 葛西 宏信	1学期	1	1	95
		律政群 1 - B			
	英語I (律政群 1 - C) ENG101F 永末 康介	1学期	1	1	96
		律政群 1 - C			
	英語I (律政群 1 - D) ENG101F 石田 由希	1学期	1	1	97
		律政群 1 - D			
	英語I (律政群 1 - E) ENG101F 安丸 雅子	1学期	1	1	98
		律政群 1 - E			
	英語I (律政群 1 - F) ENG101F 野上 良子	1学期	1	1	99
		律政群 1 - F			
	英語I (律政群 1 - G) ENG101F 酒井 秀子	1学期	1	1	100
		律政群 1 - G			
英語I (律政群 1 - I) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	101	
	律政群 1 - I				
英語II (律政群 1 - A) ENG111F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	102	
	律政群 1 - A				
英語II (律政群 1 - B) ENG111F 永末 康介	2学期	1	1	103	
	律政群 1 - B				
英語II (律政群 1 - C) ENG111F 葛西 宏信	2学期	1	1	104	
	律政群 1 - C				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語II (律政群 1 - D) ENG111F 石田 由希	2学期	1	1	105
		律政群 1 - D			
	英語II (律政群 1 - E) ENG111F 安丸 雅子	2学期	1	1	106
		律政群 1 - E			
	英語II (律政群 1 - F) ENG111F 下條 かおり	2学期	1	1	107
		律政群 1 - F			
	英語II (律政群 1 - G) ENG111F 酒井 秀子	2学期	1	1	108
		律政群 1 - G			
	英語II (律政群 1 - I) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	109
		律政群 1 - I			
	英語III (律政群 1 - A) ENG102F リズ・クレシーニ	1学期	1	1	110
		律政群 1 - A			
	英語III (律政群 1 - B) ENG102F デビッド・アダム・ストット	1学期	1	1	111
		律政群 1 - B			
	英語III (律政群 1 - C) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	112
		律政群 1 - C			
	英語III (律政群 1 - D) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	113
		律政群 1 - D			
	英語III (律政群 1 - E) ENG102F クリストファー・オサリバン	1学期	1	1	114
	律政群 1 - E				
英語III (律政群 1 - F) ENG102F ホセ・クルーズ	1学期	1	1	115	
	律政群 1 - F				
英語III (律政群 1 - G) ENG102F デビット・ニール・マクレラン	1学期	1	1	116	
	律政群 1 - G				
英語III (律政 1 - I) ENG102F 船方 浩子	1学期	1	1	117	
	律政群 1 - I				
英語IV (律政群 1 - A) ENG112F リズ・クレシーニ	2学期	1	1	118	
	律政群 1 - A				
英語IV (律政群 1 - B) ENG112F デビッド・アダム・ストット	2学期	1	1	119	
	律政群 1 - B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語IV (律政群 1 - C) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	120
		律政群 1 - C			
	英語IV (律政群 1 - D) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	121
		律政群 1 - D			
	英語IV (律政群 1 - E) ENG112F クリストファー・オサリバン	2学期	1	1	122
		律政群 1 - E			
	英語IV (律政群 1 - F) ENG112F ホセ・クルーズ	2学期	1	1	123
		律政群 1 - F			
	英語IV (律政群 1 - G) ENG112F デビット・ニール・マクレラン	2学期	1	1	124
		律政群 1 - G			
	英語IV (律政 1 - I) ENG112F 船方 浩子	2学期	1	1	125
		律政群 1 - I			
	英語V (律政群 2 - A) ENG201F 未開講	1学期	2	1	
		律政群 2 - A			
	英語V (律政群 2 - B) ENG201F 未開講	1学期	2	1	
		律政群 2 - B			
	英語V (律政群 2 - C) ENG201F 未開講	1学期	2	1	
		律政群 2 - C			
	英語V (律政群 2 - D) ENG201F 未開講	1学期	2	1	
	律政群 2 - D				
英語V (律政群 2 - E) ENG201F 未開講	1学期	2	1		
	律政群 2 - E				
英語V (律政群 2 - F) ENG201F 未開講	1学期	2	1		
	律政群 2 - F				
英語V (律政群 2 - G) ENG201F 未開講	1学期	2	1		
	律政群 2 - G				
英語V (律政群 2 - I) ENG201F 未開講	1学期	2	1		
	律政群 2 - I				
英語VI (律政群 2 - A) ENG211F 未開講	2学期	2	1		
	律政群 2 - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VI (律政群 2 - B)	2学期	2	1	律政群 2 - B
	ENG211F 未開講				
	英語VI (律政群 2 - C)	2学期	2	1	律政群 2 - C
	ENG211F 未開講				
	英語VI (律政群 2 - D)	2学期	2	1	律政群 2 - D
	ENG211F 未開講				
	英語VI (律政群 2 - E)	2学期	2	1	律政群 2 - E
	ENG211F 未開講				
	英語VI (律政群 2 - F)	2学期	2	1	律政群 2 - F
	ENG211F 未開講				
	英語VI (律政群 2 - G)	2学期	2	1	律政群 2 - G
	ENG211F 未開講				
	英語VI (律政群 2 - I)	2学期	2	1	律政群 2 - I
	ENG211F 未開講				
	英語VII (律政群 2 - A)	1学期	2	1	律政群 2 - A
	ENG202F 未開講				
	英語VII (律政群 2 - B)	1学期	2	1	律政群 2 - B
	ENG202F 未開講				
	英語VII (律政群 2 - C)	1学期	2	1	律政群 2 - C
	ENG202F 未開講				
英語VII (律政群 2 - D)	1学期	2	1	律政群 2 - D	
ENG202F 未開講					
英語VII (律政群 2 - E)	1学期	2	1	律政群 2 - E	
ENG202F 未開講					
英語VII (律政群 2 - F)	1学期	2	1	律政群 2 - F	
ENG202F 未開講					
英語VII (律政群 2 - G)	1学期	2	1	律政群 2 - G	
ENG202F 未開講					
英語VII (律政群 2 - I)	1学期	2	1	律政群 2 - I	
ENG202F 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	英語VIII (律政群 2 - A) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - A
	英語VIII (律政群 2 - B) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - B
	英語VIII (律政群 2 - C) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - C
	英語VIII (律政群 2 - D) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - D
	英語VIII (律政群 2 - E) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - E
	英語VIII (律政群 2 - F) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - F
	英語VIII (律政群 2 - G) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - G
	英語VIII (律政群 2 - I) ENG212F 未開講	2学期	2	1	律政群 2 - I
中国語I CHN101F 有働 彰子	1学期	1	1	律政群 1年	126
中国語II CHN111F 有働 彰子	2学期	1	1	律政群 1年	127
中国語III CHN102F 王 占華	1学期	1	1	律政群 1年	128
中国語IV CHN112F 王 占華	2学期	1	1	律政群 1年	129
中国語V CHN201F 未開講	1学期	2	1	済営人律政群 2年	
中国語VI CHN211F 未開講	2学期	2	1	済営人律政群 2年	
中国語VII CHN202F 未開講	1学期	2	1	済営人律政群 2年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目	中国語VIII	2学期	2	1	
	CHN212F 未開講	済営人律政群 2年			
	朝鮮語I	1学期	1	1	130
	KRN101F 金 貞淑	済営群 1年			
	朝鮮語II	2学期	1	1	131
	KRN111F 金 貞淑	済営群 1年			
	朝鮮語III	1学期	1	1	132
	KRN102F チャン ユンヒャン	済営群 1年			
	朝鮮語IV	2学期	1	1	133
	KRN112F チャン ユンヒャン	済営群 1年			
	朝鮮語V	1学期	2	1	
	KRN201F 未開講	済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VI	2学期	2	1	
	KRN211F 未開講	済営比人律政群 2年			
朝鮮語VII	1学期	2	1		
KRN202F 未開講	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VIII	2学期	2	1		
KRN212F 未開講	済営比人律政群 2年				
■専門基幹科目	地域学入門	1学期	1	2	
	RDE100M 夜のみ開講科目	1年			
	コミュニティ論	1学期	1	2	
	RDE212M 休講 昼夜交互開講科目	1年			
	システムマネジメント	2学期	1	2	
	BUS190M 休講 昼夜交互開講科目	1年			
	キャリア学概論	2学期	1	2	134
	CAR100M 見館好隆/地域創生	1年			
	プロジェクトマネジメント	2学期	1	2	
	BUS191M 休講 昼夜交互開講科目	1年			
地域文化論	1学期	2	2		
RDE213M 未開講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	キャリア形成論 CAR200M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	まちづくりマネジメント RDE215M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	北九州社会論 RDE214M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	地域経営実践論 RDE216M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	指導的実習I RDE180M 真鍋和博・伊野憲治/地域創生	1学期	1	1	135
		1年			
	指導的実習II RDE181M 真鍋和博・伊野憲治/地域創生	2学期	1	1	136
		1年			
	地域創生実習I RDE280M 未開講	1学期	2	1	
		2年			
	地域創生実習I RDE280M 未開講	1学期	2	1	
		2年			
	地域創生実習II RDE281M 未開講	2学期	2	1	
		2年			
	地域創生実習II RDE281M 未開講	2学期	2	1	
		2年			
地域創生実習III RDE380M 未開講	1学期	3	1		
	3年				
地域創生実習III RDE380M 未開講	1学期	3	1		
	3年				
地域創生実習IV RDE381M 未開講	2学期	3	1		
	3年				
地域創生実習IV RDE381M 未開講	2学期	3	1		
	3年				
スポーツ・ボランティア実習I HSS280M 未開講	1学期	2	1		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	スポーツ・ボランティア実習II HSS281M 未開講	2学期	2	1	2年
	スポーツ・ボランティア実習III HSS380M 未開講	1学期	3	1	3年
	スポーツ・ボランティア実習IV HSS381M 未開講	2学期	3	1	3年
	障害者スポーツ実習I HSS282M 未開講	1学期	2	1	2年
	障害者スポーツ実習II HSS283M 未開講	2学期	2	1	2年
	障害者スポーツ実習III HSS382M 未開講	1学期	3	1	3年
	障害者スポーツ実習IV HSS383M 未開講	2学期	3	1	3年
	相談援助実習 SOW382M 未開講	集中	3	6	3年
	地域マネジメント実践論I RDE210M 未開講	1学期	2	2	2年
	地域マネジメント実践論II RDE211M 未開講	2学期	2	2	2年
地域マネジメント実践論III RDE310M 未開講	1学期	3	2	3年	
地域マネジメント実践論IV RDE311M 未開講	2学期	3	2	3年	
地域ボランティア実践論I HSS290M 未開講	1学期	2	2	2年	
地域ボランティア実践論II HSS291M 未開講	2学期	2	2	2年	
地域ボランティア実践論III HSS390M 未開講	1学期	3	2	3年	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門基幹科目	地域ボランティア実践論Ⅳ HSS391M 未開講	2学期	3	2	3年	
	地域福祉実践論Ⅰ SOW212M 未開講	1学期	2	2	2年	
	地域福祉実践論Ⅱ SOW213M 未開講	2学期	2	2	2年	
	地域福祉実践論Ⅲ SOW310M 未開講	1学期	3	2	3年	
	地域福祉実践論Ⅳ SOW311M 未開講	2学期	3	2	3年	
	地域創生基礎演習 A SEM111M 真鍋和博/地域創生	1学期	1	2	1年	137
	地域創生基礎演習 B SEM112M 伊野憲治 他 地域創生学群教員	2学期	1	2	1年	138
	地域創生基礎演習 B SEM112M 真鍋和博 他 地域創生学群教員	2学期	1	2	1年	139
	地域創生基礎演習 B SEM112M 徳永政夫/地域創生	2学期	1	2	1年	140
	地域創生基礎演習 B SEM112M 休講/障害者ｽﾎﾟｰﾂ系ﾍﾞｼﾞﾈﾀﾘｱﾝ	2学期	1	2	1年	
地域創生基礎演習 C SEM211M 未開講	1学期	2	2	2年		
地域創生基礎演習 C SEM211M 未開講	1学期	2	2	2年		
地域創生基礎演習 C SEM211M 未開講	1学期	2	2	2年		
地域創生基礎演習 C SEM211M 未開講	1学期	2	2	2年		
地域創生基礎演習 D SEM212M 未開講	2学期	2	2	2年		

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	
	SEM212M 未開講	2年			
	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	
	SEM212M 未開講	2年			
	地域創生基礎演習 D	2学期	2	2	
	SEM212M 未開講	2年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	
	SEM311M 未開講	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	
	SEM311M 未開講	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	
	SEM311M 未開講	3年			
	地域創生演習 A	1学期	3	2	
	SEM311M 未開講	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	
	SEM312M 未開講	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	
	SEM312M 未開講	3年			
	地域創生演習 B	2学期	3	2	
	SEM312M 未開講	3年			
地域創生演習 C	1学期	4	2		
SEM411M 未開講	4年				
地域創生演習 C	1学期	4	2		
SEM411M 未開講	4年				
地域創生演習 C	1学期	4	2		
SEM411M 未開講	4年				
地域創生演習 C	1学期	4	2		
SEM411M 未開講	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門基幹科目	地域創生演習 D	2学期	4	2	4年
	SEM412M 未開講				
	地域創生演習 D	2学期	4	2	4年
	SEM412M 未開講				
	地域創生演習 D	2学期	4	2	4年
	SEM412M 未開講				
	地域創生演習 D	2学期	4	2	4年
	SEM412M 未開講				
	相談援助実習指導 1	1学期 (ペア)	3	2	3年
	SOW380M 未開講				
	相談援助実習指導 2	2学期	3	1	3年
	SOW381M 未開講				
	相談援助演習 1	1学期	2	2	2年
	SOW265M 未開講				
	相談援助演習 2	2学期	2	2	2年
	SOW266M 未開講				
	相談援助演習 3	1学期	3	2	3年
	SOW360M 未開講				
	相談援助演習 4	2学期	3	2	3年
	SOW361M 未開講				
相談援助演習 5	1学期	4	2	4年	
SOW460M 未開講					
卒業論文・卒業実践報告	1・2学期 (ペア)	4	4	4年	
STH410M 未開講					
卒業論文・卒業実践報告	1・2学期 (ペア)	4	4	4年	
STH410M 未開講					
卒業論文・卒業実践報告	1・2学期 (ペア)	4	4	4年	
STH410M 未開講					
卒業論文・卒業実践報告	1・2学期 (ペア)	4	4	4年	
STH410M 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	地域コーディネート論	2学期	1	2	
	RDE110M 休講 昼夜交互開講科目	1年			
	地域調査論	1学期	2	2	
	INF242M 未開講	2年			
	景観まちづくり論	2学期	2	2	
	ARC233M 未開講	2年			
	ものづくりマネジメント論	2学期	2	2	
	BUS317M 未開講	2年			
	福祉環境デザイン論	2学期	2	2	
	ARC235M 未開講	2年			
	危機管理論	2学期	2	2	
	SSS210M 未開講	2年			
	都市計画の基礎	2学期	2	2	
	ARC234M 未開講	2年			
	地域創生特講I	1学期	2	2	
	RDE290M 未開講	2年			
	地域創生特講II	2学期	2	2	
	RDE291M 未開講	2年			
	まちづくり実践論	1学期	3	2	
	RDE312M 未開講	3年			
法学総論	1学期	1	2	141	
LAW100M 岡 邦信	1年				
日本国憲法原論	1学期	1	2	142	
LAW120M 中村 英樹	1年				
憲法人権論	2学期	1	2	143	
LAW220M 植木 淳	1年				
民法総則	1学期(ペア)	1	4	144	
LAW160M 小野 憲昭	1年				
民法概論I	1学期	2	2		
LAW161M 未開講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	民法概論II	2学期	2	2	2年
	LAW162M 未開講				
	親族法	1学期	2	2	2年
	LAW264M 未開講				
	物権法	2学期	2	2	2年
	LAW260M 未開講				
	社会法総論	2学期	2	2	2年
	LAW140M 未開講				
	行政法総論	1学期 (ペア)	2	4	2年
	LAW121M 未開講				
	刑法犯罪論	2学期 (ペア)	2	4	2年
	LAW130M 未開講				
	刑法犯罪各論I	1学期	3	2	3年
	LAW230M 未開講				
	刑法犯罪各論II	2学期	3	2	3年
	LAW330M 未開講				
	会社法I	1学期	3	2	3年
	LAW270M 未開講				
	会社法II	2学期	3	2	3年
	LAW271M 未開講				
企業取引法I	2学期	3	2	3年	
LAW272M 未開講					
企業取引法II	2学期	3	2	3年	
LAW372M 未開講					
知的財産法	1学期	3	2	3年	
LAW341M 未開講					
行政争訟法	2学期	3	2	3年	
LAW222M 未開講					
情報公開・個人情報保護法	2学期	3	2	3年	
LAW322M 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	NPO論 PLC114M 檀原 真二 他	1学期	1	2	145
	1年				
	政治過程論 PLS210M 濱本 真輔	2学期	1	2	146
	1年				
	福祉国家論 PLC112M 狭間 直樹	2学期	1	2	147
	1年				
	公共政策論 PLC211M 未開講	1学期	2	2	
	2年				
	地方自治論 PAD211M 未開講	1学期	2	2	
	2年				
	政策過程論 PLC212M 未開講	2学期	2	2	
	2年				
	福祉政策論 PLC217M 未開講	1学期	2	2	
	2年				
	都市経済論 PLC113M 未開講	1学期	2	2	
	2年				
	都市環境論 PLC111M 未開講	1学期	2	2	
	2年				
	公共経営論 PAD212M 未開講	2学期	2	2	
	2年				
都市経営論 PAD213M 未開講	2学期	2	2		
2年					
経済学入門A ECN110M 牛房 義明	1学期	1	2	148	
1年					
経済学入門A ECN110M 藤井 敦	1学期	1	2	149	
1年					
経済学入門B ECN111M 後藤 尚久	1学期	1	2	150	
1年					
経済学入門B ECN111M 林田 実	1学期	1	2	151	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	現代日本経済入門 A ECN150M 柳井 雅人	1学期	1	2	152
		1年			
	現代日本経済入門 B ECN151M 前田 淳	2学期	1	2	153
		1年			
	金融論I ECN260M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	金融論II ECN261M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	国際経済論I ECN240M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	国際経済論II ECN241M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	国際金融論I ECN363M 未開講	1学期	3	2	
		3年			
	国際金融論II ECN364M 未開講	2学期	3	2	
		3年			
	地域経済I ECN244M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	地域経済II ECN245M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
経済地理学I ECN242M 未開講	1学期	2	2		
	2年				
経済地理学II ECN243M 未開講	2学期	2	2		
	2年				
財政学I ECN361M 未開講	1学期	3	2		
	3年				
財政学II ECN362M 未開講	2学期	3	2		
	3年				
環境経済学 ECN340M 未開講	1学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	マネジメント論基礎 BUS111M 浦野 恭平	2学期	1	2	154
	1年				
	マネジメント論基礎 BUS111M 浦野 恭平	2学期	1	2	155
	1年				
	企業論基礎 BUS110M 山岡 敏秀	2学期	1	2	156
	1年				
	簿記論I ACC110M 白石 和孝	1学期	1	2	157
	1年				
	簿記論I ACC110M 岡部 勝成	1学期	1	2	158
	1年				
	簿記論II ACC111M 白石 和孝	2学期	1	2	159
	1年				
	簿記論II ACC111M 岡部 勝成	2学期	1	2	160
	1年				
	数学 MTH100M 吉田 祐治	1学期	1	2	161
	1年				
	経営統計 MTH150M 吉田 祐治	2学期	1	2	162
	1年				
	情報デザイン INF103M 休講 昼夜交互開講科目	2学期	1	2	
	1年				
プログラミングI INF110M 武藤 直彦	2学期	1	2	163	
1年					
プログラミングII (新JAVA) INF210M 未開講	1学期	2	2		
2年					
コンピュータシステム INF220M 未開講	1学期	2	2		
2年					
財務会計論I ACC214M 未開講	1学期	2	2		
2年					
財務会計論II ACC215M 未開講	2学期	2	2		
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	経営戦略論	2学期	2	2	
	BUS213M 未開講	2年			
	データ構造	2学期	2	2	
	INF231M 未開講	2年			
	データベース	1学期	2	2	
	INF232M 未開講	2年			
	Webプログラミング	2学期	2	2	
	INF212M 未開講	2年			
	人的資源管理論	2学期	3	2	
	BUS310M 未開講	3年			
	中小企業論	1学期	3	2	
	BUS313M 未開講	3年			
	企業データ分析	2学期	3	2	
	INF341M 未開講	3年			
	オペレーションズ・マネジメント	1学期	3	2	
	INF200M 未開講	3年			
	情報ネットワーク	1学期	3	2	
	INF320M 未開講	3年			
	情報経営	1学期	3	2	
	BUS316M 未開講	3年			
システム分析	1学期	3	2		
INF340M 未開講	3年				
システム設計	2学期	3	2		
INF420M 未開講	3年				
現代社会と福祉 1	1学期	1	2	164	
SOW100M 河嶋 静代	1年				
現代社会と福祉 2	2学期	1	2	165	
SOW101M 松川 素子	1年				
相談援助の基盤と専門職 1	1学期	1	2	166	
SOW260M 坂本毅啓/地域創生	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	相談援助の基盤と専門職 2 SOW261M 坂本毅啓/地域創生	2学期	1	2	167
		1年			
	社会調査の基礎 SOW290M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	地域福祉の理論と方法 1 SOW210M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	地域福祉の理論と方法 2 SOW211M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW223M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	相談援助の理論と方法 1 SOW262M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	相談援助の理論と方法 2 SOW263M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
相談援助の理論と方法 3 SOW264M 未開講	1学期	2	2		
	2年				
社会保障 SOW240M 未開講	1学期	2	2		
	2年				
低所得者に対する支援と生活保護制度 SOW241M 未開講	2学期	2	2		
	2年				
人体の構造と機能及び疾病 SOW231M 未開講	1学期	2	2		
	2年				
保健医療サービス SOW230M 未開講	1学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	福祉行財政と福祉計画	1学期	2	2	
	SOW242M 未開講	2年			
	福祉サービスの組織と経営	2学期	2	2	
	SOW251M 未開講	2年			
	権利擁護と成年後見制度	1学期	2	2	
	SOW250M 未開講	2年			
	就労支援サービス	1学期	2	2	
	SOW243M 未開講	2年			
	更生保護制度	2学期	2	2	
	SOW244M 未開講	2年			
	心理学概論	2学期	1	2	168
	PSY100M 田中 信利 他	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	
	PSY222M 未開講	2年			
	老年心理学	2学期	2	2	
	PSY213M 未開講	2年			
	教育心理学	2学期	2	2	
	PSY220M 未開講	2年			
	対人心理学	1学期	3	2	
	PSY211M 未開講	3年			
臨床心理学	1学期	3	2		
PSY230M 未開講	3年				
カウンセリング論	2学期	3	2		
PSY232M 未開講	3年				
心理療法論	2学期	3	2		
PSY231M 未開講	3年				
コミュニケーション論	1学期	3	2		
PSY212M 未開講	3年				
リハビリテーション論	1学期	3	2		
HSS330M 未開講	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	観光社会学 SOC216M 夜のみ開講科目	1学期	1	2	
	1年				
	フィールドワーク論 ANT212M 未開講	集中	2	2	
	2年				
	ボランティア活動論 RDE111M 西田心平/地域創生	1学期	1	2	169
	1年				
	スポーツ指導論 HSS110M 徳永政夫/地域創生	1学期	1	2	170
	1年				
	障害者スポーツ指導論 HSS120M 小手川 郁人	2学期	1	2	171
	1年				
	スポーツ・ボランティア指導論 HSS101M 徳永政夫/地域創生	2学期	1	2	172
	1年				
	スポーツ心理学 HSS221M 未開講	1学期	2	2	
	2年				
	スポーツ・ボランティア各論 HSS200M 未開講	1学期	2	2	
	2年				
	コミュニティスポーツ論 HSS220M 未開講	2学期	2	2	
	2年				
	障害者スポーツ各論 HSS224M 未開講	2学期	2	2	
	2年				
スポーツ産業論 HSS222M 未開講	2学期	2	2		
2年					
身体適応論 HSS231M 未開講	1学期	3	2		
3年					
身体スポーツ論 HSS210M 未開講	2学期	3	2		
3年					
健康科学 HSS230M 未開講	2学期	3	2		
3年					
トレーニング論 HSS223M 未開講	1学期	3	2		
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 小林 道彦	2学期	1	2	173
	1年				
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	1学期	1	2	174
	1年				
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	1学期	1	2	175
	1年				
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	1学期	1	2	176
	1年				
	生活世界の哲学 PHR110F 伊原木 大祐	2学期	1	2	177
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	178
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子	1学期	1	2	179
	1年				
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	180
	1年				
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	181
	1年				
可能性としての歴史 HIS200F 未開講		2	2		
2年					
現代社会と文化 ANT210F 未開講		2	2		
2年					
言語と認知 LIN210F 未開講		2	2		
2年					
共生社会論 SOW200F 未開講		2	2		
2年					
共同体と身体 PHR210F 未開講		2	2		
2年					
戦争論 PLS210F 未開講		2	2		
2年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生命科学と社会 BIO200F (昼のみ開講)		2	2	2年
	情報社会を読む INF200F (昼のみ開講)		2	2	
	地域資源管理論 ENV200F (昼のみ開講)		2	2	2年
	教養基礎演習I GES101F (昼のみ開講)		1	2	
	教養基礎演習II GES102F (昼のみ開講)		1	2	1年
	教養演習A I GES201F 未開講		2	2	
教養演習A II GES202F 未開講		2	2	2年	
教養演習B I GES301F 未開講		3	2		3年
教養演習B II GES302F 未開講		3	2	3年	
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F (昼のみ開講)	2学期	1		2
	地球の生いたち GOL001F 長井 孝一	2学期	1	2	1年
	現代人のこころ PSY003F 休講	1学期	1	2	
	人間と生命 BIO002F 休講		1	2	1年
	環境都市としての北九州 ENV001F (昼のみ開講)		1	2	
	未来を創る環境技術 ENV003F (昼のみ開講)		1	2	1年

182

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	私たちと宗教 PHR006F (昼のみ開講)		1	2	183
		1年			
	思想と現代 PHR004F 伊原木 大祐	1学期	1	2	184
		1年			
	文化と表象 MCC001F (昼のみ開講)		1	2	185
		1年			
	言語とコミュニケーション LIN001F (昼のみ開講)		1	2	186
		1年			
	文学を読む LIT001F 馬場 美佳 他	2学期	1	2	187
		1年			
	現代正義論 PHR003F 休講	2学期	1	2	188
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 中道 壽一	1学期	1	2	189
		1年			
	社会学的思考 SOC002F 休講	1学期	1	2	190
		1年			
	政治のなかの文化 ANT001F 休講		1	2	191
		1年			
人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	192	
	1年				
ジェンダー論 GEN001F 力武 由美	1学期	1	2	193	
	1年				
障がい学 SOW001F 休講	1学期	1	2	194	
	1年				
共生の作法 LAW001F (昼のみ開講)		1	2	195	
	1年				
法律の読み方 LAW002F 休講		1	2	196	
	1年				
社会調査 SOC003F 山本 努	2学期	1	2	197	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	189
	1年				
	企業と社会 BUS001F 山岡 敏秀	1学期	1	2	190
	1年				
	現代社会と倫理 PHR002F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F (昼のみ開講)		1	2	
	1年				
	都市と地域 RDE002F (昼のみ開講)	1学期	1	2	
	1年				
	現代の国際情勢 IRL003F 下野 寿子 他	1学期	1	2	191
	1年				
	開発と統治 IRL002F 三宅 博之 他	2学期	1	2	192
	1年				
	グローバル化する経済 ECN001F 休講		1	2	
	1年				
	テロリズム論 PLS001F (昼のみ開講)		1	2	
	1年				
	国際紛争と国連 IRL005F 二宮 正人	2学期	1	2	193
	1年				
国際社会と日本 IRL004F 休講		1	2		
1年					
韓国の社会と文化 ARE010F (昼のみ開講)		1	2		
1年					
エスニシティと多文化社会 IRL001F 休講	1学期	1	2		
1年					
歴史の読み方I HIS004F 小林 道彦	1学期	1	2	194	
1年					
歴史の読み方II HIS005F 休講	1学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	そのとき世界は HIS002F (昼のみ開講)		1	2	195
		1年			
	戦後の日本経済 ECN002F (昼のみ開講)		1	2	
		1年			
	ものと人間の歴史 HIS003F (昼のみ開講)		1	2	195
		1年			
■ライフ・スキル科目	人物と時代の歴史 HIS001F 山崎 勇治 他	1学期	1	2	196
		1年			
	ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 休講		1	2	196
		1年			
	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	1学期	1	2	197
		1年			
メンタル・ヘルスII PSY002F 休講	2学期	1	2	197	
	1年				
■キャリア科目	フィジカル・ヘルスI HSS001F 休講	1学期	1	2	197
		1年			
	フィジカル・ヘルスII HSS002F 休講	2学期	1	2	197
		1年			
	自己管理論 HSS003F 休講		1	2	197
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	197
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 休講	2学期	1	1	197
		1年			
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F (昼のみ開講)		1	2	197
		1年			
	コミュニケーション実践 CAR111F (昼のみ開講)	2学期	1	2	197
	1年				
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F (昼のみ開講)	2学期	1	2	197
		1年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■キャリア科目	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 未開講	1学期	2	2	2年
	プロフェッショナルの仕事II CAR211F 未開講	2学期	2	2	2年
	地域の達人 CAR212F 未開講	2学期	2	2	2年
	サービスラーニング入門I CAR110F (昼のみ開講)	1学期	1	2	1年
	サービスラーニング入門II CAR180F (昼のみ開講)	2学期	1	2	1年
	プロジェクト演習I CAR280F 未開講	1学期	2	2	2年
プロジェクト演習II CAR281F 未開講	2学期	2	2	2年	
プロジェクト演習III CAR380F 未開講	1学期	3	2	3年	
プロジェクト演習IV CAR381F 未開講	2学期	3	2	3年	
■教養特講	教養特講I SPL001F (昼のみ開講)		1	2	1年
	教養特講II SPL002F (昼のみ開講)		1	2	1年
教養特講III SPL003F (昼のみ開講)		1	2	1年	
教養特講IV SPL004F (昼のみ開講)		1	2	1年	
■情報教育科目	データ処理 INF101F 中尾 泰士	2学期	1	2	198
		再履			
	データ処理 INF101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	199
		群・再履			

地域創生学群 地域創生学類 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■情報教育科目	情報表現	1学期	2	2	
	INF230F 未開講	2年			
	情報メディア演習		3	2	
	INF330F 未開講	3年			
■外国語教育科目	ビジネス英語I (群1年)	1学期	1	1	200
	ENG131F デビッド・アダム・ストット	群1年			
	ビジネス英語II (群1年)	2学期	1	1	201
	ENG132F デビッド・アダム・ストット	群1年			
■専門基幹科目	地域学入門	1学期	1	2	202
	RDE100M 真鍋和博 他 地域創生学群教員	1年			
	コミュニティ論	1学期	1	2	203
	RDE212M 石塚優/地域創生	1年			
	システムマネジメント	2学期	1	2	204
	BUS190M 廣渡栄寿/地域創生	1年			
	キャリア学概論	2学期	1	2	
	CAR100M 休講 昼夜交互開講科目	1年			
	プロジェクトマネジメント	2学期	1	2	205
	BUS191M 佐藤貴之/地域創生	1年			
	地域文化論	1学期	2	2	
	RDE213M 未開講	2年			
	キャリア形成論	1学期	2	2	
	CAR200M 未開講	2年			
	まちづくりマネジメント	1学期	2	2	
RDE215M 未開講	2年				
北九州社会論	2学期	2	2		
RDE214M 未開講	2年				
地域経営実践論	2学期	2	2		
RDE216M 未開講	2年				
指導的実習I	1学期	1	1		
RDE180M 昼のみ開講科目	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門基幹科目	指導的実習II	2学期	1	1	
	RDE181M 昼のみ開講科目	1年			
	地域創生実習I	1学期	2	1	
	RDE280M 未開講	2年			
	地域創生実習II	2学期	2	1	
	RDE281M 未開講	2年			
	地域創生実習III	1学期	3	1	
	RDE380M 未開講	3年			
	地域創生実習IV	2学期	3	1	
	RDE381M 未開講	3年			
	スポーツ・ボランティア実習I	1学期	2	1	
	HSS280M 未開講	2年			
	スポーツ・ボランティア実習II	2学期	2	1	
	HSS281M 未開講	2年			
	スポーツ・ボランティア実習III	1学期	3	1	
	HSS380M 未開講	3年			
	スポーツ・ボランティア実習IV	2学期	3	1	
	HSS381M 未開講	3年			
	障害者スポーツ実習I	1学期	2	1	
	HSS282M 未開講	2年			
障害者スポーツ実習II	2学期	2	1		
HSS283M 未開講	2年				
障害者スポーツ実習III	1学期	3	1		
HSS382M 未開講	3年				
障害者スポーツ実習IV	2学期	3	1		
HSS383M 未開講	3年				
地域マネジメント実践論I	1学期	2	2		
RDE210M 未開講	2年				
地域マネジメント実践論II	2学期	2	2		
RDE211M 未開講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門基幹科目	地域マネジメント実践論III RDE310M 未開講	1学期	3	2	3年
	地域マネジメント実践論IV RDE311M 未開講	2学期	3	2	3年
	地域ボランティア実践論I HSS290M 未開講	1学期	2	2	2年
	地域ボランティア実践論II HSS291M 未開講	2学期	2	2	2年
	地域ボランティア実践論III HSS390M 未開講	1学期	3	2	3年
	地域ボランティア実践論IV HSS391M 未開講	2学期	3	2	3年
	地域福祉実践論I SOW212M 未開講	1学期	2	2	2年
	地域福祉実践論II SOW213M 未開講	2学期	2	2	2年
	地域福祉実践論III SOW310M 未開講	1学期	3	2	3年
	地域福祉実践論IV SOW311M 未開講	2学期	3	2	3年
地域創生基礎演習A SEM111M 昼のみ開講科目	1学期	1	2	1年	
地域創生基礎演習B SEM112M 昼のみ開講科目	2学期	1	2	1年	
地域創生基礎演習C SEM211M 昼のみ開講科目	1学期	2	2	2年	
地域創生基礎演習D SEM212M 昼のみ開講科目	2学期	2	2	2年	
地域創生演習A SEM311M 未開講	1学期	3	2	3年	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門基幹科目	地域創生演習 A	1学期	3	2	3年
	SEM311M 未開講				
	地域創生演習 A	1学期	3	2	3年
	SEM311M 未開講				
	地域創生演習 A	1学期	3	2	3年
	SEM311M 未開講				
	地域創生演習 A	1学期	3	2	3年
	SEM311M 未開講				
	地域創生演習 B	2学期	3	2	3年
	SEM312M 未開講				
	地域創生演習 B	2学期	3	2	3年
	SEM312M 未開講				
	地域創生演習 B	2学期	3	2	3年
	SEM312M 未開講				
	地域創生演習 B	2学期	3	2	3年
	SEM312M 未開講				
	地域創生演習 C	1学期	4	2	4年
	SEM411M 未開講				
	地域創生演習 C	1学期	4	2	4年
	SEM411M 未開講				
地域創生演習 C	1学期	4	2	4年	
SEM411M 未開講					
地域創生演習 C	1学期	4	2	4年	
SEM411M 未開講					
地域創生演習 D	2学期	4	2	4年	
SEM412M 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門基幹科目	地域創生演習 D	2学期	4	2	4年
	SEM412M 未開講				
	地域創生演習 D	2学期	4	2	4年
	SEM412M 未開講				
	地域創生演習 D	2学期	4	2	4年
	SEM412M 未開講				
	地域創生演習 D	2学期	4	2	4年
	SEM412M 未開講				
	地域創生演習 D	2学期	4	2	4年
	SEM412M 未開講				
	地域創生演習 D	2学期	4	2	4年
	SEM412M 未開講				
	地域創生演習 D	2学期	4	2	4年
	SEM412M 未開講				
	相談援助実習指導 1	1学期 (ベア)	3	2	3年
	SOW380M 未開講				
	相談援助実習指導 2	2学期	3	1	3年
	SOW381M 未開講				
	相談援助演習 1	1学期	2	2	2年
	SOW265M 未開講				
相談援助演習 1	1学期	2	2	2年	
SOW265M 未開講					
相談援助演習 2	2学期	2	2	2年	
SOW266M 未開講					
相談援助演習 2	2学期	2	2	2年	
SOW266M 未開講					
相談援助演習 3	1学期	3	2	3年	
SOW360M 未開講					
相談援助演習 3	1学期	3	2	3年	
SOW360M 未開講					
相談援助演習 4	2学期	3	2	3年	
SOW361M 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門基幹科目	相談援助演習 4 SOW361M 未開講	2学期	3	2	3年
	相談援助演習 5 SOW460M 未開講	1学期	4	2	4年
	相談援助演習 5 SOW460M 未開講	1学期	4	2	4年
	卒業論文・卒業実践報告 STH410M 未開講	1・2学期 (ペア)	4	4	4年
	卒業論文・卒業実践報告 STH410M 未開講	1・2学期 (ペア)	4	4	4年
	卒業論文・卒業実践報告 STH410M 未開講	1・2学期 (ペア)	4	4	4年
	卒業論文・卒業実践報告 STH410M 未開講	1・2学期 (ペア)	4	4	4年
卒業論文・卒業実践報告 STH410M 未開講	1・2学期 (ペア)	4	4	4年	
卒業論文・卒業実践報告 STH410M 未開講	1・2学期 (ペア)	4	4	4年	
■専門科目	地域コーディネイト論 RDE110M 西田心平/地域創生	2学期	1	2	206
		1年			
	地域調査論 INF242M 未開講	1学期	2	2	2年
	景観まちづくり論 ARC233M 未開講	2学期	2	2	2年
ものづくりマネジメント論 BUS317M 未開講	2学期	2	2	2年	
福祉環境デザイン論 ARC235M 未開講	2学期	2	2	2年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	危機管理論 SSS210M	2学期	2	2	
	未開講	2年			
	都市計画の基礎 ARC234M	2学期	2	2	
	未開講	2年			
	地域創生特講I RDE290M	1学期	2	2	
	未開講	2年			
	地域創生特講II RDE291M	2学期	2	2	
	未開講	2年			
	まちづくり実践論 RDE312M	1学期	3	2	
	未開講	3年			
	法学総論 LAW100M	1学期	1	2	207
	吉村 弘	1年			
	日本国憲法原論 LAW120M	1学期	1	2	
	休講	1年			
	憲法人権論 LAW220M	2学期	1	2	208
	植木 淳	1年			
	民法総則 LAW160M	1学期(ヘア)	1	4	
	昼のみ開講科目	1年			
	民法概論I LAW161M	1学期	2	2	
	未開講	2年			
民法概論II LAW162M	2学期	2	2		
未開講	2年				
親族法 LAW264M	1学期	2	2		
未開講	2年				
物権法 LAW260M	2学期	2	2		
未開講	2年				
社会法総論 LAW140M	2学期	2	2		
未開講	2年				
行政法総論 LAW121M	1学期(ヘア)	2	4		
未開講	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	刑法犯罪論 LAW130M 未開講	2学期 (ベア)	2	4	2年
	刑法犯罪各論I LAW230M 未開講	1学期	3	2	3年
	刑法犯罪各論II LAW330M 未開講	2学期	3	2	3年
	会社法I LAW270M 未開講	1学期	3	2	3年
	会社法II LAW271M 未開講	2学期	3	2	3年
	企業取引法I LAW272M 未開講	2学期	3	2	3年
	企業取引法II LAW372M 未開講	2学期	3	2	3年
	知的財産法 LAW341M 未開講	1学期	3	2	3年
	行政争訟法 LAW222M 未開講	2学期	3	2	3年
	情報公開・個人情報保護法 LAW322M 未開講	2学期	3	2	3年
NPO論 PLC114M 榎原 真二 他	1学期	1	2	1年	209
政治過程論 PLS210M 昼のみ開講科目	2学期	1	2	1年	
福祉国家論 PLC112M 昼のみ開講科目	2学期	1	2	1年	
公共政策論 PLC211M 未開講	1学期	2	2	2年	
地方自治論 PAD211M 未開講	1学期	2	2	2年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	政策過程論	2学期	2	2	
	PLC212M 未開講	2年			
	福祉政策論	1学期	2	2	
	PLC217M 未開講	2年			
	都市経済論	1学期	2	2	
	PLC113M 未開講	2年			
	都市環境論	1学期	2	2	
	PLC111M 未開講	2年			
	公共経営論	2学期	2	2	
	PAD212M 未開講	2年			
	都市経営論	2学期	2	2	
	PAD213M 未開講	2年			
	経済学入門 A	1学期	1	2	210
	ECN110M 魏 芳	1年			
	経済学入門 B	1学期	1	2	211
	ECN111M 畔津 憲司	1年			
	現代日本経済入門 A	1学期	1	2	
	ECN150M 休講	1年			
	現代日本経済入門 B	2学期	1	2	
	ECN151M 休講	1年			
金融論 I	1学期	2	2		
ECN260M 未開講	2年				
金融論 II	2学期	2	2		
ECN261M 未開講	2年				
国際経済論 I	1学期	2	2		
ECN240M 未開講	2年				
国際経済論 II	2学期	2	2		
ECN241M 未開講	2年				
国際金融論 I	1学期	3	2		
ECN363M 未開講	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門科目	国際金融論II ECN364M 未開講	2学期	3	2	
		3年			
	地域経済I ECN244M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	地域経済II ECN245M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	経済地理学I ECN242M 未開講	1学期	2	2	
		2年			
	経済地理学II ECN243M 未開講	2学期	2	2	
		2年			
	財政学I ECN361M 未開講	1学期	3	2	
		3年			
	財政学II ECN362M 未開講	2学期	3	2	
		3年			
	環境経済学 ECN340M 未開講	1学期	3	2	
		3年			
	マネジメント論基礎 BUS111M 遠藤 雄二	2学期	1	2	212
		1年			
	企業論基礎 BUS110M 中間 信博	2学期	1	2	213
		1年			
簿記論I ACC110M 池口 慶一	1学期	1	2	214	
	1年				
簿記論II ACC111M 昼のみ開講科目	2学期	1	2		
	1年				
経営統計 MTH150M 昼のみ開講科目	2学期	1	2		
	1年				
情報デザイン INF103M 佐藤貴之/地域創生	2学期	1	2	215	
	1年				
プログラミングI INF110M 昼のみ開講科目	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	プログラミングII (新JAVA)	1学期	2	2	
	INF210M 未開講	2年			
	コンピュータシステム	1学期	2	2	
	INF220M 未開講	2年			
	財務会計論I	1学期	2	2	
	ACC214M 未開講	2年			
	財務会計論II	2学期	2	2	
	ACC215M 未開講	2年			
	経営戦略論	2学期	2	2	
	BUS213M 未開講	2年			
	データ構造	2学期	2	2	
	INF231M 未開講	2年			
	データベース	1学期	2	2	
	INF232M 未開講	2年			
	Webプログラミング	2学期	2	2	
	INF212M 未開講	2年			
	人的資源管理論	2学期	3	2	
	BUS310M 未開講	3年			
	中小企業論	1学期	3	2	
	BUS313M 未開講	3年			
企業データ分析	2学期	3	2		
INF341M 未開講	3年				
オペレーションズ・マネジメント	1学期	3	2		
INF200M 未開講	3年				
情報ネットワーク	1学期	3	2		
INF320M 未開講	3年				
情報経営	1学期	3	2		
BUS316M 未開講	3年				
システム分析	1学期	3	2		
INF340M 未開講	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門科目	システム設計 INF420M 未開講	2学期	3	2	3年	
	現代社会と福祉 1 SOW100M 河嶋 静代	1学期	1	2		216
	現代社会と福祉 2 SOW101M 坂本毅啓/地域創生	2学期	1	2	1年	217
	相談援助の基盤と専門職 1 SOW260M 坂本毅啓/地域創生	1学期	1	2	1年	218
	相談援助の基盤と専門職 2 SOW261M 坂本毅啓/地域創生	2学期	1	2	1年	219
	社会調査の基礎 SOW290M 未開講	1学期	2	2	2年	
	地域福祉の理論と方法 1 SOW210M 未開講	1学期	2	2	2年	
	地域福祉の理論と方法 2 SOW211M 未開講	2学期	2	2	2年	
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 SOW223M 未開講	1学期	2	2	2年	
	高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 未開講	1学期	2	2	2年	
	高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 未開講	2学期	2	2	2年	
	障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 未開講	1学期	2	2	2年	
	相談援助の理論と方法 1 SOW262M 未開講	1学期	2	2	2年	
	相談援助の理論と方法 2 SOW263M 未開講	2学期	2	2	2年	
	相談援助の理論と方法 3 SOW264M 未開講	1学期	2	2	2年	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門科目	社会保障	2学期	2	2	2年
	SOW240M 未開講				
	低所得者に対する支援と生活保護制度	2学期	2	2	2年
	SOW241M 未開講				
	人体の構造と機能及び疾病	1学期	2	2	2年
	SOW231M 未開講				
	保健医療サービス	1学期	2	2	2年
	SOW230M 未開講				
	福祉行財政と福祉計画	1学期	2	2	2年
	SOW242M 未開講				
	福祉サービスの組織と経営	2学期	2	2	2年
	SOW251M 未開講				
	権利擁護と成年後見制度	1学期	2	2	2年
	SOW250M 未開講				
	就労支援サービス	1学期	2	2	2年
	SOW243M 未開講				
	更生保護制度	2学期	2	2	2年
	SOW244M 未開講				
	心理学概論	2学期	1	2	1年
	PSY100M 休講				
発達心理学	1学期	2	2	2年	
PSY222M 未開講					
老年心理学	2学期	2	2	2年	
PSY213M 未開講					
教育心理学	2学期	2	2	2年	
PSY220M 未開講					
対人心理学	1学期	3	2	3年	
PSY211M 未開講					
臨床心理学	1学期	3	2	3年	
PSY230M 未開講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門科目	カウンセリング論 PSY232M 未開講	2学期	3	2	3年	
	心理療法論 PSY231M 未開講	2学期	3	2	3年	
	コミュニケーション論 PSY212M 未開講	1学期	3	2	3年	
	リハビリテーション論 HSS330M 未開講	1学期	3	2	3年	
	観光社会学 SOC216M	1学期	1	2	1年	220
	フィールドワーク論 ANT212M 未開講	集中	2	2	2年	
	ボランティア活動論 RDE111M 昼のみ開講科目	1学期	1	2	1年	
スポーツ指導論 HSS110M 昼のみ開講科目	1学期	1	2	1年		
障害者スポーツ指導論 HSS120M 昼のみ開講科目	2学期	1	2	1年		
スポーツ・ボランティア指導論 HSS101M 昼のみ開講科目	2学期	1	2	1年		
スポーツ心理学 HSS221M 未開講	1学期	2	2	2年		
スポーツ・ボランティア各論 HSS200M 未開講	1学期	2	2	2年		
コミュニティスポーツ論 HSS220M 未開講	2学期	2	2	2年		
障害者スポーツ各論 HSS224M 未開講	2学期	2	2	2年		
スポーツ産業論 HSS222M 未開講	2学期	2	2	2年		

地域創生学群 地域創生学類 (2013年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門科目	身体適応論	1学期	3	2	
	HSS231M 未開講	3年			
	身体スポーツ論	2学期	3	2	
	HSS210M 未開講	3年			
	健康科学	2学期	3	2	
	HSS230M 未開講	3年			
	トレーニング論	1学期	3	2	
	HSS223M 未開講	3年			

歴史と政治【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から1970年代までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説します。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近現代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【木戸孝允】【大久保利通】【西郷隆盛】
- 第3回 明治憲法と自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【桂太郎】
- 第8回 憲政の常道【浜口雄幸】【田中義一】
- 第9回 満州事変【関東軍】
- 第10回 日中戦争【軍部】【近衛文麿】
- 第11回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第12回 敗戦と戦後改革【マッカーサー】【吉田茂】
- 第13回 55年体制と日米安保【吉田茂】【鳩山一郎】【岸信介】
- 第14回 高度経済成長【池田勇人】【佐藤栄作】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。本講義は、A文化とB文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

- 第I部 文化の基礎としての家族
- 第2回 家族は普遍的な概念か？
- 第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える
- 第4回 近代家族 / 伝統的家族？
- 第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張
- 第6回 ジェンダーと文化
- 第7回 伝統について：構築主義と本質主義
- 第8回 文化相対主義の考え方
- 第9回 中間試験

- 第II部 文化と世界観
- 第10回 現代社会における儀礼の役割
- 第11回 不幸への対処と文化
- 第12回 宗教紛争と日常の中の宗教
- 第13回 中間試験の講評 / 呪術・占いとリスク社会① 呪術とは
- 第14回 呪術・占いとリスク社会② 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。
※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

異文化理解の基礎【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目に見えて余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語をはじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【昼】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ウェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(成績評価法・授業上の注意など)
- 2回 歴史的概説【市民革命と産業革命】
- 3回 近代とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 4回 近代とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 5回 近代とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 6回 近代とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 7回 近代とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語に対しては断固とした措置をとる。甚だしい場合には退席を命じる。

内容としては1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかしながら、学期末に実施する試験はかなり難度の高いものである。とりわけ「高校世界史」を学習していない者が本授業の単位を取得するには、人一倍の努力と学習意欲が要求されることになるだろう。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

日本の防衛【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-3回 安全保障と防衛
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム、安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力)ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協力法について、主な取組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

1回程度は、自衛官(高級幹部)をゲストで招き、講演してもらう予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物はどのような物質からできていて、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では生命を物質的な側面からとらえ、生きているということについて科学する。また、生物多様性の大切さ、多様性と進化の原動力となった突然変異とその影響について学ぶ。また、生命と環境がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「文系のための生命科学 第二版」 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)
 - 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)
 - 「生物と無生物のあいだ」 福岡伸一著 2007年(講談社)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ミクロとマクロの世界【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ【全球凍結】
- 7回 生物の分類と系統【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性【有性生殖】【染色体】【細胞分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線【放射性同位元素】【確率的影響】
- 11回 科学と似非科学【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト20点x3回、期末レポート30点、積極的な授業への参加10点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自然科学系科目が苦手な者も歓迎します。高校の教科書や参考書等を入手し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んでください。興味がある者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【昼】

担当者名
 /Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合い適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』 (浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、情報漏洩、著作権問題】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト、文字コード】
- 4回 コンピュータを構成するもの【CPU、メモリ、記憶メディア、キーボード、マウス、ディスプレイ】
- 5回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション】
- 6回 電話網とインターネットの違い【回線、パケット、LAN、IPアドレス】
- 7回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 8回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 9回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 10回 自分を守るための知識【暗号化、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 11回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 12回 集合知の可能性とネットワークサービス【Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 13回 著作権をめぐる攻防【著作権、オープンソース、クリエイティブコモンズ】
- 14回 大規模データがもたらすもの【検索エンジン、データベース、データマイニング】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
 日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

本講義では「自然環境を保護する」という考え方や行為に対し、正しい理解を身に着けることを目的とする。
具体的には以下の5つの論点を提示し、詳細な解説を行うことによって、環境問題と向き合う際に必要となる基礎的知識の充足を目指す。

1. 現代社会における自然とのかかわり方について - 自然と人間の共生を考える -
2. 自然環境保護活動の歴史 - 人間はどのように自然を守ってきたか -
3. 環境問題の解決に向けて - 自然環境を守っていくための考え方 -
4. 具体的事例への言及 - 白神山地の保護をめぐる論争 -
5. 現代社会における自然環境保護とは - 我々にできることは何か？を考える -

教科書 /Textbooks

『自然保護を問い直す—環境倫理とネットワーク』（鬼頭秀一 著）ちくま新書 ¥760+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『環境問題とは何か』（富山和子 著）PHP新書 ¥660+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人間と自然との共生とは何か
- 第3回 自然を支配しようとする人間 - 人間中心主義という考え方 -
- 第4回 自然の権利とは何か - 動植物にも生きる「権利」があるのか？ -
- 第5回 「宇宙船地球号」と「共有地（コモンズ）の悲劇」について
- 第6回 ディープ・エコロジーとは何か - 人間と自然は本当に対立するのか？ -
- 第7回 自然の価値とは何か - なぜ、人間は自然を守らなければならないのか？ -
- 第8回 小テストとその解説
- 第9回 「生業」と「生活」の視点から環境問題を考える
- 第10回 遊び・仕事・分配の営みが自然環境を守る
- 第11回 白神山地の保護をめぐる論争
- 第12回 世界自然遺産指定をめぐる春秋林道の問題
- 第13回 地域社会は「よそ者」にどう対処すべきか
- 第14回 現代社会において、我々ができる環境保護活動とは何か
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：30%、日常の授業への取り組み：20%、学期末試験：50%
(※なお、小テストを未受験者は、学期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

大学での学び方入門：
本演習では、大学での勉強の仕方の基礎を学びます。最終的には、文献を読んで自分の考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことを目指す。前半では、現代社会とまちづくり、職業に論じているテキスト『商店街はなぜ滅びるのか』の批判的読解を試みることを通して、レジュメの作りかた、論点の見つけ方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養う。後半では、自分で関連する文献をさらに探して、2000字程度のレポートを書くプロセスを報告しながら、受講者とともにより完成度の高いレポートの作成を目指す。

教科書 /Textbooks

新雅史2012『商店街はなぜ滅びるのか：社会・政治・経済史から探る再生の道』光文社。
北九州市出身の社会学者が執筆した新書です。地域社会や小売業の歴史に興味がなくとも読めますが、興味があればより楽しく読めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』 慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』 専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：大学の授業とは
- 第2回 大学における本の読みかた・探し方
- 第3回 レジュメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論 テキスト：『商店街はなぜ滅びるのか』
- 第5回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論
- 第8回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第9回 テーマの見つけかた・レポートの書きかた
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 レポート構想報告
- 第14回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第15回 文章のブラッシュアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、積極的な発言など)50%
(第14回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。)
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。4月の段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・出席者の報告を重視するので、人数が多すぎる場合、受講制限をします。したがって、第1回目の授業は必ず出席してください。
- ・教養基礎演習IIも継続して受講することが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。ですが、演習の準備に時間がかかることは嫌がらないでください。現代社会や地域社会に関する問題に興味のある学生の受講を歓迎します。

キーワード /Keywords

レポートの書き方、問題意識の発見、レポート作成

教養基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。尚、本演習では野外活動特に「キャンプ」実習に力を入、学内では経験できない「レクリエーション種目」なども多数実践していきます。キャンプ実習に参加できない学生については単位認定ができない場合がありますので注意してください。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 グループディスカッション (1)
- 2回 グループディスカッション (2)
- 3回 グループディスカッション (3)
- 4回 グループゲーム (1)
- 5回 グループゲーム (2)
- 6回 自分自身を理解する
- 7回 自分自身を人に理解させること
- 8回 人を理解すること
- 9回 集団で克服していくトレーニング
- 10回 キャンプのオリエンテーション (1)
- 11回 キャンプのオリエンテーション (2)
- 12回 キャンプのオリエンテーション (3)
- 13回 キャンプのオリエンテーション (4)
- 14回 キャンプのオリエンテーション (5)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する。
キャンプ実習は別途実習費 (約 4000円) かかりますので注意してください

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習I【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この演習では、大学における学習や研究の方法を身につけることを目的とする。環境問題をテーマとして取り上げ、受講者の①レジュメ作成能力、②プレゼンテーション能力、③学術的コミュニケーション能力(対話・議論)の向上を目指す。

教科書 /Textbooks

富山和子(2001)『環境問題とは何か』PHP新書

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○大江正章(2008)『地域のカー・食・農・まちづくり』岩波新書
その他、必要に応じて授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業内容についての紹介(イントロダクション)
- 第2回：学習法：レジュメの作成方法・プレゼンテーション方法について
- 第3回：環境問題についての考え方について
- 第4回：テキストの輪読①
- 第5回：テキストの輪読②
- 第6回：テキストの輪読③
- 第7回：テキストの輪読④
- 第8回：テキストの輪読⑤
- 第9回：テキストの輪読⑥
- 第10回：テキストの輪読⑦
- 第11回：テキストの輪読⑧
- 第12回：レポートを書く際の考え方とその方法
- 第13回：プレ・レポート報告会
- 第14回：プレ・レポート報告会
- 第15回：プレ・レポート報告会+まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への貢献度(積極的発言・報告姿勢等)：40%
最終レポート：60%

(※最終レポートとは、第13回～第15回において各自の関心において作成したレポートに対し、参加者から寄せられた批判や修正点等をふまえ、改善をした上で学期末に提出するレポートである。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業には予めテキスト、ならびに事前に配布されるレジュメを精読してのぞむこと。

履修上の注意 /Remarks

原則として、後期に開講する「教養基礎演習II」とセットで履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、自分の考え方や意思を的確に相手に伝えることができるようになることを目指す。これは就職活動や社会に出ても必要な能力である。受講者の積極的な参加を望む。

教養基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

大学における学習方法、レジюме・レポート作成、コミュニケーション能力の向上

教養基礎演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2013年度入学生(新1年生)は、必ず、同じく1学期に開かれているビジョン科目「日本の防衛」とセットで受講すること。

【注意②】2012年度以前入学の新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「演習All(防衛セミナー)」とセットで履修すること。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官(陸海空、尉官・佐官クラス)をほぼ毎回招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。また、2回のバスハイクを予定しており、海上自衛隊佐世保基地での護衛艦体験搭乗、航空自衛隊築城基地の見学などを行う(予定)。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(戸蒔)
- 2回~14回 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。また、上述の通り、2回はバスハイクの予定。そして1回は、隣にある陸上自衛隊小倉駐屯地の見学を行う予定。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義は、株式会社スターフライヤーの協力を得て開講します。将来、社会人として求められる能力、特に対人接点を必要とする仕事に必要なコミュニケーション能力やホスピタリティについて学びます。航空業界、百貨店・小売業界、ホテル業界、ブライダル業界等を目指す学生にとって役に立つ講義です。

この講義を開講する理由は大きく三つあります。一点目は、昨今の企業が求める人材要件として、コミュニケーション能力が重視されていることです。単に同質な人との接点ではなく、多様な方々と円滑なコミュニケーションが取れることが求められています。二点目は、コミュニケーションやホスピタリティに関するスキル獲得だけでなく、それらを発揮するための素養を育む必要性があるからです。三点目は、上にあげた業界に就職したいと考えている学生にとってのチャンスを拡大するためです。

このような理由から、常に最高の接客コミュニケーションが求められるキャビンアテンダント教育の要素を取り入れたいと考え、株式会社スターフライヤーに協力をいただきます。日々業務を行っている実務家の講義は、現場に即した実践的な学びを学生の皆さんに提供します。

教科書 /Textbooks

授業開始時に説明します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始時に説明します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 コミュニケーションとは？(1)【エアラインでの実例をもとに考察する】
- 3回 コミュニケーションとは？(2)【エアライン等、対人職において求められる人物像の考察】
- 4回 コミュニケーションとは？(3)【コミュニケーションスキル他】
- 5回 コミュニケーションとは？(4)
- 6回 マナーとホスピタリティ(1)【ホスピタリティの意味～今なぜホスピタリティなのか？】
- 7回 マナーとホスピタリティ(2)【ホスピタリティマインドとアクション】
- 8回 マナーとホスピタリティ(3)【ホスピタリティ溢れるポジティブマナーとは】
- 9回 マナーとホスピタリティ(4)
- 10回 コミュニケーション&マナー実践(5)【対人職に求められるコミュニケーションスキル実践】
- 11回 コミュニケーション&マナー実践(6)
- 12回 コミュニケーション&マナー実践(7)【サービス適正確認 実践(ロールプレー)】
- 13回 コミュニケーション&マナー実践(8)【苦情/クレームについて考える】
- 14回 コミュニケーション&マナー実践(9)【面接におけるマナー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% レポート...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

指定回スーツを着用しての受講となります。

履修上の注意 /Remarks

クラス定員を30名程度としますので、履修希望者多数の場合は抽選とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主として客室乗務員研修(ホスピタリティ/サービス実践等)を軸に対人職に求められるパーソナリティや接客スキルを学び磨いていく講義です。
「生」、「現場」の情報をお届けしますので、客室乗務員やグランドスタッフ、ホテルコンシェルジュ等高い接客スキルが求められる職業を将来希望される学生にぜひ受講して頂きたいと思っております。

キーワード /Keywords

コミュニケーション、ホスピタリティ、エアライン、ブライダル、ホテル

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

考えを深める訓練：
教養基礎演習Iの続きとして、一つのテーマについて考えを深める訓練を行います。レポートが書けることと、内容の濃い (=評価される) レポートが書けることは違います。
具体的には、教養基礎演習Iのレポートをもとに、受講者同士の問題関心に近いテキストをディスカッションを通して、各自のテーマをより掘り下げ、課題発見能力を養う。その成果を活かし、学期末にはまとまった分量の程度のレポートを書くことを目指す。この演習を通して、他の人の考えにコメントをつける、人からもらったコメントを活かす力を身につけることをめざし、問題の本質を探る能力、すなわち生涯にわたって役立つ基礎的な探求能力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教養基礎演習Iのレポート提出者の興味関心にあわせて第1回目の演習で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤望ほか(編) 2006 『アカデミック・スキルズ』慶應大学出版会
- 専修大学出版企画委員会(編) 2009 『知のツールボックス』専修大学出版会
- 白井利明・高橋一郎 2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマを決めて文章を書くとはどういう事か？今学期のテキストについて
- 第2回 考えと深めるにはどうしたらいいか？：教養基礎演習Iのレポートの講評と反省
- 第3回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第4回 テーマを深めるための議論のしかた
- 第5回 テキスト輪読と議論
- 第6回 テキスト輪読と議論
- 第7回 テキスト輪読と議論
- 第8回 テキスト輪読と議論
- 第9回 レポート構想報告
- 第10回 レポート構想報告
- 第11回 レポート構想報告
- 第12回 レポート構想報告
- 第13回 文章を推敲する：レポート相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップのために
- 第15回 報告会と演習のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、授業貢献(報告内容、演習中の発言、その他の提出物など)50%
レポートについては教養基礎演習Iのレポートからの発展性を評価する。
ただし、報告者の無断欠席は厳しく減点します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

レポートは大変ですが、それは書く時間がかかるのではなく、それまでの準備に時間がかかります。本を探し、読む時間を計算に入れて準備しましょう。

履修上の注意 /Remarks

原則として教養基礎演習Iを受講した者を対象とします。ですが、レポートは書けるけれど、いい(評価される?)レポートとはどんなものか意欲的に考えてみたい方は教養基礎演習IIのみ受講しても構いません。自分がどのようにものに興味関心があるか考えをまとめて第1回目の授業に来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期は基本的な書き方を学ぶのに対し、2学期はより完成度の高いレポートを書くために、自分の意見を説得力をもって話し、議論することも重視します。積極的な発言を心がけてください。

教養基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

議論、多角的視野、説得力のあるレポート

教養基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

学生としての心構えや厳しい社会へ踏み出す前段階としての「人間力」・「社会力」などのスキルの獲得が非常に重要なことと考える。そこで本演習では、共同生活を伴った野外活動体験や冒険教育の理論をもとに構築されたレクリエーション活動などによる人間関係トレーニングを行う。その中で、自己を見つめ直し、他人への配慮やコミュニケーション能力などの強化を目指す。本演習においては、演習Iを踏まえ、自然克服型である「スキー」を実施する。「スキー」等において学内では経験できないスポーツ活動を体験し、さらに集団スポーツで求められるチームワークやコミュニケーション能力の強化を目指します。キャンプ実習同様実習の参加ができないときは単位の認定ができない場合がありますので注意してください。実習は実費です。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自分自身を理解すること
- 2回 自分自身を人に理解させること
- 3回 人を理解すること
- 4回 集団で克服していくトレーニング
- 5回 ビデオによるスキー技術の習得 (1)
- 6回 ブルークターン (2)
- 7回 パラレルターン (3)
- 8回 ウデルン (4)
- 9回 学生自身によるスキー計画 (1) 場所
- 10回 学生自身によるスキー計画 (2) 期間
- 11回 学生自身によるスキー計画 (3) 金額
- 12回 学生自身によるスキー計画 (4) グループ分け
- 13回 スキープログラムの作成 (1)
- 14回 スキープログラムの作成 (2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度 ... 70% レポート ...30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡します。
 スキー実習は別途実習費が必要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

この演習では、調査やフィールドワークをするための基礎的な能力を身につけることを目的とする。環境問題やコミュニティ問題などの地域社会が抱える問題の多くは、1つの学問分野では解決することが困難な複合的要因によって発生している。そのため、その解決策を模索する際には、地域社会に出て実際に調査することが必要である。「他地域の事例から学ぶ」または「地域の人々から学ぶ」という学習方法・姿勢の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

『成功する！「地方発ビジネス」の進め方』（島田晴雄＋N T Tデータ経営研究所 著） ¥1,600＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宮本常一・安溪遊地（2008）『調査されるといふ迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』みずのわ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容についての紹介（イントロダクション）
- 第2回 テキストの輪読① 【生活に関するサービスで地域ビジネスを展開する】
- 第3回 テキストの輪読② 【自動車はもういらない！！地域交通サービスを考える】
- 第4回 テキストの輪読③ 【高齢化社会におけるコミュニティ・コンシェルジュ】
- 第5回 テキストの輪読④ 【成功する！！コミュニティ・ビジネス】
- 第6回 テキストの輪読⑤ 【地域資源を生かしたヘルスケアビジネス - 地域社会を健康に保つことが活性化に繋がる - 】
- 第7回 テキストの輪読⑥ 【コミュニティ・ビジネスの場としての商店街を考える】
- 第8回 テキストの輪読⑦ 【地域ブランドによるまちおこし】
- 第9回 テキストの輪読⑧ 【地域に住む！！という視点から考えるコミュニティ・ビジネス】
- 第10回 総合討論（北九州地域におけるコミュニティ・ビジネスの可能性を探る）
- 第11回 フィールドに出る前に身につけておく基礎知識について①
- 第12回 フィールドに出る前に身につけておく基礎知識について②
- 第13回 調査されるといふ迷惑について考える①
- 第14回 調査されるといふ迷惑について考える②
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の達成度：50%

授業への貢献度（積極的発言・報告姿勢等）：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

演習とは、議論する時間・場である。そのため、議論するために必要な知識や資料は事前に各自で準備する必要があることを理解してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者には1年次である程度、興味・関心のあるテーマを自分で見つけることを目指してほしい。春季休業中に実際に「地域社会」に出て調査を行うことが望ましい。

キーワード /Keywords

教養基礎演習II (防衛セミナー) 【昼】

担当者名
/Instructor

戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。1、2、3年生合同のゼミ(少人数・対話型)として、我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

【注意①】2012年度以前に入学したの新2年生以上は、必ず、同じく1学期に開かれている「教養基礎演習I」とセットで受講すること。

【注意②】新1年生(2013年度入学生)は、この科目と並行して「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修した方が理解が増す。なお、「教養基礎演習I(防衛セミナー)」を履修せずに、この科目のみを履修しても、あまり利益はない。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。

この授業では、実際に自衛官を招聘する「教養基礎演習I」を補完するために、戸蒔が『防衛白書』等を用いて各ポイントの解説をする。防衛問題についてほとんど知識がない者から、多少の知識のある者までを想定し、わかりやすく解説する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス(戸蒔)

2回~14回 この授業は、各回の「教養基礎演習I」の内容に備えるための事前勉強という側面が強いので、「教養基礎演習I」のスケジュールと連動している。現段階で「教養基礎演習I」のゲストが調整中であるため、ここにスケジュールの詳細を明記することはできない。当面の予定は、概説、『防衛白書』『防衛計画の大綱』などの解説、ビデオ観賞などである。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

準備などは特に必要ない。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のすすめ」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

自然環境と人間の営みに対する総合的な理解をすることが達成目標となる

教科書 /Textbooks

- 『風の谷のナウシカ』1-7宮崎 駿

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イルカとナマコと海人たち』NHKブックス
「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
「自然学の未来」黒田末寿

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
 - 第1講 「今西錦司と自然学」
 - 第2講 「私とあなたの自然学」
 - 第3講 「バックミンスターフラーと自然学」
 - 第4講 「海と人の自然学1：沖縄の海人たち」
 - 第5講 「海と人の自然学2：ソロモンの海洋民たち」
 - 第6講 「海と人の自然学：軍艦島を考える」
 - 第7講 「風の谷のナウシカの自然学」
 - 第8講 「人の進化と自然学」
- 岩松
 - 第9講 人々はどのように自然に親しんできたか(旅と観光)
 - 第10講 人々はどのように自然を観てきたか(森林風景)
 - 第11講 人々はどのように自然を利用してきたか(木と竹の文化史)
 - 第12講 人々はどのように自然を利用していけるか(竹産業と生態技術)
 - 第13講 人々はどのように自然の中で暮らしているか(木造民家の生活)
 - 第14講 日本人と森林の関係にはどのような特徴があるか(中国・台湾との比較)
 - 第15講 第九講～第十四講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
 - 講義で紹介するさまざまな活動に参加する・・・15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える・・・15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く・・・20%
- (岩松)
 - 小レポート...25% 試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自然学のまなざし【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。

履修上の注意 /Remarks

講義は教室の中だけでは終わりません。
そんなつもりで受講して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学のもっとも大学らしい自由な講義を心がけています。
教えられるのではなく覚えるのでもなく、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

地球の生いたち【昼】

担当者名 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書等を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科, 中島 俊介 / 基盤教育センター
 齋藤 朗宏 / Akihiro SAITO / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人の取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

現代人のこころ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
心理学に対する誤解
- 第2回 心理学の研究法
心理学は科学である。【実験】【観察】【調査】
- 第3回 著名な心理学研究
人は命じられれば人を殺すのか？【ミルグラム実験】【スタンフォード監獄実験】【スモールワールド実験】
- 第4回 他分野との繋がり
心理学者はノーベル賞を取れるのか？【行動経済学】【人間工学】【プロファイリング】
- 第5回 人間の発達の心理学
人間の心理的な発達について学ぶ。主な発達理論の紹介と概念の説明。特に生涯発達の視点から人生を俯瞰する。【生涯発達】【エリクソンの発達論】
- 第6回 感情はコントロールできるか
精神の働き、「知・情・意」のなかの「情」を取り上げる。日常問題となる感情のさまざまを上手にマネジメントできるかなどを考えたい。【感情の法則】【3大陰性感情】
- 第7回 幸せの人間関係を求めて
私たちの悩みの多くは人間関係の悩みである。良好な人間関係を構築するためには何が大切か。どのようなスキルが望まれるかなどを学ぶ。【積極的傾聴法】【私メッセージ】
- 第8回 知覚の世界
人はどのように外界世界を知覚しているのか。【錯視】【体制化】【興行き知覚】
- 第9回 記憶のしくみ
人間の記憶の貯蔵のしくみ。【感覚記憶】【短期記憶】【長期記憶】
- 第10回 記憶の保持と変容
どのようにすれば記憶しやすいのか。【処理水準】【スキーマ】【偽記憶】
- 第11回 学習のメカニズム
条件づけによる学習のメカニズム。【古典的条件づけ】【オペラント条件づけ】
- 第12回 学習の生物学的制約
生物であるために生じる学習の特別な形。【ガルシア効果】【刻印づけ】
- 第13回 社会的影響
人の判断は社会からどのような影響を受けるのか。【同調】【規範】【説得】
- 第14回 コンピュータは心を持つか
人と同じような知能や心を持つコンピュータやロボットは実現できるのか？【人工知能】【ロボット】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 ... 50% 課題(レポート) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

とくにありません。

履修上の注意 /Remarks

北方ひびきの連携科目になっています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 森永 今日子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

心理学というと、まずイメージされるのが「カウンセリング」というのが一般的です。カウンセリングは心理学の大切な一分野ですが、実は心理学のごく一部分に過ぎません。心理学は人間の一般的傾向（良い側面、悪い側面の両方）を、実験や調査などで客観的に把握し、日常生活や仕事などに応用することができる学問です。

人間は大きな可能性を持つとともに、弱くて不完全な存在です。それを受け入れ（自分についても他人についても）、問題が生じないように工夫をするために、心理学を活用してみましょう。そのためには、心理学の研究がどのように行われ、何が明らかにされているかという基礎的な理論を学び、考える力が必要です。自分の行動や気持ち（自分の中・誰かに対して・集団の中で）を振り返り、心理学の理論と照らし合わせて考えてみましょう。講義の大枠は暫定的に作っていますが、毎回終了時に感想や質問などのコメントを提出してもらい、それをもとに次回講義を展開していきます。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 【心理学的に効果のあるガイダンス】 担当者の心理学や大学教育に対する考え方、講義の狙いや内容やルールとそれらの根拠を紹介し、良いコミュニケーション関係を作るための準備について心理学的に説明します。
- 2回 【人の心の一般的傾向と多様性】 心を理論で捉えるとはどういうことか？心をどうやって測定するか？について学びましょう
- 3回 【コミュニケーションを共有という概念から紐解く】 「わからない」「わかってもらえない」ということはなぜ起きるのか、なぜわかるのか？コミュニケーションを「共有」という概念から心理学的に紐解いてみましょう。
- 4回 【人から相談されてうまく答えられないという悩みに】 相談というコミュニケーションにはどんな機能や効果があるのか？そもそもどうして人に相談したくなるのか？相手の問題解決を支援し心を軽くするのに役立つヒントについて心理学の理論で考えていきましょう。
- 5回 【ネットワークの中の私】 私たちはたくさんの人とコミュニケーションし、支え合って暮らしています。そこから得られるもの、一方で人とのやり取りで感じるストレスについて、ソーシャルサポート理論から学び考えましょう。
- 6回 【自分らしさのなりたち】 「私って何？」という疑問に、心理学はどこまで答えられるのでしょうか。「自分らしさ」を性格理論で紐解いて、「血液型と性格は関係あるのか？」ということについて考えましょう。
- 7回 【今ここにある私はどうやって私になったか】 これまでの人生を振り返るワークを通じて、人が成長する過程と体験するもの、得られるもの、どうしても起きる苦しみについて、発達心理学の視点から学び考えましょう。
- 8回 【「やる気」がなげりや「その気」にさせる】 「やる気」はどこから来るのか？やる気がない時、やる気のない人にどんな工夫をして「その気」にさせるのか、動機づけ理論から学び考えてみましょう。
- 9回 【人は思い込み、とらわれる】 購入した商品の口コミを確認したことはありませんか？都合の良い情報ばかり集め、都合の悪い情報をシャットダウンしてしまう心について心理学の理論で学び考えてみましょう。
- 10回 【偏見はなぜ起きる？】 偏見は「ワカラナイ」ものから自分を守るために発生してしまいます。自分の中にある偏見に向き合って、なぜそれが生まれるのか、偏見解消に何が有効か心理学的に考えましょう。
- 11回 【心の揺らぎと痛み】 健やかな心とはどんな状態なのか？心が揺れるのはどんな時なのか？健やかな心を保つためにはどんな工夫ができるのかについて学び考えましょう。
- 12回 【集団の中の自分】 私たちは様々な集団に属し、それに大きな影響を受けて生活しています。自分の心や行動への集団の影響について、集団で話し合いをするとどんなことが起きるのか、実験を体験して集団の理論から考えてみましょう。
- 13回 【組織事故-なぜ起きるのか？どうやったら防げるのか？】 様々な産業組織での事故は、個人の問題だけでなく、人との関わりの中で発生します。事例分析を通じて、なぜ事故が起きるのか、防ぐためにはどうすれば良いのか、を心理学理論を使って考えましょう。
- 14回 【言いたいことを言えていますか？】 日常の対人関係において、言いたいことを言えなくて苦しくなったこと、「言えば良かった」と後悔したことはありませんか？言いたいことを言えない気持ち、どうやったらうまく言えるかについて、心理学的に学び考えましょう。
- 15回 まとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代人のこころ【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語は他の受講生への迷惑行為なので厳禁です。※2回目の注意で退席してもらいます。
評価は、試験の結果のみで行います。
試験は、全て持ち込み可とします。
講義で行ったこと、話したことは、全て試験の範囲に含まれます。(含まれないもの、雑談などは先に「これは試験に関係のないことですが」と断ります)
欠席した場合は、配布物やノートを次の講義までに手に入れ、次の講義に差し障ることのないようにしてください。理解できない理由や配布資料を揃えていない理由に、「休んでいたから」という言い訳は通用しません。
その他、評価や試験に関することを講義中に話したり、掲示したりします。「聞いていません。知りません」という言い訳は通用しません。

履修上の注意 /Remarks

前年度単位取得率: 57% (受講者92名)
S: 6名(7%) A: 22名(23%) B: 12名(13%) C: 19名(21%) D: 19名(21%) -: 14名(15%)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間と生命【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約60兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。それぞれの遺伝子はどのような働きをし、何をどこまで決めているのだろうか。遺伝子に傷がつくと細胞や個体にどのようなこと引き起こされるのだろうか。また、細胞が作る社会とはどのようなもので、個体はどのように成り立っているのだろうか。人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 文系のための生命科学 第二版 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011(羊土社)
 - 「こころ」は遺伝子でどこまで決まるのか 宮川剛著 2011年(NHK出版新書)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 細胞は何からできているか【タンパク質】【核酸】【糖】【脂質】
- 3回 個体はどのようにつくられるか【発生】【分化】
- 4回 細胞はどのように増えるか【細胞増殖】【細胞死】
- 5回 生命活動の主役・タンパク質【酵素】
- 6回 遺伝子とは何をやるものか【遺伝暗号】【アミノ酸】
- 7回 遺伝子が働くしくみ【遺伝子発現】【RNA】
- 8回 遺伝子で決まるもの・決まらないもの【ゲノム】【体質】
- 9回 細胞と個体の寿命【染色体】【テロメア】
- 10回 細胞にとっての情報【受容体】【ホルモン】
- 11回 細胞社会の反逆者【がん細胞】【がん遺伝子】
- 12回 万能細胞とは何か【ES細胞】【iPS細胞】
- 13回 体を守るしくみ【免疫】【抗体】【細菌】【ウイルス】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加10%、確認のための小テスト(2~3回実施)60%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校で生物を履修していなかった者は参考書を入手して備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、行政・企業・NPO・マスコミ等の実務担当者を招へいし、様々な視点から北九州の環境を学習する。また、「環境首都検定」を受験し、市民の立場に立って環境に対する取り組みを幅広く学習する。さらに、環境関連施設（環境ミュージアム、エコタウンなど）を見学し、その体験を講義での学習につなげる。

この授業の主な到達目標は以下の通り。

- ① 環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。
- ② 環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。
- ③ 卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～
- 3回 北九州における環境問題
- 4回 北九州における環境政策
- 5回 北九州の自然・生態系
- 6回 環境問題とソーシャルビジネス
- 7回 環境問題と市民の関わり
- 8～9回 環境関連施設見学①
- 10回 環境問題とジャーナリズムの役割
- 11～12回 環境関連施設見学②
- 13回 北九州の環境経済
- 14回 環境問題と企業の取り組み
- 15回 環境都市としての北九州

成績評価の方法 /Assessment Method

授業回数の3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とする。環境首都検定受検および2回の施設見学参加は原則必須とする。環境首都検定の成績(40%)、施設見学および期末レポート(30%)、授業への参加度・授業中の課題など(30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

環境首都検定は12月15日(日)、施設見学は①環境ミュージアム(12月1日(日))、②エコタウン(11月20日(水)午後)を予定しているが、変更の可能性もある。スケジュールに注意すること。環境ミュージアムおよび首都検定会場までの交通費は自己負担とする。定員は200名とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor
 龍 有二 / Yuji RYU / 建築デザイン学科 (19~), 天野 史章 / Fumiaki AMANO / エネルギー循環化学科 (19~)
 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~), 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科
 泉 政明 / Masaaki IZUMI / 機械システム工学科 (19~), 吉山 定見 / Sadami YOSHIYAMA / 機械システム工学科 (19~)
 松永 良一 / Ryoichi MATSUNAGA / 機械システム工学科, 西 隆司 / Takashi NISHI / 情報メディア工学科
 宮下 弘 / Hiroshi MIYASHITA / 情報メディア工学科, 高峯 幸二 / Koji TAKASU / 建築デザイン学科 (19~)
 高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~), 赤川 貴雄 / Takao AKAGAWA / 建築デザイン学科
 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所, 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)
 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

環境問題は人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する(オムニバス形式)。具体的なトピックは、バイオマスなどの新エネルギーや環境調和型材料の開発、高効率で安全な水・廃棄物処理技術、エネルギー効率及び資源効率を高めるための環境設計・製品開発、豊かで安全・安心な環境を創り出していくための情報技術、低環境負荷を実現する都市・ビル・住宅のデザイン、バイオテクノロジーや生態系保全技術、持続可能型社会のための環境マネジメント手法などである。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会における環境技術の役割
- 第2回：エネルギー負荷をできるだけ小さくする化学プロセスの開発やバイオマスなどの新エネルギー・クリーンエネルギーの開発
- 第3回：最先端のナノテクノロジーを駆使した環境調和型材料の開発や物質の超高感度検出法の開発
- 第4回：天然資源や廃棄物の有効利用技術、高効率で安全な水処理や廃棄物処理技術による循環型社会の創造
- 第5回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について(その1・燃料電池)
- 第6回：地球環境・エネルギー資源枯渇問題に対する技術的な解決策について(その2・エンジン、次世代発電システム)
- 第7回：環境に配慮した高精度高効率な精密加工法・最適設計法について
- 第8回：これからの持続可能社会のための情報処理技術と情報ネットワークシステム
- 第9回：ものづくりや環境技術を支えるコンピュータシステムやソフトウェア開発
- 第10回目：建築における安全・安心・長寿命性の追求と環境調和型材料および工法の開発
- 第11回目：都市や建築における省エネルギー・自然エネルギー利用・環境改善技術とその評価
- 第12回目：生態系に調和し、省エネルギーや資源の有効利用に寄与する美しく快適な空間デザイン
- 第13回目：生物のしくみや材料を有効利用・応用して新しい材料や素材などを生み出すバイオテクノロジー
- 第14回目：生態系に配慮した科学技術、生態系の機能を背景にしたエコテクノロジーや環境管理手法について
- 第15回目：環境に配慮した社会を実現するための環境マネジメントと具体的取り組み

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
 レポートおよび小テスト 30%
 期末試験あるいは期末課題 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にも目を通すようにすること。

履修上の注意 /Remarks

私語をしないこと。 ノートはこまめにとること。
 都合により、授業のスケジュールを変更することがある。

未来を創る環境技術 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境共生、持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、情報メディア、建築デザイン、環境生命工学

私たちと宗教【昼】

担当者名 /Instructor 関 一敏 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

宗教は、わたしたちの日常生活とかけはなれた存在ではない。それは日常の倫理や道徳を支え、わたしたちの生き方と死に方とを方向づける強い力をもっている。さらにまた、メディアの発達していない時代に宗教は文字文化の担い手であり、音楽や身体技法など、文化の貯蔵所やくわりをはたしていた。かつまた、20世紀から21世紀にかけて民族とともに宗教が紛争と葛藤の焦点となり、原理主義の高まりとともに各地でさまざまな政治問題を生んでいることは、日々報道されるところである。

にもかかわらず、日本にあってわたしたちは宗教とのつきあいを苦手だと感じるのはなぜだろうか。この講義では、そうした現代日本人の感受性そのものをも視野におさめて、過去から現在にいたる「宗教的なるもの」の根っこに迫ってみたい。

なお今年はトピックスごとに、諸宗教を横断的にとらえるところみをする。

教科書 /Textbooks

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○橋爪大三郎『世界がわかる宗教社会学入門』ちくま文庫
堀一郎監修『宗教学辞典』東京大学出版

あとは講義の通りに適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. はじめに 宗教について考える、宗教を分類する
2. 神々の世界(日本) 起源神話、神を祀る神、異類婚姻譚
3. 神々の世界(世界) 渾沌と秩序、神の疲労、塔と洪水、石とイモ
4. あの世 地獄と天国、煉獄と金利、極楽浄土、六道輪廻
5. 苦と悪 悪霊、天使、魔女、神義論、四苦八苦
6. 出世間 修道院、荒野、出家とサンガ
7. 聖者と菩薩 殉教者、列聖、霊力、慈悲
8. 修行と戒律 身体、戒と律、聖地巡礼、体験
9. 願かけと祈り 念仏と題目、報恩、応答、祈願
10. 祭り 年中行事、通過儀礼、祝祭日
11. 声と文字 声の文化と文字の文化、聖典、賛美歌と声明
12. 物語 話法と話芸、伝説、昔話
13. 運命 予定説、宿命論、造悪論
14. 呪いと祝福 呪術、呪詛、病治し
15. まとめ 幸福の四象限、しあわせ、スカブラと笑い

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習よりも、講義の場で以下のことに力を注ぐこと。
講義をよく聴く。
配布資料をよく読む。
資料をもとに、また講義や本をヒントに、自分で考える習慣をつける。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

宗教的なものは、その周辺にカルト的集団やオカルト的現象を生むことがある。神秘的な力にはよい方向とよくない方向がともに備わっており、わたしたちにはそのよい方向を識別する目をやしなう必要がある。なによりも宗教に関する正確な知識を心がけるよう、また距離を置いた受けとめ方のレッスンをかさねるよう、意識的な努力を心がけたい。

キーワード /Keywords

上記授業計画を参照のこと。

思想と現代【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 9回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 11回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 12回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 13回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 14回 フェミニズムの思想(4)【クイア】
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末テスト... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ろくに事前連絡もなく、授業最終日になってから「いろいろ忙しくて確認テスト受けられませんでした」などと言いに來る者もいるが、この手のチープな言い訳はまったく通用しない。その場合は当然不合格となる。本授業に対しては、一切の甘えを捨てた上で取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

文化と表象【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、表象概念の基礎を理解し、表象論の視点・テーマのひろがりを知ることが目的としている。受講者は、講義を受けるなかで各自の生活環境を「表象」という視点から見つめ直すことが求められる。
まず前半の講義では表象論事始めとして、理論的背景の説明や、イメージとしての〈日本〉について多様な角度から言及するなかで、表象研究の導入をおこなう。
次に比較分析の例として映画を原作と比べて、その差異について論じる。さらに、後半では、テーマ研究として具体的なテーマに焦点を絞り、表象についての理解を深めていく。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 【表象論事始め】 理論的背景
- 3回 イメージとしての〈日本〉①
- 4回 イメージとしての〈日本〉②
- 5回 イメージとしての〈日本〉③
- 6回 【表象分析事始め】方法としての「比較」
- 7回 映画分析①
- 8回 映画分析②
- 9回 映画分析③
- 10回 映画分析④
- 11回 テーマ研究①
- 12回 テーマ研究②
- 13回 テーマ研究③
- 14回 テーマ研究④
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(課題・コメントカードなど) ... 20% 中間レポート・期末テスト ... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に必要ないが、毎回の授業を復習するなかで、各自の身近な生活環境から問題をつねに内省的に「発見」することが求められるので、緊張感をもった態度で受講してほしい。単位取得のためには、中間レポート・期末テストにおいて十分な準備が要求される。全体的にハードなプログラムであることを受講希望者は意識しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

言語とコミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 山崎 和夫 / KAZUO YAMASAKI / 北方キャンパス 非常勤講師

平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科, 松尾 太加志 / Takashi Matsuo / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

種としての「ヒト」は、「ことば」を用いてコミュニケーションできるという点において他の動物と大きく異なります。しかし、「ことば」によるコミュニケーションがすべてなののでしょうか。そもそもコミュニケーションとは何で、どのようにして行われるのでしょうか。「現代の若者はコミュニケーション力がない」などよく言われますが、コミュニケーションがうまく成立したり、しなかったりするのなぜなのでしょう。この講義では、コミュニケーション論、心理学、言語学、さらには情報科学における研究成果をふまえ、私たちの日常と関連づけながらそのような問いについて考えます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『コミュニケーションの心理学』松尾 太加志著、ナカニシヤ出版、1999年。
- 『異文化コミュニケーション』古田 暁著、有斐閣、1999年。
- 『社会言語学への招待-社会・文化・コミュニケーション』田中 春美(他)著、ミネルヴァ書房、1996年。
- 『社会言語学入門-生きた言葉のおもしろさにせまる』東 照二著、研究社出版、1997年。
- 『ジェンダーの言語学』永原 浩行(他)編、明石書店、2004年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

日程等により順番が変わる可能性があります。第1回授業時に予定表を配布します。

- 第1回 序:「ことば」とは(漆原)
- 第2回 コミュニケーションとことばの発達(松尾)
- 第3回 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション(松尾)
- 第4回 語用論(山崎)
- 第5回 ことばと文化(山崎)
- 第6回 異文化間コミュニケーション(山崎)
- 第7回 会話の規則(平野)
- 第8回 日本語の方言(平野)
- 第9回 ことばのバリエーション(平野)
- 第10回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第11回 外部講師による講義(予定)
- 第12回 メディアを使ったコミュニケーション(松尾)
- 第13回 人と機械とのコミュニケーション(松尾)
- 第14回 コミュニケーション力(漆原)
- 第15回 まとめ(担当者によるパネル・ディスカッション)(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...20% レポート...20% × 4
4名の担当教員のレポートをすべて出さない限り、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

*「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 真理子 / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科
田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科, 馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Semester 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 1年 / 1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ

大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか？さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2013年のテーマ：「言葉の力」

文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるのでしょうか。たとえば文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高いものです。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ生まれ変わることもあります。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で各国言語で書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

- ① 言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。
- ② 「言葉」の意味の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。
- ③ 修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入・言語芸術の可能性
- 2回 岩本(文学部比較文化学科)
- 3回 岩本
- 4回 馬場(文学部比較文化学科)
- 5回 馬場
- 6回 田部井(文学部比較文化学科)
- 7回 田部井
- 8回 福島(文学部比較文化学科)
- 9回 福島
- 10回 伊藤(外国語学部英米学科)
- 11回 伊藤
- 12回 五月女(文学部比較文化学科)
- 13回 五月女
- 14回 木原(外国語学部英米学科)
- 15回 木原

(各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

文学を読む【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
テーマ科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /1 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、初回に現代正義論の流れを概観する。その上で、次に現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①現代正義論に関する基礎的な知識を獲得したうえで、理解力・思考力を鍛える。
- ②現代社会における諸問題について、課題を発見し、分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房）
- 平井亮輔編『正義』（嵯峨野書院）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社）
- 葛生栄二郎他『いのちの法と倫理』（法律文化社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ノージックのリバタリアニズム
- 第10回 現代正義論③ ~ 共同体主義
- 第11回 現代正義論④ ~ アマルテア・センの正義論
- 第12回 現代正義論⑤ ~ センとロールズ・ノージック
- 第13回 現代正義論⑥ ~ 狭義の(ロールズ以後の)「現代正義論」のまとめ
- 第14回 法と正義 ~ 現代正義論と正義の応用問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解にとって、大変に役にたつと思います。

キーワード /Keywords

ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

今年度は、「比較民主主義論」というテーマで講義を行います。

民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、まず、民主主義の理論の比較として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1938年と1968年における日独の青年の政治的位置の比較を行い、制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較します。そして、こうした比較を通じて見えてくる差異性（多様性）や共通性から、「新しい政治」について検討します。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンズ他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。

- 第1回 はじめに・・・民主主義の3レベルについて
- 第2回 民主主義の理論の比較・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
- 第3回 参加民主主義論、共生の民主主義論
- 第4回 熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
- 第5回 民主主義理論の比較のまとめ
- 第6回 まとめのグループ討論、グループ発表
- 第7回 民主主義の運動（組織）の比較・1989年の東欧革命について
- 第8回 1968年の「青年の反乱」の日独比較
- 第9回 1938年の日独青少年交歓事業について
- 第10回 民主主義の運動の比較についてのまとめ・1938、68、89年の日独青年の政治的位置の比較について（グループ討論、グループ発表）
- 第11回 民主主義の制度の比較について・議院内閣制と大統領制
- 第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
- 第13回 大統領制民主主義の諸問題について
- 第14回 民主主義制度の比較のまとめ・首相公選制について
- 第15回 全体のまとめ・「新しい政治」について

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。

民主主義とは何か【昼】

履修上の注意 /Remarks

毎回、講義のレジユメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を2回ほど行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

講義を楽しむ

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、現代社会の諸問題を社会的に解釈していく力を身につけることにある。授業では、社会学の基本的な考え方についてデュルケムやウェーバーらの古典的著作を例にとりながら紹介していく。また、現代社会における論争的なトピックを例に社会的分析を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 社会学的な考え方とは
- 第3回 社会的な問題の発見 - 「常識」を疑う
- 第4回 社会と個人をつなぐ1 - デュルケム1：集合意識と行為
- 第5回 社会と個人をつなぐ2 - デュルケム2：『自殺論』
- 第6回 社会と個人をつなぐ3 - ウェーバー1：理解社会学
- 第7回 社会と個人をつなぐ4 - ウェーバー2：『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
- 第8回 現代社会の解釈1 - 社会的格差と社会的排除1：どうなっているのか
- 第9回 現代社会の解釈2 - 社会的格差と社会的排除2：なぜそうなるのか
- 第10回 現代社会の解釈3 - 社会的格差と社会的排除3：どうすればよいのか
- 第11回 現代社会の解釈4 - グローバル化とエスニシティ1：どうなっているのか
- 第12回 現代社会の解釈5 - グローバル化とエスニシティ2：なぜそうなるのか
- 第13回 現代社会の解釈6 - グローバル化とエスニシティ3：どうすればよいのか
- 第14回 現代社会の解釈7 - ナショナリズムと排外主義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 15% 期末試験... 85%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治のなかの文化【昼】

担当者名 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

政治や経済に関する現象は世界の多くの地域で共通する事項が多いと考えられがちである。しかしながら、実際には多くの地域に多様な独自性が広がる。近代国家的な政治体制や経済体制が世界中に共有される以前から、さまざまな共同体において統治の方法があったし（これもまた文化のひとつである）、近代国家的な制度が共有されるようになって、その受け入れられ方は様々である。

本講義では、政治や経済体制とその土地に住む人々固有のとりきめごとについて、過去と現在の状況を学ぶ。しかし、それは学問的な知識を蓄えることが目的なのではない。民主主義、資本主義、公共性、といった現在、世界共通に使用されているようにみえるこれらの概念の理解が地域依存的なものであることを知ることで、概念を問いかえすことが目的である。

教科書 /Textbooks

教科書は特に指定しないが、以下の参考文献を各人の興味にあわせて一冊以上読んでおくことが望ましい。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- アンダーソン、ベネディクト1997『想像の共同体』NTT出版
- 織田竜也ほか(編)2009『経済からの脱出』春風社
- 春日直樹(編)2008『人類学で世界をみる』ミネルヴァ書房
- 清水展1991『文化のなかの政治』弘文堂
- 中川敏1992『交換の民族誌』世界思想社
- 西真如2009『現代アフリカの公共性』昭和堂

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：授業の説明 / 世界に広がるNGOとその多様性
- 第2回 理念の土着化
- 第3回 伝統社会のなかの政治
- 第4回 経済活動にみる文化①：個人をつなぐ行為としての交換
- 第5回 国家に抗する社会？
- 第6回 近代的国家と伝統的な国家の違い
- 第7回 社会運動のなかの文化
- 第8回 経済活動にみる文化②：現代社会のなかに組み込まれた贈与
- 第9回 資本主義への対抗
- 第10回 政治体制の変化が文化に与える影響①：ソ連・東欧の旧社会主義地域
- 第11回 政治体制の変化文化に与える影響②：体制転換という経験
- 第12回 文化復興という政治
- 第13回 開発の現場における「文化の差異」
- 第14回 「求められる市民参加」の現場
- 第15回 講義のまとめ：公共性と文化

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の小テストまたはレポート20-30%、期末試験70-80%
(受講者数に応じて配分を変更するが、受講者数が決定次第講義中に通知する。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

現代史や時事問題に自信がない受講生は、わからないことをそのままにしないでください。高校の教科書(現代社会、世界史)は図書館にありますし、北九大図書館は主要な新聞の数年分が検索できるデータベースを契約しています。活用してください。

履修上の注意 /Remarks

・出席しただけでは評価しません。講義にはほとんど出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります(ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありません)。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。

政治のなかの文化【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ ビジョン科目「異文化理解の基礎」を受講済みの学生は、授業の理解度が高まります。「異文化理解の基礎」は家族や日常の生活を中心とした文化について学びましたが、このテーマ科目では、より規模の大きい集団や共同体など政治が働く空間の中での文化について学びます。
- ・ 履修上の注意では厳しいことを書いていますが、私の他の講義と同じく、覚えることはありません。理解できるかどうか、できなくてもしよとうとする努力がみられるかを評価します。異文化や外国のことに興味がある学生、政治学とは異なる視点からの政治に興味がある学生、教養を深めたい学生の受講を歓迎します。
- ・ 学際性が求められるビジョン科目では、講義に取り入れにくい現在の東欧の文化人類学の話(担当者の専門です)などもこの講義では話したいと思います。

キーワード /Keywords

政治、公共性、文化、社会運動、国家

人権論【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害していることがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：急増する在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト・ミニレポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心をもち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁
出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振られるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ-女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー-戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学-村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー-映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ-アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー-家族を超えて-週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える-あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔-学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー-津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業-エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み-ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権-絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学-女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場-国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV-TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

(1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルズを身につけておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。障害者問題をテーマとしたテレビドラマ等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。また、ゲスト・スピーカーとして、当事者や家族、支援者にもお話をうかがう予定でいる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第3回～4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回～第8回：「文化モデル」の可能性、自閉症児者との共生をめぐる【文化モデル】【文化相対主義】【自閉症】
- 第9回～12回：日本の福祉制度の現状と課題【当事者の声】
- 第13回～14回：自己の問題としての障がい
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生の作法【昼】

担当者名 /Instructor
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科, 石田 信平 / shinpei ishida / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 植木 淳 / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 岡 邦信 / 法律学科
 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 小池 順一 / junichi KOIKE / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 福重 さと子 / SATOKO FUKUSHIGE / 法律学科, 矢澤 久純 / 法律学科
 山本 光英 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

現代社会は、国家としても個人としても、極めて複雑な様々な関係から成り立っている。われわれは個人としてどのような関係の中で生活しているのか、どのような関係の中で生活すればよいのかを考える必要がある。われわれの生活が、およそ一人では成り立たない以上、人と人との関係、人と国家との関係、国家と国家との関係、世代と世代との関係、人と自然との関係など様々な関係の中で成り立っていることを考えなければならない。

他者との共存ないし共生は我々の生活には不可欠なものであり、そのためお互いの良好な関係を維持し、これを発展させるためには、お互いを守るべきルールやマナー（作法）を知ることが必要である。

今現在、そのような他者との関係がどのようになっているのかを考え、そして、これらの関係をどのように維持し、あるいは改善しなければならないかを考えることが、本講義の目的である。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①法についての基本的な知識を獲得した上で、社会での共生に必要となる理解力や思考力を鍛える。
- ②共生をめぐる現代社会の諸問題について、課題を発見しそれを分析したうえで解決する力を獲得する。
- ③修得した知識や思考力を自らのものとし、今後の社会実践の中でより深めていくことができるようにする。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 開講の辞、法と道徳について(重松)
- 第2回 障害のある人の権利 ~ 日本国憲法から(植木)
- 第3回 死刑制度の是非(中村)
- 第4回 契約について(契約の意義、種類、契約自由の原則等)(矢沢)
- 第5回 家族とは何か(小野)
- 第6回 規範意識とは何か(3銭の電気窃盗)(山本)
- 第7回 犯罪とは何か ~ 国家刑罰権をどのように制約するか(大杉)
- 第8回 商法とは何か(今泉)
- 第9回 企業形態と法(高橋)
- 第10回 民事少額訴訟とは何か(小池)
- 第11回 行政は「個人の権利」をもつか(福重)
- 第12回 社会保障の必要性和社会保険について考えよう(津田)
- 第13回 雇用とは何か(雇用関係の成立、雇用関係の展開、雇用関係の終了)(石田)
- 第14回 国際社会と日本(二宮)
- 第15回 まとめ(岡)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則としてレポートによる。

①受講者は学籍番号に応じて指定されたテーマ群の中から、テーマを1つ選び、レポートを1本作成して提出すること。②レポートの書式等は掲示により別途指示する。レポートは6000字以上とする。③レポートには、所属学科・学年・学籍番号・氏名・テーマ・講義担当教員名等を明記した所定の表紙を必ず添付すること。④授業態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

共生の作法【昼】

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回のテーマについて事前に情報を収集し、予習しておくことで理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

レポート課題は、学籍番号に応じて選択することができる範囲（テーマ群）が決まります。全ての授業に出席していないと書けないことになるので注意して下さい。各人が選択できる範囲（テーマ群）は、試験期間開始よりも前の適切な時期に掲示により指定します。

キーワード /Keywords

現代社会 共生 作法 ルール

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科, 山本 光英 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

六法全書や法律書を開いてみても難しい。裁判所の判例を読んでみてもどうしてそういう判断をするのかわからない。法律はどのような仕組みになっているのかわからない。そういう疑問に少しでも応え、法律の世界を理解するために必要なスキルを提供します。法律に興味や関心を抱き、社会生活を円滑に営むための指針、心構えをつくる手助けになればと思っています。

到達目標は次の通りです。

- ・ 法律の世界に共通する諸概念や基本的な考え方を理解することができるようになっていただきます。
- ・ 講義で紹介する法制度の内容、社会における運用状況を知り、法律問題解決の仕方を理解できるようになっていただきます。
- ・ 法律が私たちの社会生活における基盤となっており、法律を学ぶことを通じて私たちが社会生活を円滑に営むための不可欠の素養を身につけることができることを知っていただきます。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス-法律を読むために
- 2回 民法法を読む①【社会規範】【行為規範】【法律用語】【裁判所】
- 3回 民法法を読む②【法解釈の方法】【文理解釈】【類推解釈】
- 4回 刑法法を読む①【法規範の特性】【法の機能】【法の存在形式】【法源】【罪刑法定主義】
- 5回 刑法法を読む②【刑事法】【法の適用】【憲法と刑事法の関係】【法の解釈】
- 6回 判例の読み方 【判例】【先例】【認定事実】【判決理由】
- 7回 民事判例を読む①【判例研究の方法】【判例部分の抽出】【判例研究の目的】
- 8回 民事判例を読む②【判例評価の方法】【生命保険金】【特別受益】
- 9回 刑事判例を読む①【判例集の名称】【判例集の調べ方】【判例集の体裁】
- 10回 刑事判例を読む②【刑事判例の勉強の仕方】【事実の概要】【判旨】【解説】【因果関係】
- 11回 民法法の視点から社会を読む①【婚姻】【内縁】【パートナーシップ】
- 12回 民法法の視点から社会を読む②【人工生殖】【親子関係】【相続権】
- 13回 刑法法の視点から社会を読む①【一厘事件】【3銭電気窃盗事件】【窃盗罪の客体】
【可罰的違法性】【起訴便宜主義】
- 14回 刑法法の視点から社会を読む②【裁判員制度】【刑事裁判の流れ】【公判の基本原則】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題... 20 % 定期試験... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

六法を持参してください。法学部生以外の受講生には、石川明他編『法学六法'13』信山社(1,000円)をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査【昼】

担当者名 /Instructor 叶堂 隆三 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

社会調査は、私たちの社会生活がどのような状況にあるのかを把握する有効な方法の一つです。さらに、この社会調査を実施する技法である社会調査法は、アンケート等の調査票を用いて多くの人から情報を得ることで正確な情報把握を志向する量的社会調査と興味深い少数の事例に深く取り組むことを通して新しい社会傾向や社会の多様性を理解しようとする質的社会調査の二つに区別することができます。そして、20世紀以降、実は、こうした社会調査法は社会状況の把握のための学術的関心を越えて、市場調査や選挙予想等さまざまな状況の理解に応用されています。

本授業では、この社会調査法のうち質的社会調査法に焦点を当てて、現代社会の様々な状況・事象への関心のテーマ化、こうした関心を究明するための方法、究明した結果をどのように人に伝えるか、について学習していきます。

教科書 /Textbooks

谷富夫・山本務編『よくわかる質的社会調査プロセス編』ミネルヴァ書房、2010年

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

谷富夫・芦田徹郎編『よくわかる質的調査技法編』ミネルヴァ書房、2009年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

社会のどのような状況を理解したいのかという社会的関心を究明していくプロセスに沿って、以下のように授業を進めていくことにする。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 質的社会調査の方法と意義
- 第3回 名著に学ぶ質的社会調査
- 第4回 質的社会調査概説3
- 第5回 問いを立てる
- 第6回 先行研究に学ぶ
- 第7回 技法を選ぶ
- 第8回 フィールドに入る
- 第9回 フィールドワークを楽しむ
- 第10回 フィールドノートを作成する
- 第11回 インタビューを記録する
- 第12回 インタビュー記録を利用する
- 第13回 ビジュアルな資料を利用する
- 第14回 報告書を作成する
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポートや作成物等(50%)、授業時間外の課題の提出(50%)等による平常点によって評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

質的社会調査法に関して、一連のプロセスに沿って進めますので欠席しないようにして下さい。また、授業中及び授業時間外の課題を必ず提出してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワン[日本の経営(温情主義的経営)]とも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用 (= ライフタイム・コミットメントという英語の日本語訳、広義には職場共同体という感覚)・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液化して剥き出しの資本制経済の荒波(マーケット中心主義)にさらされている。日く、ワーキングプア(働いていても生活がいよいよ苦しい)・ネットカフェ難民(帰るべく家がない)・格差から貧困(経済的格差・貧困から意欲の格差が目される)・99%対1%、等々。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義(マーケット型資本主義)路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除(彼女/彼らはこれを退出という)された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである(例えば、退場をしたサッカー選手は、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない)。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される(社会統合機能)。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである(社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機)。

そうすると行き着くところ、社会(資本制経済あるいは資本家の生産社会)というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としないかのように振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書(白波佐和子『生き方の不平等』2010(○)等の最新の文献、②『私たちは"99%"だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房(2009年)(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家の生産様式)。【社会認識】
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは。買い物物を反省しよう。日常的に観察される買い物物すなわち商品流通から、ふたつの人間類型が見いだされる。→「C(商品)-M(貨幣)-C(商品)」[私達]と「M(貨幣)-C(商品)-M(貨幣)」[資本家]。私達と資本家は、商品流通レベルでは平等。【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】
- 4回 商品流通(商品交換)の次元における私達→私達は平等である(等価交換と市民法)。【商品流通(商品交換)】【平等・自由】
- 5回 商品流通の次元における私達は平等であるのに、何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか。【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出=本源的蓄積過程。商品流通(C-M-C)の内実たる(M-C-M)での剰余価値の生産。資本家と労働者。【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【賃労働関係】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生【剰余価値】【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】
- 10回 戦後資本主義の特性=恐慌と危機。ケインズ政策の登場。【恐慌】【危機】【ケインズ政策】
- 11回 セーフティネット装置のビルトインされた国家=福祉国家(混合経済)の登場。【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰志向の新自由主義の台頭。【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ。【危機】【統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

企業と社会 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます。就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも観察対象であることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】 【資本家】 【労働者】 【市民社会】 【資本制経済】 【市民法】 【本源的蓄積過程】 【剰余価値】 【賃労働関係】 【福祉国家】 【ケインズ政策】 【新自由主義】 【システム統合】 【社会統合】 【生活世界】

現代社会と倫理【昼】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代社会の中で生じている倫理的問題のいくつかを考察しながら、実践倫理学の基礎を学ぶ。「われわれ現代人は生と死の問題、差別と平等の問題にどう立ち向かうべきなのか」という問いかけを中心に、個々の社会問題に対する批判的思考の育成を目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ピーター・シンガー『実践の倫理 新版』(山内友三郎・塚崎智監訳)昭和堂、1999年。
- 加藤尚武・飯田亘之編『バイオエシックスの基礎』東海大学出版会、1988年。
- 江口聡編・監訳『妊娠中絶の生命倫理』勁草書房、2011年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 20世紀の倫理学【規範倫理学とメタ倫理学】
- 3回 現代における人命の価値(1)【生命の神聖説】
- 4回 現代における人命の価値(2)【積極的行為と消極的行為】
- 5回 現代における人命の価値(3)【最大幸福原理】
- 6回 現代における人命の価値(4)【自己意識】
- 7回 現代における人命の価値(5)【FLO】
- 8回 現代における差別の問題(1)【人種差別】
- 9回 現代における差別の問題(2)【差別反対論】
- 10回 現代における差別の問題(3)【種差別の基礎】
- 11回 現代における差別の問題(4)【種差別の諸相】
- 12回 現代における公平性の意義(1)【世界の貧困】
- 13回 現代における公平性の意義(2)【公平主義】
- 14回 現代における公平性の意義(3)【援助義務論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業の概要と詳しい参考文献の紹介は、第1回もしくは第2回の授業時に行なう。
参考文献に挙げた『バイオエシックスの基礎』および『妊娠中絶の生命倫理』に収められた論文を一部授業の素材にするので、簡単にでも目を通しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の期末試験は、持ち込みが一切不可(プリント・ノート類も禁止)となっている。それに応じて成績評価のハードルもかなり高くなる。このため、受講者には継続的な学習意欲とそれ相応の記憶力が求められる。この方式に伴うリスクと負担をよく理解した上で講義に臨むこと。

キーワード /Keywords

生命 義務論 功利主義 公平性

現代社会と新聞ジャーナリズム【昼】

担当者名 /Instructor 西日本新聞社、基盤教育センター 稲月正

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

この授業は西日本新聞社による寄付講座である。毎回、新聞ジャーナリズムのさまざまな現場で活躍されている方からお話いただき、新聞と現代社会についての考察することを目指す。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション / 新聞ジャーナリズムの現状と今後 (編集企画委員長)
- 第2回 ニュースを編集する / 見出しはこうして決まる (編集センターデスク)
- 第3回 政治を見る目 / 政権交代と現政権の行方 (編集委員)
- 第4回 地域とともに / 分権時代と地域紙 (都市圏総局長)
- 第5回 アジアを考える / 国際報道の現場から (国際部長)
- 第6回 裁判員制度と人権 / 事件報道の現場から (社会部総合デスク)
- 第7回 デジタルが紙か / デジタルメディアの行方 (コンテンツ事業局)
- 第8回 罪と更生 / キャンペーン報道の力 (社会部デスク)
- 第9回 被災地を歩く / 東日本大震災をどう伝えるか (社会部長)
- 第10回 原発と地域経済 / 経済記者の立ち位置 (経済部長)
- 第11回 スポーツ報道の世界 / 地域スポーツ紙が目指すもの (運動部デスク)
- 第12回 言葉を越える1枚 / 報道写真の力 (写真部記者)
- 第13回 北九州発の環境問題を考える / 地域ジャーナリズムの役割 (北九州本社記者)
- 第14回 文化と新聞 / 地域を見つめ育てる (文化部長)
- 第15回 新聞をデザインする / ビジュアル紙面とは (デザイン部デスク)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 以下の2つをもとに総合的に評価する。
- (1) 毎回の感想(レポート提出の要件とする。)
 - (2) レポート(レポート提出は3回を予定している。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日々の新聞をよく読み、現代社会に対する感性を磨くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 解子 / 地域戦略研究所, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを捉えるための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて講義します。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより、都市や地域を違った形で捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを期待しています。

教科書 /Textbooks

適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 【地域】 特になし
【都市】 北九州都市協会『住みよい都市・全国主要都市の比較調査』共同通信社(2004年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通：授業および講師紹介
- 2回 地域1：地域の概念：世界と日本の事例等
- 3回 地域2：地域をどのように分析するか：地域学と地域科学
- 4回 地域3：地域間という考え方
- 5回 地域4：教官討論：北九大と地域(仮)
- 6回 地域5：地域事例紹介1(国内事例予定)
- 7回 地域6：地域事例紹介2(海外事例予定)
- 8回 地域7：レポート発表会
- 9回 都市1：都市評価と都市間比較の考え方
- 10回 都市2：国内主要都市のプロファイル
- 11回 都市3：都市間比較I(自然・居住)
- 12回 都市4：都市間比較II(経済・インフラ)
- 13回 都市5：都市間比較III(文化・教育、健康・安全)
- 14回 都市6：都市間比較IV(都市イメージ・総合評価)
- 15回 都市7：講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 【地域】 全体の50%：レポート...25% クイズ...15% 授業貢献...10%
【都市】 全体の50%：レポート...35% 授業貢献...15%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- 【地域】 前半の「地域」のどこかで数回、クイズ(小テスト)を行います(当日発表)。授業内ディスカッションを活発に行いますので、発言の無い学生は授業貢献評価が芳しくなくなります。
【都市】 講義を進めるなかで、「あなたはと思う？」という問いかけをしたいと思います。積極的な発言を期待します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人はそれぞれの価値観で都市や地域を捉え評価します。多くの場合、自分の関心領域以外にはあまり目を向けません。本講義は、幅広い分野にわたり、多くのことを学び考える機会になると思います。

キーワード /Keywords

地域科学、都市政策 都市間比較

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 板谷 俊生 / 中国学科
 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
 山本 直 / Tadaki YAMAMOTO / 国際関係学科, 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野寿子「グローバル化の中の中国」
- 第3回 " "
- 第4回 尹明憲「北東アジアの経済事情」
- 第5回 " "
- 第6回 鄧紅「日中関係の過去、現在と未来」
- 第7回 " "
- 第8回 総田芳憲「日本の安全保障」
- 第9回 " "
- 第10回 山本直「アジアとヨーロッパ」
- 第11回 " "
- 第12回 板谷俊生「中国のノーベル文学賞作家」
- 第13回 横山宏章「東アジアの安全保障」
- 第14回 篠崎香織「東南アジア：『周縁』で形成される文明の新たなかたち」
- 第15回 " "

※都合により、講義の順番は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。
 レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。
 平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』シリーズ(明石書店)、特にミャンマー、バングラデシュ、韓国を参照のこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめにあたって 担当：三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当：伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当：伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当：伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】
担当：チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動
【バングラデシュ】 担当：チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当：チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動とし叟社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当：チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当：申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当：申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当：申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当：三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当：三宅
- 第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当：三宅
- 第15回 まとめ 担当：三宅

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日ごろから世界の動きに注目し、新聞やインターネットなどで情報をキャッチしておくこと。また、時々、小課題を出すので、必要に応じて提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

世界と私たちが住む地域は恒常的に結びついています。その結びつきを最終的には理解できるようにします。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科, 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程, 城戸 宏史 / K I D O H I R O S H I / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木暮太一 (2010) 『経済が世界—シンプルにつかめる本』 明日香出版社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	シラバス詳細版配布、イントロダクション、概説	【グローバル化】
2回	自由貿易	【比較優位】 【貿易保護】
3回	自由貿易	【WTO】 【FTA】 【TPP】
4回	企業の海外進出と立地	【直接投資】
5回	企業の海外進出と立地	【人件費】 【為替レート】
6回	海外展開に関わる所有戦略	【合併】 【M&A】
7回	経営現地化の視点	【人事現地化】
8回	地場グローバル企業のケースI	【SCM】 【OEM】
9回	地場グローバル企業のケースII	【現地市場志向】
10回	グローバル化と途上国の成長・発展	【開発経済】 【労働移動】
11回	グローバル化と先進国の経済	【格差】 【ジニ係数】
12回	グローバル化と金融危機	【サブプライムローン危機】
13回	グローバル化と金融危機	【欧州危機】 【リーマンショック】
14回	産業・企業のグローバル展開 (ケーススタディ)	
15回	まとめと総復習	

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(ミニテストやレポートなど): およそ20%、学期末試験: およそ80%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけましょう。授業ではプリントを多用します。学習支援フォルダにアップするので、予習・復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

テロリズム論 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

911以降の国際社会を考える上で、もはやテロリズム問題を避けて通ることはできない状況ですが、テロは当然、911以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

なお、この科目では、テロリズムに関する総合的な知識の獲得、理解、この分野に関する課題発見・分析能力の獲得により、および生涯にわたりこの問題と向き合っていく基盤を提供します。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～4回 テロリズムとは何か。
 テロの定義の難しさ、佐賀散弾銃乱射事件や秋葉原連続殺傷事件はテロか、911の特異性、テロの定義、テロの特徴、テロのグレーゾーン
- 5回 テロの歴史
 テロの起源、19世紀のテロ、アナキスト、国粹主義、ナショナリズム
- 6回～8回 現代テロの登場
 国際化(1968年エルアル機ハイジャック)、反米化(TWA機ハイジャック)、無差別化・自爆テロ(1972年ロッド空港事件)、劇場型テロ(ミュンヘンオリンピック事件)
- 9回 反近代・脱近代のテロ
 オクラホマシティー連邦ビル爆破テロ、ユナボマー、環境テロなど
- 10回～11回 無差別大量殺戮テロ
 オウム真理教地下鉄サリン事件など
- 12回～14回 911米国同時多発テロ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際紛争と国連【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第3回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第4回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第5回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第6回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第7回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第8回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第9回 Case Study①: 湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第10回 Case Study②: ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第11回 Case Study③: リビア問題と国連【保護する責任】
- 第12回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第13回 Case Study④: アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第14回 Case Study⑤: PKOと日本の国際平和協力【PKO協力法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

国際社会と日本【昼】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

近現代の国際社会、文化、政治、思想など諸分野の流れをポストコロニアリズムの議論を通じて捉えつつ、今なお継続する植民地主義とわれわれを支配している近代主義を批判的に省察する。

教科書 /Textbooks

姜尚中編『ポストコロニアリズム』作品社、2003、1800円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○本橋哲也『ポストコロニアリズム』岩波新書、2005

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 毎回、レジユメを配り、その内容について説明する。
- 1回 テクストの紹介、授業のガイダンス
 - 2回 第IV部の総論、姜尚中論文【今なぜ、ポストコロニアリズムなのか】
 - 3回 前回の補足
 - 4回 第II部の総論、本橋哲也論文【私たちに与えるポストコロニアリズム】
 - 5回 第II部の近代、松葉祥一論文
 - 6回 第II部の性・文化、竹村・毛利論文
 - 7回 第II部の日本、小森陽一論文
 - 8回 第II部の第三世界、小倉英敬論文
 - 9回 第II部の国家、嚮田竜蔵論文
 - 10回 第IV部の1、朴一・村井寛志論文【問題提起】
 - 11回 第IV部の2、趙慶喜論文
 - 12回 第IV部の3、高橋哲哉論文
 - 13回 第IV部の4、野村・鄭暎恵論文
 - 14回 第II部とIV部の総括
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

2~3回のレポート70%、授業への熱意30%.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習と復習をしてくること。教科書に登場する概念、人物について自分で調べて見ること。

履修上の注意 /Remarks

思想、哲学に関心を寄せること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代の呪縛、近代主義、オリエンタリズム、ナショナリズム、植民地主義、二元思考、三元思考、公共性

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞愛 / Kim Jung-Ae / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ現代韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについても考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化について見つめなおす時間としたい。

教科書 /Textbooks

適宜プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国について概観
- 3 韓国の歴史と政治
- 4 ハングルの誕生とその仕組み
- 5 昨年及び2013年上半期の主要トピック
- 6 韓国の文学(外部講師)
- 7 韓国の伝統文化
- 8 韓国の食文化
- 9 韓国の若者たちの世界
- 10 在日コリアンの過去と現在
- 11 現代韓国社会の特徴I(外部講師)
- 12 現代韓国社会の特徴II
- 13 「韓流」について考える
- 14 日韓関係のあり方について考える
- 15 まとめ

* 上記スケジュールはあくまでも目安であり、受講生の個性やニーズにより変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(ミニペーパーやプレゼンテーション)50%
中間レポート20%、期末レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回のテーマについて「調べ」て「考え」ること

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回の授業には必ず出席すること
- ・ 欠席した回に配布されたプリントや資料については各自で解決すること
- ・ 調べ事や発表等を積極的に行うこと
- ・ ウィキペディアの丸写しに近いレポート、無断引用(コピペ等)が発覚したレポートは0点とする

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エスニシティと多文化社会 【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

冷戦終了後、世界各地で民族紛争が激化している。また、移民をめぐる動きやエスニシティ、人種に関する議論も活発化している。これらは、新しい政治現象であると思われがちであるが、決してそうではない。この授業では、エスニシティ問題に関する史的・総合的な理解を目指すとともに、多文化主義に基づく社会の再編成がどのような経緯で進み、いかなる課題を負っているかを幅広い事例を取り上げて検討する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ヨーロッパにおけるエスニシティと社会
- 2回 イギリスにおけるエスニシティ 【連合王国】 【ロンドン同時爆破事件】
- 3回 イギリスにおける文化摩擦 【オルダム暴動】 【ブリクストン暴動】
- 4回 イギリスにおける多文化主義の試み 【スカーマン報告】 【イスラム嫌い】
- 5回 フランスにおけるエスニシティ 【都市郊外暴動】 【サルコジ】
- 6回 フランスにおける文化摩擦 【スカーフ問題】 【ブルカ禁止法】
- 7回 フランスにおける同化主義と多文化主義 【ライシテ】 【共和国憲法】
- 8回 東南アジアと「エスニシティ論」
- 9回 「本物・本質」探し(1)ベトナムにおける民族の生成
- 10回 「本物・本質」探し(2)「マレー人」概念をめぐる包摂・排除
- 11回 「独立か否か」(1)インドネシア・アチエの事例から
- 12回 「独立か否か」(2)フィリピン・ミンダナオの事例から
- 13回 「ニセモノ」のネイション(1)アンダーソンの「想像の共同体」
- 14回 「ニセモノ」のネイション(2)マレーシアの「民族の政治」
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で指示されたことを、授業の事前事後に学習し、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方I【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野口実『武家の棟梁の条件』(中公新書)
佐伯真一『戦場の精神史』(NHKブックス)
勝田政治『廃藩置県～「明治国家」が生まれた日～』(講談社)
イ・ヨンスク『国語という思想～近代日本の言語認識』(岩波書店)
網野善彦『日本社会の歴史(上)～(下)』(岩波新書)
門脇禎二『吉備の古代史』(NHKブックス)
鳥越信『桃太郎の運命』(ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス①授業の進め方
 - 2回 『ラスト・サムライ』と武士道
 - 3回 武士道の成立
 - 4回 『平家物語』を読む①二つの平家物語
 - 5回 『平家物語』を読む②騎馬戦と【言葉戦】
 - 6回 県名を読む①【国郡制】と【幕藩制】
 - 7回 県名を読む②県名と県庁所在地
 - 8回 県名を読む③戊辰戦争
 - 9回 「国語」とは何か?
 - 10回 『国語元年』(ビデオ)を読む(ビデオ)①方言とは何か?
 - 11回 『国語元年』(ビデオ)②標準語とは何か?
 - 12回 網野善彦と日本史の枠組み
 - 13回 『もののけ姫』を読む-網野史学と【縄文文化】
 - 14回 「桃太郎」と吉備王国
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生100名以上の場合には筆記試験100%、受講生100名以下の場合には授業レポート50%筆記試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

シラバス・レジュメ・参考文献をよく読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史の読み方II 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

※この科目は、北方・ひびきの連携事業の指定科目です。

授業の概要 /Course Description

司馬遼太郎『坂の上の雲』で、「戦術的天才」として描き出された見玉源太郎（日露戦争時の満州軍総参謀長、台湾総督）の実像に実証的に迫り、その「立憲主義的軍人」としての生涯をたどることを通じて、歴史小説と政治外交史研究との関係について思いをめぐらすきっかけを作りたい。要するに、「歴史認識とはいったい何か」という問題を考察していく。

教科書 /Textbooks

小林道彦『見玉源太郎 - そこから旅順港は見えるか』（ミネルヴァ書房）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○小林道彦『桂太郎 - 予が生命は政治である』（ミネルヴァ書房）。その他、講義中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 政治的テロルの洗礼 - 徳山七土殉難事件 - 佐賀の乱 -
- 第3回 危機管理者 - 神風連の乱・西南戦争 -
- 第4回 雌伏の日々 - 佐倉にて -
- 第5回 洋行と近代陸軍の建設
- 第6回 陸軍次官 - 英米系知識人との出会い -
- 第7回 台湾経営 - 後藤新平を使いこなす -
- 第8回 政治への関わり - 第一次桂内閣
- 第9回 陸軍改革の模索 - 大山巖・山県有朋との対立 -
- 第10回 日露戦争 - 統帥権問題の噴出 -
- 第11回 旅順攻防戦 - 統帥権問題と明治国家の危機 -
- 第12回 見玉は「天才的戦術家」だったか - 危機における人間像 -
- 第13回 立憲主義的軍人
- 第14回 歴史小説と政治史研究の間
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと（必須）。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

見玉源太郎 陸軍 統帥権 帷幄上奏 日露戦争 西南戦争 伊藤博文 山県有朋

そのとき世界は【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
岩本 真理子 / 比較文化学科, 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

世界史を日本史・東洋史・西洋史に分けてとらえるのではなく、同時代に世界ではいったい何が起こっていたのか、そしてそれはどのように相互に関連していたのか、という観点から世界の動きをよりいきいきととらえて、新しい「世界史」を学生諸君に提示したいと思います。今年度は「1980年代の世界」というテーマを設定して、その時の世界の有様を日本、東南アジア、ドイツ、中国、アメリカ（順序不同）、といった地域での動きを中心にオムニバス方式で講義していきます。

教科書 /Textbooks

適宜指示いたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示いたします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN (小林)
 - 第2・3・4回 日本 (小林) 【バブル経済】、【昭和の終焉】
 - 第5・6・7回 東南アジア (伊野) 【ポルポト政権】
 - 第8・9回 ドイツ (岩本) 【ベルリンの壁崩壊】 【ドイツ統一】
 - 第10・11回 アメリカ (寺田) 【レーガン政権】
 - 第12・13回 中国 (下野) 【天安門事件】
 - 第14・15回 ポーランド (スピルマン) 【「連帯」運動】 【ソ連崩壊】
- 以上、順序不同。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20%小テスト...40%レポート...40%
上の数値は一応の目安です。実際には、1、各教員担当講義の2コマ目の最後に、出席者に「小テスト」を課します。一回でも未受験があったら、単位は認定されません。2、レポート提出...6人の教員の中から任意の講義を2つ選び、それについてのレポートを提出してもらいます（課題は別途指示。1,200字×2本）。コピーは不正行為と見なします。3、適宜出欠を取ります。4、以上の総合評価で成績評価とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※講義の順番や担当者（地域）は変更になることもあります。「ただ聴くだけ」という受講態度は駄目です。講義前に高校教科書レベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦後の日本経済【昼】

担当者名 迎 由理男 / mukai yurio / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

第2次世界大戦以降の日本経済の発展過程を講義します。第二次世界大戦の敗戦から日本経済がどのように立ち直り、いかに経済成長を遂げてきたのか、日本的経済システムというのはどのようなものなのか。これらの問題をできるだけ平易に説明してゆきます。

教科書 /Textbooks

毎回用意するレジユメにしたがって授業を進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野口悠紀雄『戦後日本経済史』新潮選書、2008年
- 三橋規宏・内田茂男・池田吉紀『ゼミナール日本経済入門』日本経済新聞、2011年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目標・戦前と戦後
- 2回 戦後改革
- 3回 経済復興
- 4回 高度成長とそのメカニズム(1)投資と技術革新
- 5回 高度成長とそのメカニズム(2) 対外経済・政府の役割
- 6回 高度成長期の企業システム(1) 企業統治・労使関係
- 7回 高度成長期の企業システム(2) 企業間関係・企業の資金調達
- 8回 高度成長のもたらしたもの
- 9回 高度成長の終焉
- 10回 日本企業の国際競争力
- 11回 バブル経済
- 12回 長期不況と不良債権
- 13回 アジアの成長と日本経済
- 14回 金融危機と日本
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト・レポート25%、期末テスト70%、平常の学習状況5%で評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

学習事項の復習をきちんとしておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

もの与人間の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

特定の「モノ」を取り上げ、「モノ」の製造 / 生産、流通、そして使用など、モノ与人間の関わり方の現場に焦点を絞り、その「モノ」と関わることで、私たちの生活そして社会のあり方などがどのように変容してきたか、「モノ」をめぐる歴史を検討する。今年度は自動車を取りあげる。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストは、ガイダンス時に配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 自動車がつくった社会【モータリゼーション】
- 第3回 カと近代【蒸気機関】、【内燃機関】、【原子力】
- 第4回 自動車の時代の終わり?【ICT】、【高付加価値生産】
- 第5回 自動車をめぐる国民文化【大衆社会】、【トクヴィル】、【ウェーバー】
- 第6回 自動車発明の前提1【職人文化】
- 第7回 自動車発明の前提2【互換性の思想】
- 第8回 自動車と20世紀文明【大衆社会、大量生産】
- 第9回 フォーディズムとは何か【ヘンリー・フォード】
- 第10回 自動車と道路【道路】
- 第11回 自動車と国家対立【貿易摩擦】
- 第12回 生産現場から見た自動車の歴史【自動車の構造】【生産工程】
- 第13回 自動車の開発1【電動化】【知能化】
- 第14回 自動車の開発2【電動化】【知能化】
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

近代化をめぐる政治、経済、文化の議論を展開しますので、政治学や経済学、カルチュラル・スタディとあわせて勉強すると、よく授業内容が分かります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自動車から開けていく様々な事柄を紹介しますので、多方面のことに興味を持って勉強して下さい。

キーワード /Keywords

大量生産システム、民主主義、比較文明論

人物と時代の歴史【昼】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 乗口 眞一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師
新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り越えたり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名
/Instructor

伊原木 大祐 / 基盤教育センター

履修年次 1年次
/Year

単位 2単位
/Credits

学期 2学期
/Semester

2学期

授業形態 講義
/Class Format

クラス 1年
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

西欧における道徳思想の変遷を哲学・宗教・演劇・音楽・小説などを手がかりに読み解いてゆく。今年度はとくに近代以後の展開に力点を置く予定である。本授業は、高校世界史や高校倫理の知識に乏しい受講者をも対象としたリメディアル教育の一環として構想されている。15回の講義を通して、一定の世界史的教養を獲得するとともに、道徳的価値観の多様なありかたを理解することが可能となるだろう。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時にそのつど指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 古代ギリシャ人の道徳【徳について】
- 3回 原始キリスト教の道徳【愛について】
- 4回 ルネサンスの道徳観(1)【運命と技量について】
- 5回 ルネサンスの道徳観(2)【シェイクスピア『マクベス』】
- 6回 革命前夜の道徳観(1)【アンシャン・レジームの崩壊】
- 7回 革命前夜の道徳観(2)【『フィガロの結婚』解説前半】
- 8回 革命前夜の道徳観(3)【『フィガロの結婚』解説後半】
- 9回 理性の道徳(1)【イギリス人VSドイツ人】
- 10回 理性の道徳(2)【幸福について】
- 11回 理性の道徳(3)【自由について】
- 12回 道徳の黄昏(1)【ニーチェ】
- 13回 道徳の黄昏(2)【戦慄の美学】
- 14回 道徳の黄昏(3)【革命と権力】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験... 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に聞いたことのない日本語や英語に出会った場合は、かならず国語辞典もしくは英和辞典を引く癖をつけてほしい。最低でもこれらの辞典は自宅に常備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義と連関するテーマについて更なる理解を深めたい学生諸君には、同担当者によるビジョン科目「生活世界の哲学」の履修を推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語などの迷惑行為に対しては厳しい態度で臨む。履修にあたっては真摯な受講を求めたい。とりわけ学習意欲に欠けていると見受けられる学生(授業中に下を向いてスマートフォンをいじっている、最後部の席に座って漫画を読んでいる、隣同士で始終しゃべっている、等々)には即刻退席を命じる。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
 「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤労性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
 同一性の視点から ・遊びと人生
 配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
 定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスII【昼】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）を友情の哲学と呼んだ識者がいた。多様な文化・人間性を周囲・地域に認めようということである。心の健康な人とは異端・極端を認め、そこから思考しようと努力する人であり「一人ひとりの幸福な生き方を配慮し援助する実践的な思想」といえる。時代は多文化共生の生き方を求めている。本講座では、一般的な心理学を基盤にした「メンタルヘルスI」勘案しながら、さらにポジティブ心理学やアドラーや森田正馬の心理療法領域や平和や人権文化の視点から心の健康増進の要件を学ぶ。青年期における健康な生活スタイルにも言及したい。欧米の理論も紹介しながら、特にわが国の文化的背景から出てきた、心の健康法にもふれることにより、受講者自身のセルフカウンセリングの能力がさらに高まることを期待したい。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1. 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。(自己管理) 2. 現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる(思考判断) 3. 卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる(生涯学習)。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

テキスト 特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 授業内容とタイムスケジュール (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション。受講上の注意など。【健康行動と感情】
 - 2回 心的態度と生き方のセルフチェック、うつや不安との付き合い方【あるがまま・とらわれ】
 - 3回～5回 人間の発達と自己形成【コフト理論やアドラー心理学などの理論紹介】
 - 6回～8回 心の体操。自分の価値観を知る。自分の人間関係スキルを磨く。【傾聴・対話】
 - 9回～10回 心のリフレッシュ。内観療法の視点から。森田療法の視点から。【感謝】
 - 11回～12回 ライフスタイルについて。平和志向や非暴力、DV防止、人権文化について。【人権・平和】
 - 13回～14回 ライフプランについて(ワークライフ・バランス)。地域や世界の心の健康を考える。
キャリアプラン 【仕事】【遊び】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自己の心の健康のみならず、他者や地域、国家や地球の環境にまで視野を拡大することを望みたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。そこで、この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。
授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動ができる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 準備運動と整理運動
- 4回 ストレッチング実習<実習>
- 5回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など)<実習>
- 6回 自分にとって必要な体力とは?
- 7回 運動処方
- 8回 運動強度測定(心拍数測定)<実習>
- 9回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 10回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 11回 正しいウォーキングとストックウォーキング<実習>
- 12回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど)<実習>
- 13回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して)<実習>
- 14回 運動・スポーツの動機付け
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動)<実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館(多目的ホール)と場所が異なるので、間違いがないようにすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力

フィジカル・ヘルスII 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、スポーツで身体のケアを目指す事に重点をおき、まずは楽しく身体を動かすことで心身の健康保持増進を図り、ウォーミングアップの大切さやストレッチングの理論と実践といったものから、ルールを守るとはどういうことなのか、ゲーム中の真摯な態度とは何かなど考えてみたい。

教科書 /Textbooks

授業時に資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康体力の理解
- 3回 身体のケアについて メンタル面
- 4回 身体のケアについて フィジカル面
- 5回 ウォーミングアップとクーリングダウン
- 6回 用具を使って身体を整える
- 7回 セルフマッサージで身体を整える
- 8回 テーピングによる簡単な予防
- 9回 トレーニングによって身体を整える
- 10回 ウェイトトレーニングの注意点
- 11回 体脂肪を減らすトレーニング
- 12回 柔軟性を高める運動 一人で行うもの
- 13回 柔軟性を高める運動 二人で行うもの
- 14回 腰痛と運動
- 15回 運動・スポーツの動機付け

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。

授業内容(講義・実習)によって教室・体育館・多目的ホールと場所が異なるので、間違いがないようすること。(体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること)

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスII 【昼】

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 1回 オリエンテーション
- 2回 仲間作り、ゲーム【コミュニケーション】
- 3回 (実習)ソフト・トリムバレーボール【笑顔】
- 4回 (講義)ストレッチの理論
- 5回 (実習)ストレッチの実際、ゲーム
- 6回 (講義)ふとる・やせる、適度な運動とは【体脂肪】、【ニコニコベース】
- 7回 (実習)軽運動、エアロビクス・ダンス【笑顔】
- 8回 (講義)フェアプレイ、スポーツマンシップとは
- 9回 (実習)球技を楽しもう①(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 10回 (実習)球技を楽しもう②(卓球、ショートテニス)【スポーツマンシップ】
- 11回 (講義)これからの運動①【心臓の予備力】、【体力の変化】
- 12回 (講義)これからの運動②【体力の維持・向上】、【継続性】
- 13回 (講義)レッツ・スポーツ【計画・企画】
- 14回 (実習)レッツ・スポーツ【主体性】
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容(講義・実習)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口の黒板にも記載するので、確認すること。

実習の場合は、運動できる服装と体育館シューズを準備して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

授業全体のキーワードは、【笑顔】と【コミュニケーション】である。

自己管理論 【昼】

担当者名 河津 慶太 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

大学生のほとんどがあてはまる青年期は、自我意識が高まる時期であり、精神の動揺も著しくなる。加えて、生活環境も大きく変化する。そのような状況下で、自己決定に基づいた健康的で自立した生活をおくることは容易ではない。そのためには、学生一人一人が自己管理の能力を身に付けていく必要がある。この授業では、各分野のプロフェッショナルの実体験や知識を学ぶことで、自己管理についての正しい知識と自己管理に対する意識を高め、心身ともに健康で前向きに生きられる自分づくりを目指す。

教科書 /Textbooks

パワーポイントや配布資料など

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に設けない。授業中に関連文献を随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 自己管理I 総論【心理学】：青年期の心と身体に関する問題を総論する。
- 第2回 防犯の心得【警察官】：安心・安全とはなにか。被害にあわないための具体的な自己防衛法について学ぶ
- 第3回 若者に最も大切な栄養の話【管理栄養士】：健康的に生活するために必要な栄養について学ぶ
- 第4回 自己管理II 体の健康【保健師】：多様な疾病・リスクを中心に生涯にわたる健康を見直す
- 第5回 考えるということ【心理学】：「考えることの出来る人間」を目指して、人の「思考」について学ぶ
- 第6回 コミュニケーション【心理学】：人間関係を円滑にするためのコミュニケーションについて学ぶ
- 第7回 薬と健康【薬剤師】：医療薬の効果や、サプリメントなどの健康のため薬について学ぶ
- 第8回 歯と口と健康を保つセルフケア【歯科技師】：歯および口腔のセルフケアについて学ぶ
- 第9回 依存と健康【精神科専門職】：心身ともに破滅に陥りやすい依存症の医学的知識を学ぶ
- 第10回 自己管理III 心の健康【臨床心理士】：心と身体の関係から起こる疾病の予防、対処法について学ぶ
- 第11回 障害とノーマライゼーション【作業療法士】：障がい者の地域福祉、関係法、ケアマネジメントの基本理念、自立生活を支援するための資源、サービス、情報などを身近な事例として紹介する。
- 第12回 健康な体と性感染症【助産師】：自分で予防できる感染症の知識や命の尊さを学ぶ
- 第13回 人権・ハラスメント関係【関係専門職】：人権侵害、ハラスメント防止などの知識と予防対策について学ぶ
- 第14回 目標設定【心理学】：日常生活のさまざまな場面に応用できる目標設定理論について学ぶ
- 第15回 自己管理IV まとめ【心理学】：小試験(選択、記述)、ポイントの復習などで総合的に理解を深める

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回のミニレポート：60% ②小試験：40% ①と②の総合点で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業で配布するレジュメをよく読みこんでおくこと

履修上の注意 /Remarks

- 1 一回目の総論で「自己管理論のプログラム」を配布する。
- 2 外部講師による講義のため、授業開始後20分には入室禁止する。私語厳禁。
- 3 毎回のミニレポートは出席確認としても取り扱う。
- 4 欠席した場合は、自己管理論用欠席届を提出する。
- 6 最終回の「自己管理IV まとめ」では小試験をおこなうので、必ず出席する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、自分の学びたい学問や、自分が将来したいことをみつけるというよりは、そのための基礎、基盤を培うためのものです。基礎がちゃんとしていない家は建てても歪んでしまいますが、それは人間も一緒です。みなさんもこの授業でしっかりと基礎、基盤をかためて社会に出ていく準備を整えましょう!!

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (ソフトボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 キャッチボール(スローイング、キャッチング)
- 3回 ピッチング(ウインドミル)
- 4回 バッティング(トスバッティング)
- 5回 ゴロの捕球・フライの捕球
- 6回 守備練習
- 7回 フリーバッティング
- 8回 ベースランニング
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ゲーム(1) 内野の連係プレイ
- 12回 ゲーム(2) 内外野の連係プレイ
- 13回 ゲーム(3) 走者の進め方
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (テニス) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 ストロークの基礎練習 (球出しによるフォアハンド練習)
- 3回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのフォアハンド練習)
- 4回 ストロークの基礎練習 (球出しによるバックハンド練習)
- 5回 ストロークの基礎練習 (ラリーの中でのバックハンド練習)
- 6回 サービスの基礎練習
- 7回 ボレーの基礎練習
- 8回 スマッシュの基礎練習
- 9回 ルールの説明
- 10回 戦術の説明・実践
- 11回 シングルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 12回 シングルスゲーム (2) ゲームの実践
- 13回 ダブルスゲーム (1) ゲーム法の解説
- 14回 ダブルスゲーム (2) ゲームの実践
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 導入実技
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習
- 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
- 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
- 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 10回 戦術の説明
- 11回 ダブルスのゲーム法の解説
- 12回 ダブルスの陣形の解説
- 13回 ダブルスゲームの実践
- 14回 ダブルスゲームのまとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 加倉井 美智子 / Kakurai Michiko / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スポーツルール百科

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (受講上の注意)
- 2回 バレーボール (1) サーブ、パスの基礎練習
- 3回 バレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 4回 バドミントン (1) 基本的な打ち方とフライト練習
- 5回 バドミントン (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 6回 卓球 (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 7回 卓球 (2) ダブルスのルール説明とゲーム
- 8回 ソフトバレーボール (1) サーブ、パス、アタックの基本練習
- 9回 ソフトバレーボール (2) ルール説明とゲーム
- 10回 ショートテニス (1) フォアハンド、バックハンドの基礎練習
- 11回 ショートテニス (2) ルール作りとゲーム
- 12回 選択種目 (1) 【バレーボール】 【卓球】
- 13回 選択種目 (2) 【バドミントン】 【ショートテニス】
- 14回 選択種目 (3) 【ソフトバレーボール】 【バドミントン】
- 15回 スキル獲得の確認 (選択種目)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(2) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(3) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 黒田 次郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 美山 泰教 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 サッカーの基本技術 (リフティング) の習得と試しのゲーム (1)
- 3回 サッカーの基本技術 (パス) の習得と試しのゲーム (2)
- 4回 サッカーの基本技術 (シュート) の習得と試しのゲーム (3)
- 5回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の説明
- 6回 サッカーの戦術 (ディフェンス) の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術 (オフェンス) の説明
- 8回 サッカーの戦術 (オフェンス) の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用習得
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合 (1) パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合 (2) 戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合 (3) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 鯨 吉夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
 この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
 - 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
 - 3回 導入実技
 - 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
 - 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
 - 6回 サービスの練習
 - 7回 応用組み合わせ練習 (ヘアピンリターン)
 - 8回 応用組み合わせ練習 (ドロップリターン)
 - 9回 ゲームの展開方法と審判法の習得
 - 10回 戦術の説明
 - 11回 ダブルスのゲーム法の解説
 - 12回 ダブルスの陣形の解説
 - 13回 ダブルスゲームの実践
 - 14回 ダブルスゲームのまとめ
 - 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (サッカー) 【昼】

担当者名 /Instructor 磯貝 浩久 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、サッカーの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サッカーの基本技術(リフティング)の習得と試しのゲーム(1)
- 3回 サッカーの基本技術(パス)の習得と試しのゲーム(2)
- 4回 サッカーの基本技術(シュート)の習得と試しのゲーム(3)
- 5回 サッカーの戦術(ディフェンス)の説明
- 6回 サッカーの戦術(ディフェンス)の習得と応用ゲーム
- 7回 サッカーの戦術(オフENS)の説明
- 8回 サッカーの戦術(オフENS)の習得と応用ゲーム
- 9回 サッカーの戦術の応用説明
- 10回 サッカーの戦術の応用ゲーム
- 11回 審判法の習得と試しのゲーム
- 12回 リーグ戦方式の試合(1)パスを意識して
- 13回 リーグ戦方式の試合(2)戦術を意識して
- 14回 リーグ戦方式の試合(3)まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

大学生の就職活動だけでなく、企業などで働いている社会人にとっても現在の労働環境は厳しいものがあります。皆さんは本学卒業後には何らかの職業に就くことになると思います。この授業は、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の5点をねらいとしています。

- ①様々な職業や企業の見方などの労働環境について知る
- ②将来の進路に向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく
- ③コミュニケーションをとることに慣れる
- ④社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤自分について知る

授業では、グループワーク、個人作業、ゲーム、講義などを組み合わせて進めていきます。進路に対する不安や迷いを解消できるように、皆さんと一緒に将来のことを考えていく時間にしたいと考えています。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス【授業の目的、授業のルール】
- 2回 進路の現状【就職・公務員・教員等の進路準備スケジュール】
- 3回 学生生活とキャリア【社会人基礎力・学力、企業が求める能力、大学時代の過ごし方】
- 4回 自分を知る(1)【自分の歴史を振り返る、自分の強みを知る】
- 5回 インターンシップ【インターンシップ経験者の話、インターンシップの効用】
- 6回 仕事をするということ【仕事を考える視点、仕事のやりがい】
- 7回 企業・業界について【企業の組織について、業界の見方】
- 8回 働いている人の話を聞く【実際の仕事、仕事のやりがいについて】
- 9回 就職試験を体験する【SPI、一般常識】
- 10回 様々な働き方【働き方の多様化、キャリアに対する考え方】
- 11回 キャリアとお金【働き方別の賃金、生活費シミュレーション】
- 12回 自分を知る(2)【自分の価値観を考える、多様性を認識する】
- 13回 就職活動の実体験【内定した4年生の話、就職活動のポイント】
- 14回 学生生活を考える【将来の目標、どんな学生生活を過ごすのか】
- 15回 まとめ【授業全体を振り返る、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 授業内のレポート...20% まとめのレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありませんが、自分のキャリアは自分で考えるしかありません。積極的・主体的に授業に参加し、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業に参加するには、社会人としての態度が求められます。以下の10力条を守ってください。

- ①遅刻厳禁②携帯メール厳禁、携帯はマナーモードでバッグの中③脱帽④飲食禁止⑤作業時間は守る⑥授業を聞くところ、話し合うところのメリハリをつける⑦グループワークでは積極的に発言する⑧周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける⑨分からないことは聞く⑩授業に「出る」ではなく、「参加する」意識を持つ

キャリア・デザイン【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また将来のために有意義な大学生活を営むために、

- ①アイデンティティを獲得するために、自分について深く知る
- ②働くこと、つまり様々な業界や企業、そして働き方などを知る
- ③多様な人々と協働する力を身に付けるために、初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④社会で働く上でお互いが気持ちよく活動するための最低限の倫理感、社会人マナーを身につける
- ⑤将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門1基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな自己表現のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア(社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 自分を知る① (一皮むける経験、身の丈を超えた経験、経験学習、ライフライン)
- 4回 地域活動に挑戦する (地域活動を経験した先輩とのディスカッション)※先輩登壇
- 5回 社会人としての倫理やマナー①(傾聴、多様性理解)
- 6回 自分を知る② (働く価値観や仕事へのこだわり、セルフアセスメントの実施)
- 7回 働くということ (仕事を考える視点、仕事のやりがい)※社会人ゲストを予定
- 8回 社会人としての倫理やマナー②(アサーショントレーニング)
- 9回 知ろう!使おう!労働法 (雇用形態と生涯賃金、ブラック企業、知るべき労働法)
- 10回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 11回 社会人としての倫理やマナー③(ダイアログ、ワールドカフェ)
- 12回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩とのディスカッション)※内定者登壇
- 13回 大学生活を面白くする (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 14回 まとめ&発表 (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...90% 最終回のレポート...10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ※毎回、来週の課題が提示されますので準備してください。
- ※自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

履修上の注意 /Remarks

- ※真鍋先生の「キャリアデザイン」と合わせて、全8コマあります。グループワークの運営上、1コマ150名以内にしたいたと思います。その場合には履修者調整をしますので、必ず第1回の授業は出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。
- ※本授業は必修ではありませんが、将来の進路のために大学生活をどう営むかを考える、主に1年生向けの授業です。真鍋先生の「キャリアデザイン」か本講義いずれかを履修することをお勧めします。
- ※毎回、授業開始直後にグループワークがあります。よって、遅刻すると他のメンバーに迷惑がかかりますので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。また、地域活動やインターシップなど、自らのキャリア形成に役立つインフォメーションもあります。積極的にご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観

コミュニケーション実践【昼】

担当者名 /Instructor 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本経団連の調査では、大卒新卒者に求める能力として『コミュニケーション力』が常にトップとなっています。ダイバーシティと言われるように、多様な価値観を持った人と円滑なコミュニケーションができることが、仕事を進めていく上でのポイントになります。しかし、コミュニケーションが得意であると感じている人は少ないのではないのでしょうか。この授業では、コミュニケーションに対する考え方から基本的技術、ディスカッション技法など、コミュニケーションにおける実践的な知識、技術をテーマとします。コミュニケーションが苦手な人にとってはコミュニケーションへの抵抗感を軽減しコミュニケーションに慣れていただきます。それだけではなく、就職活動や将来社会で実践できるコミュニケーションについて体験します。講師は企業研修等の実務を行っている方が担当します。講師の話聞くだけでなく現実場面を想定し、実践しながらコミュニケーションのトレーニングをします。したがって1クラスの人数を限定した講義となります。多数コマ開講していますので、都合のいい時間のコマに受講してください。

教科書 /Textbooks

レジュメを準備して進めていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、授業中に参考になる文献等を適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス 【授業の目的、授業のルール】
- 2回 コミュニケーション実践1
- 3回 コミュニケーション実践2
- 4回 コミュニケーション実践3
- 5回 コミュニケーション実践4
- 6回 コミュニケーション実践5
- 7回 コミュニケーション実践6
- 8回 コミュニケーション実践7
- 9回 コミュニケーション実践8
- 10回 コミュニケーション実践9
- 11回 コミュニケーション実践10
- 12回 コミュニケーション実践11
- 13回 コミュニケーション実践12
- 14回 コミュニケーション実践13
- 15回 まとめ 【授業のまとめ、総括】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50%、授業の成果物...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に準備することはありません。

履修上の注意 /Remarks

講義の性格上、1クラス50名程度での開講となります。例年多数の履修希望者があり抽選となっています。まずは、履修登録をしていただきますが、その後の履修者調整の方法は掲示等でお知らせしますので、注意しておいてください。また、抽選に当たったにも関わらず、授業を履修しない学生が見られます。そうすると、本当に受講したくても受講できない学生に迷惑がかかります。受講したいという意思を強く持っている学生に履修登録をしていただきたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニケーション、マナー、傾聴、プレゼンテーション

グローバル・リーダーシップ論【昼】

担当者名 永田 公彦 / グローバル人材育成推進室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

世界そして日本に押し寄せるグローバル化の波が、将来の皆さんの就職先となる企業や各種団体、さらに皆さん個人の人生にどう影響を与えるかを考察し、学生時代に何をしておくべきかのヒントを与えます。

また、将来皆さんが、世界の多様な文化価値観をもつ人たちの中で、リーダーシップを発揮し、国際的に活躍するための基礎的な視点、心構え、能力、知識を習得します。

< 授業の進め方 >

「講師の話を一方向的に聞いて、メモして覚える」のではなく「講師や仲間の話を傾聴し、積極的に質問と発言をしながら考える」ことに重点を置き、次の5つを取り混ぜたインタラクティブな(対話型)授業になります。

- ① 国際舞台で活躍する社会人の講演(国際事業・経営の体験談と皆さんへのメアドバイス等)
- ② 海外インターン(研修)をおこなった先輩の体験談や受入企業担当者の評価
- ③ ケーススタディ、ロールプレイ、ゲーム等
- ④ グループワーク(8名程度のグループで、調査、討議、レポート作成・提出、プレゼンテーション)
- ⑤ 個人ワーク(レポート作成・提出、プレゼンテーション)

教科書 /Textbooks

なし(適宜プリントを配布します)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『国際ビジネス入門1』(江夏健一・太田正孝・藤井健 編)中央経済社 ¥ 3,045
『採用基準』(伊賀泰代著)ダイヤモンド社 ¥ 1,575
『日本人こそ見直したい、世界が恋する日本の美德』(永田公彦著)ディスカバリー出版 ¥ 1,050

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス

第2~14回 グローバル展開に積極的な企業・団体の第一線で働く社会人の講演を中心に構成

(内訳) 社会人の講演(6回)~国際ビジネス・経営に関する体験談と皆さんへのアドバイス
講義(4回)~グローバル事業経営の全体像、異文化マネジメントの基本概念、グローバルリーダーシップの考察
先輩との交流(1回)~海外インターン体験
グループワーク(2回)~グローバル企業研究

第15回 個人ワーク(グローバルリーダーへの道)+総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① クラスへの出席と積極的な態度・・・70%(出席、習得レポート、積極的な質問と発言)
- ② アサインメント・・・30%(グループワーク、個人ワーク)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、次回授業の取り扱いテーマと事前準備のポイントを説明します。

グローバル・リーダーシップ論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業のルール（10箇条）～「積極的に、聴いて、質問して、発言する」

①～⑤は国際社会では当たり前です。⑥～⑩は社会人として最低限のマナーです。

- ① アクティブリスニング（相手の意見にしっかり耳を傾け反応する）
- ② 積極的に質問する（質問は恥ではなく禮だ～質問5個ルール）
- ③ 積極的に発言する（講義中やグループワーク時に、反論も含め自分の考えを発信する）
- ④ 授業に「出る」ではなく「参加する」
- ⑤ 答えは「人から知らされて覚える」のではなく「自分で考えてつくる」
- ⑥ 私語厳禁
- ⑦ 携帯電話メール厳禁（マナーモードでバッグの中）
- ⑧ 脱帽（事情がある場合は事前にご相談下さい）
- ⑨ 飲食は禁止（事情がある場合は事前にご相談下さい）
- ⑩ 作業時間は守る

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は、既に世の中にある正解を見つけようとするものではありません。各講師や仲間との積極的な対話と議論を通じ、自分（達）独自の答えを創り出そうとするものです。

キーワード /Keywords

グローバルビジネス、グローバル経営、グローバルリーダーシップ、異文化マネジメント

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域共生教育センター担当科目として開講します。
地域貢献活動へ参加する入門科目として、以下の6点をねらいとします。

- ①地域活動に関する実践的方法論の習得
- ②マッチング型などへの参加学生への指導
- ③プロジェクト型等は基盤演習
- ④実際に1つ以上の地域活動を体験することを通して、地域活動への参加意欲を高める
- ⑤既に地域活動に参加している学生によるシンポジウムを開催し、参加意欲を高める。
- ⑥地域活動家による講演会を開催し、地域活動への理解を深める。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回目 ガイダンス
講義の目的、留意事項、421Lab.の紹介
- 第2回目 地域活動概論①
地域活動の紹介、北九州市への理解
- 第3回目 地域活動概論②
コミュニティワークの紹介と応用
- 第4回目 地域活動家特別講演会(予定)
- 第5回目 地域活動参加学生によるシンポジウム(予定)
- 第6回目 演習:基本的コミュニケーション技術
話し方、姿勢・立ち位置、表情
- 第7回目 プロジェクトドライブ①
情報収集
- 第8回目 プロジェクトドライブ②
企画作成
- 第9回目 プロジェクトドライブ③
模擬作成したプロジェクトのプレゼンテーション
- 第10回目 プロジェクトドライブ④
記録、報告、連絡、相談
- 第11回目 マナー講座①
- 第12回目 マナー講座②
- 第13回目 地域活動と価値観
- 第14回目 地域活動とキャリアプラン
- 第15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50点)+期末レポート試験(50点)=合計100点評価

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講を希望するものは、ボランティア活動、地域活動に関する文献を1冊以上は読んでおくこと。

サービスラーニング入門I【昼】

履修上の注意 /Remarks

詳細については、第1回目の講義時に資料を配布しますので、そちらを必ずご参考ください。地域活動に既に参加しているかどうか、受講中に参加するかは関係ありませんので、多くの方に履修していただきたいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は、全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。この講義を通して、地域活動に興味を持った方は、第2学期開講の「サービスラーニング入門2」も受講してください。より深く地域活動をおして学びたい方は、基盤教育の教養基礎演習、教養演習も履修していただきたいです。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、キャリア形成

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターが担当する科目です。地域活動への参加を通して、学びを深めていくことを目的としています。この科目は、実際に何らかの地域活動に参加していただき、みんなでふりかえりながら、学びを深めるような授業内容となります。この科目を通して、1人でも多くの学生に地域活動に参加してもらいたいと思っています。

- 大きな柱は
- ①活動参加の目標設定
 - ②活動への参加と記録
 - ③ふりかえり
 - ④報告集作成
 - ⑤成果報告となります。

教科書 /Textbooks

レジメを配布。
講義時に随時紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1ガイダンス【目標・課題の設定】
- 2活動記録の方法
- 3ふりかえり①【グループワーク①】
- 4ふりかえり②【グループワーク②】
- 5ふりかえり③【グループワーク③】
- 6ふりかえり④【プロセスレコード作成】
- 7ふりかえり⑤【プロセスレコードの発表】
- 8ふりかえり⑥【活動の困りごと、課題の共有化】
- 9ふりかえり⑦【課題の解決方法を考える】
- 10ふりかえり⑧【体験のカタルシス】
- 11ふりかえり⑨【活動報告作成】
- 12ふりかえり⑩【活動報告のピアレビュー】
- 13活動報告会①
- 14活動報告会②
- 15まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題(50点) + 活動報告提出(25点) + 活動報告会での発表(25点) = 100点満点で評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

サービスラーニング入門1を受講しておいてください。地域共生教育センターが提供するプロジェクト型もしくはマッチング型の活動、まちなかESDセンターが提供するプロジェクト、地域のボランティアセンターが募集している活動等に、一つ以上参加することを求めます。実際に地域活動に参加し、それをふりかえることを趣旨とした科目だからです。詳しくは、初回の授業時に説明をします。

履修上の注意 /Remarks

何らかの地域活動に参加していただくことを前提としています。できれば、開講前の夏休みまでには、何からの活動を初めてください。もし受講開始時点で、まだ活動に参加できていない場合は、担当教員、421Lab.まで申し出てください。参加していただく活動を一緒に考えましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は、「サービスラーニング入門1」を先に受講していることを前提としますので、必ず受講しておいてください。またこの科目を履修後は、発展的に「プロジェクト演習」を履修していただきたいです。

サービスラーニング入門II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、ESD、キャリア形成

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科, 西澤 律子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

ホスピタリティという言葉は、昨今、日常用語として定着してきたが、実際にはサービスやおもてなしなどの言葉と同義に使われており、正しい理解を得ていないように思われる。現時点においては、ホスピタリティという言葉が先行して、その意味内容と思想の重要性が説明されていない。人と人との関係をさらに良いものへと変えていこうという考え方ないし思想は、営利団体や非営利団体を問わず、重要度を増しており、理論的側面においても実践面においても、十分に認識される必要がある。地方自治体と住民との関係、企業と顧客の関係といった<関係性>を深く考察し、良好な関係作りを模索することは、今後の社会の在り方において重要な示唆を与えてくれる。

【授業のねらい】

1. ホスピタリティという言葉が、いかに、サービスや、おもてなしなどの言葉と異なるか、歴史や言葉の起源を辿ることにより固有の意味内容を明らかにする。
2. 現時点において、ホスピタリティについてどのような議論や学説があるか、問題点を整理する。
3. 今後の社会生活において「ホスピタリティ」をどのように活かしていくべきか考察する。

【到達目標】

1. ホスピタリティに関する総合的知識を深める。
2. ホスピタリティの視点を持って広く社会生活や企業活動の問題を発見し、より深く分析し解決していく能力を身に付ける。
3. ホスピタリティの理論を学ぶことにより、以後の社会生活の中で実践していく。

教科書 /Textbooks

教科書はなし。
 講義の際、レジュメを配布するので、各自保管すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「ホスピタリティ・マネジメント原論」 服部勝人著 (丸善株式会社)
 「ホスピタリティ原論」 山本哲士著 (文化科学高等研究院出版局)
 「真実の瞬間」 ヤン・カールソン著 (ダイヤモンド社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 概要 【ホスピタリティの領域】 【授業の進め方】 【学習目標】 【評価方法】
- 2回 ホスピタリティとは何か 【ホスピタリティの歴史と文化】 【西洋のホスピタリティ】 【おもてなし】
- 3回 ホスピタリティの基本 【ホスピタリティとサービスの語源と概念比較】 【ホスピタリティの思考】
- 4回 ホスピタリティと心理学【EQ】 【交流分析】
- 5回 ホスピタリティとマナー 【プロ意識】 【身だしなみ】 【人間関係】 【電話やメール】
- 6回 ホスピタリティとコミュニケーション 【聴き方の基本】 【効果的な話し方】 【言語と非言語】
- 7回 ホスピタリティとビジネス【顧客心理】 【クレーム対応】 【CS他】
- 8回 中間まとめ
- 9回 ホスピタリティ産業の現状 その1 【近年の航空事業の動向】
- 10回 ホスピタリティ産業の現状 その2 【接客現場】 【国際線業務】 【社員教育】
- 11回 ホスピタリティ産業の現状 その3 【宿泊産業におけるホスピタリティ】
- 12回 ホスピタリティと企業 その1 【職場環境】 【内部顧客】 【メンタルヘルス】
- 13回 ホスピタリティと企業 その2 【企業の社会的責任】 【企業の商品開発と社会貢献】
- 14回 ホスピタリティの意義と可能性 【知識とホスピタリティ】 【暗黙知と形式知】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の成績 70%
 日頃の取り組み 10%
 授業中に行うミニテストの提出 20%

教養特講II (ホスピタリティ論) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ホスピタリティの講座は、宿泊産業、旅行業などのホスピタリティ産業に関心がある学生はもちろんのこと、それ以外の業種を考えている学生にとっても、直接的に関わる内容が豊富に含まれています。ホスピタリティの発揮が求められる場合は、学生生活、就職活動、企業での活躍の場、社会生活等無限に広がっていることを知って下さい。講義全体を通して、ホスピタリティの感覚を自然に自分の中に取り込み実践できるように導きます。

キーワード /Keywords

ホスピタリティ サービス おもてなし EQ 交流分析 暗黙知

データ処理【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 再履 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

英語I (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of law and regional development majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Students must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Martin Milner, World English 1A, Heinle Cengage Learning, 2010 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小テスト含む) ...40% 期末試験...60%
(上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。)
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)受験の有無が最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力（リーディング力）や聴く力（リスニング力）の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況（小テストを含む）...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)受験の有無をあわせて最終評価を出します。
TOEICスコアの成績への評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。また、テキストと併せて洋画のDVDを使用し、TOEIC関連の語句・表現を学ぶ。

教科書 /Textbooks

Power Charge for the TOEIC® Test
TOEIC®テストパワーアップ総合講座
西田晴美 / 吉田佳代 / 伊藤佳世子 / Brian Cover 著
¥2,048

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Eating Out[文の構造]
- 3回 Unit2 Amusement[名詞I: 名詞・代名詞]
- 4回 Unit3 Daily Life[名詞II: 可算 / 不可算名詞]
- 5回 Unit4 Directions[形容詞・副詞]
- 6回 Unit5 Travel[動詞・助動詞]
- 7回 Unit6 Advertising[時制]
- 8回 Unit7 Personnel[イデオムI]
- 9回 Unit8 Purchases[一致]
- 10回 Unit9 Office Work[分詞・動名詞・不定詞]
- 11回 Unit10 Employment[関係詞]
- 12回 Unit11 Business[接続詞・前置詞]
- 13回 Unit12 Finance & Banking[特殊構文]
- 14回 Unit13 Health & Welfare[比較]
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(40%)と筆記試験(60%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。平常点と筆記試験の配点比率を変更する際は、事前に告知する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次週扱うユニットの問題を解いてくること。
テキストと辞書の持参。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 3回 Unit1 Daily Life [名詞・主語と動詞の一致]
- 4回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 5回 Unit2 Eating Out & Amusement [形容詞・副詞]
- 6回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 7回 Unit3 Cooking & Purchasing [基本時制]
- 8回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 9回 Unit4 Traffic & Travel [進行形・完了形]
- 10回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 11回 Unit5 Production & Logistics [受動態]
- 12回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 13回 Unit6 Business & Economics [分詞・分詞構文]
- 14回 Review Test 1 (Unit1 ~ 6)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 野上 良子 / NOGAMI YOSHIKO / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

英語の検定試験のなかでも特に社会的ニーズの高いTOEICは、1979年のスタート以来、数多くの企業・団体・学校で採用されている。特にこの10年、インターネットの出現に象徴されるグローバル化が政治・経済・文化など様々な分野に影響を与え、その結果必要とされる英語能力も変化してきた。授業では、More Authentic (より実地的な) になってきた現在のTOEICの問題を扱ったテキストを用い、リスニング・リーディング双方の英語能力を高めていく。リスニングでは「的確に聞き取る力」、リーディングでは「的確に読んですばやく理解する力」を養い、限られた時間のなかで最大限の効果があげられるようにしていきたい。

教科書 /Textbooks

- ① Conquering the TOEIC Test (『新TOEICテスト全パート完全征服ガイド』)
著者：河原真也他 出版社：朝日出版社 (¥2,000)
- ② Interactive English Book for the TOEIC Test Book 2
著者：内田雅克他 出版社：松柏社 (¥1,580)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

①のテキストには英語スクリプトと解法がついている。解法を読みながらエクササイズに答えることで、各パート (Part 1-7) の解き方のヒントを掴んでいく。①のテキストの使い方は授業中適宜知らせる。以下は②のテキストの内容である。

- 〈第1回〉 Lesson 1: Disaster (TOEIC Parts 1.5.7)
- 〈第2回〉 Lesson 2: Inspiring Women (TOEIC Parts 2.5.6)
- 〈第3回〉 Lesson 3: Fashion (TOEIC Parts 3.5)
- 〈第4回〉 Lesson 4: Politics (TOEIC Parts 4.5)
- 〈第5回〉 Lesson 5: Animals (TOEIC Parts 5.7)
- 〈第6回〉 Lesson 6: The Environment (TOEIC Parts 1.5.7)
- 〈第7回〉 Lesson 7: Social Issues (TOEIC Parts 2.5.6)
- 〈第8回〉 Lesson 8: Sports (TOEIC Parts 3.5)
- 〈第9回〉 Lesson 9: The Human Body (TOEIC Parts 4.5)
- 〈第10回〉 Lesson 10: Global Economy (TOEIC Parts 5.7)
- 〈第11回〉 Lesson 11: Space (TOEIC Parts 1.5.7)
- 〈第12回〉 Lesson 12: Food for Thought (TOEIC Parts 2.5.6)
- 〈第13回〉 Lesson 13: Globalization (TOEIC Parts 3.5)
- 〈第14回〉 Lesson 14: Seniority (TOEIC Parts 4.5)
- 〈第15回〉 Lesson 15: Gender and Society (TOEIC Parts 5.7)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 20%、期末テスト 80%
出席することは前提であるため、出席点は加味しないが、正当な理由無く5回以上欠席した場合は単位を与えない。
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2冊のテキストを用いるので、自宅では辞書をひき、付属CDを聴いて、しっかり予習をして授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストについて、出題形式や問題の特徴の違いを踏まえ、基本的な文法・語彙を復習するとともに、TOEICテストで必要とされる英語のリスニング力やリーディング力の養成をはかる。特にTOEICテストで出題されやすい文法事項および語彙のうち、基本的な内容について復習を行い定着を図る。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集vol.5』（国際ビジネスコミュニケーション協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集vol. 2, vol. 3, vol. 4』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEICテスト：Part 1~4（リスニング問題）の概要
- 3回 TOEICテスト：Part 5~7（リーディング問題）の概要
- 4回 Part 1、Part 5と関連する文法の学習
- 5回 Part 2、Part 5と関連する文法の学習
- 6回 Part 3、Part 5と関連する文法の学習
- 7回 Part 4、Part 5と関連する文法の学習
- 8回 Part 1～Part 5の復習
- 9回 Part 6（ビジネス関係）と関連する文法の学習
- 10回 Part 6（その他）と関連する文法の学習
- 11回 Part 7（ビジネス関係）と関連する文法の学習
- 12回 Part 7（その他）と関連する文法の学習
- 13回 Part 6～Part 7の復習
- 14回 Part 1～Part 4の復習
- 15回 総合復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験（50％）、日常の授業への取り組み（40％）、単語テスト（10％）
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回単語テストを実施、課題を出すので、必ず学習し授業に備えてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、実践英語の習得に不可欠の基本文法の学習を基盤とし、英語運用4技能のうち「聴く・読む」技能の向上に重点を置いた指導を行っていく。「聴く」に関しては、付属のCDを使って文章単位の「聞き取り練習」を毎回実施し、英語の音に慣れると同時に文章内容を自然な音の速さで把握していく力を養っていく。「読む」に関しては、テキストの各課記載の文章を正確に読み取っていく「精読」を中心とした学習作業を通して、「速読」につながる読解力が身に付くよう指導していく。(TOEIC目標スコア・・・前学期スコアの50点アップ)

教科書 /Textbooks

Donald Beaver 他著 「Navigator for the TOEIC Test」 南雲堂 1890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽, マーク・ピーターセン 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800円
各個人の目標スコアにあったTOEIC問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&実力確認テスト
- 第2回 Lesson1/2 動詞
- 第3回 Lesson3/4 時制
- 第4回 Lesson5/6 形容詞
- 第5回 Lesson7/8 名詞
- 第6回 Lesson9/10 分詞構文
- 第7回 Lesson11/12 不定詞
- 第8回 Lesson13/14 動名詞
- 第9回 復習テスト
- 第10回 Lesson15/16 一致
- 第11回 Lesson17/18 関係詞
- 第12回 Lesson19/20 接続詞
- 第13回 Lesson21/22 仮定法
- 第14回 Lesson23/24 否定
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト・・・50% 期末テスト・・・50%
上記講義成績にTOEICスコアを反映させた成績が最終評価となる。反映方法は、初回授業で文書を配布し説明する。
欠席は2回まで。遅刻は2回で一回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

This course has been designed to develop English skills in way that improvement can be measured through higher levels of achievement in the TOEIC test. Additional aims include helping students identify and better manage their own learning. The course also aims to give students an opportunity to write about their own lives in a short English journal. Activities include homework completed before and checked in each lesson, listening and speaking, group discussion of example problems as well as the completion of many TOEIC practice examples provided with the core text.

教科書 /Textbooks

Successful Keys to the TOEIC Test 3 Goal 700 2nd edition
Atsushi Mizumoto, Mark D. Stafford

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1
Week 3 Unit 2
Week 4 Unit 3
Week 5 Unit 4
Week 6 Unit 5
Week 7 Unit 6
Week 8 Mid-Semester Test
Week 9 Mid-Semester test review
Week 10 Unit 7
Week 11 Unit 8
Week 12 Unit 9
Week 13 Unit 10
Week 14 Unit 11
Week 15 Unit 12

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Examination 40%
Mid-Term examination 30%
Journal 20%
Class Participation 10%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Journal Entry
Completion of assigned homework exercises

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語II (律政群 1 - A) 【昼】

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

基礎的な英語能力の定着を目的とする。さまざまな分野の英文テキストを通して、読む力 (リーディング力) や聴く力 (リスニング力) の向上を目指す。また、適宜、TOEIC形式の問題演習を通してTOEICテストに慣れることも目指す。

教科書 /Textbooks

大学生協のテキストリストに指定する。
その他、適宜プリントを用いる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 まとめ(1)
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Unit 9
- 12回 Unit 10
- 13回 Unit 11
- 14回 Unit 12
- 15回 まとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...40%、平常の学習状況 (小テストを含む)...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)スコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

重要な文法事項の確認と語彙力の増強を行いながら、英語の読解力と聴解力を養うことを目的とする。また、TOEIC形式の問題演習を通して、TOEIC形式に慣れることも目的とする。

教科書 /Textbooks

生協の教科書リストに指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1
- 3回 Chapter 2
- 4回 Chapter 3
- 5回 Chapter 4
- 6回 Chapter 5
- 7回 Chapter 6
- 8回 Chapter 7
- 9回 Chapter 8
- 10回 Chapter 9
- 11回 Chapter 10
- 12回 Chapter 11
- 13回 Chapter 12
- 14回 Chapter 13
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト含む)...40% 期末試験...60%
上記の講義評価とTOEIC(TOEFL)のスコアをあわせて最終評価を出します。スコアの反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回TOEIC(TOEFL)テストを受験することが義務付けられています。なお、TOEIC(TOEFL)のスコアが最終評価に反映されます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor 石田 由希 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

BBCニュースのディクテーションと読解を通して、前期に学んだTOEICの関連語句・表現を復習する。

教科書 /Textbooks

BBC Understanding the News in English 10 「DVDでBBCニュースを見て、聞いて、考える 10」小野田 榮 / Lucy Cooker 編著 金星堂 \2520

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit1 Pandas from China Visit Edinburgh Zoo
- 3回 Unit2 Drive for Healthier Lunchboxes
- 4回 Unit3 Peace Gate Opened in Belfast
- 5回 Unit4 Spain's Lost Generation?
- 6回 Unit5 The Best Place in Britain to Grow Up
- 7回 Unit6 Animal Rights Threaten Medical Research
- 8回 Unit7 Addiction to Smartphones
- 9回 Unit8 India's Economic Potential
- 10回 Unit9 The UK's Daily Commute
- 11回 Unit10 Stay Alcohol Free for Two Days
- 12回 Unit11 Migration and Job Losses in the UK
- 13回 Unit12 The Future of Television
- 14回 Unit13 Illicit Gold Mining in Congo
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(40%)と筆記試験(60%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。平常点と筆記試験の配点比率を変更する際は、事前に告知する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次週扱うユニットの問題を解いてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

TOEICの出題パターンに慣れるだけでなく、効率的な取り組み方と出題傾向を学び、スコアアップを目指す。

教科書 /Textbooks

Seize the Essence of the TOEIC Test 「TOEICテストのエッセンスを学ぶ」 安丸雅子 / 八尋真由実 他著 金星堂 ￥1995

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 3回 Unit7 Advertising & ICT [不定詞・動名詞]
- 4回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 5回 Unit8 Health & the Environment [助動詞]
- 6回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 7回 Unit9 Law & Administration [代名詞・関係詞]
- 8回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 9回 Unit10 Employment & Personnel [比較構文]
- 10回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 11回 Unit11 Finance & Banking [前置詞]
- 12回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 13回 Unit12 Office Work & Correspondence [その他の構文]
- 14回 Review Test 2 (Unit7 ~ 12)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(20%)と筆記試験(80%)に、出席状況・学習態度・TOEICテストの結果を加味して総合的に評価する。
TOEICスコアの評価の反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

単元毎に単語テストを実施するので、各自勉強して準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

Points of this class are English speaking, listening, reading and writing skills. The class is designed to meet the needs of law and regional development majors in regards to communication. The target of this course is to provide an environment that will enhance the communication skills of second language English speakers who wish to study English and communicate confidently. Students must ask questions in class. Students must be prepared to present 3 minute conversations in class as homework.

教科書 /Textbooks

Martin Milner, World English 1A with student CD-ROM, Heinle Cengage Learning, 2010 (Textbook must be brought to the first class).

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionary: bilingual is preferable.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Course Introduction. Meet people.
- 第2回 Ask for and give personal information. Describe different occupations.
- 第3回 Talk about people and occupations. Video Journal : Last of the Woman Divers
- 第4回 Talk about work and free time activities.
- 第5回 Describe a festival or a celebration. Compare different festivals.
- 第6回 Video Journal : Hula. Identify possessions
- 第7回 Ask for and give personal travel information. Give travel advice.
- 第8回 Share special travel tips. Video Journal : Beagle Patrol
- 第9回 Talk about food. Order a meal.
- 第10回 Talk about diets. Discuss unusual and favorite foods.
- 第11回 Video Journal : Dangerous Dinner. Talk about activities happening now.
- 第12回 Compare everyday and present-time activities. Talk about favorite sports.
- 第13回 Discuss adventure holidays. Video Journal : Cheese-Rolling Races
- 第14回 Talk about personal communication. Give and write down contact details.
- 第15回 Describe characteristics and qualities. Compare different types of communication.

成績評価の方法 /Assessment Method

English conversation test: 10%
Class work and assignments : 70%
Final examination : 20%
No credit will be given to students who are absent four or more times.
The student must bring a hospital receipt to the next class attended if he or she is absent because of sickness.
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Homework is necessary for every class. Each student must be prepared to do present a 3 minute conversation in class as homework.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 1 - G
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業では、TOEICテストの問題形式に習熟し、語彙を増やし、TOEICで必要とされるリスニング力、リーディング力の更なる向上をはかる。また英字新聞・雑誌や小説を読むことで、TOEIC以外の英文にも触れ幅広い英語力の養成をはかる。

教科書 /Textbooks

『TOEICテスト新公式問題集vol. 5』国際コミュニケーション協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEICテスト新公式問題集vol. 2, vol. 3, vol. 4, vol. 5』国際コミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス・授業の進め方
- 2回 TOEICテストリスニング問題、読み物 (1)
- 3回 TOEICテストのリスニング問題、読み物 (2)
- 4回 TOEICテストのリスニング問題、読み物 (3)
- 5回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (4)
- 6回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (5)
- 7回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (6)
- 8回 復習
- 9回 TOEICテストのリスニング問題、読み物 (7)
- 10回 TOEICテストのリスニング問題、読み物 (8)
- 11回 TOEICテストのリスニング問題、読み物 (9)
- 12回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (10)
- 13回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (11)
- 14回 TOEICテストのリーディング問題、読み物 (12)
- 15回 復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、日常の授業への取り組み (40%)、単語テスト (10%)
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回単語テストを実施、課題を出すので、必ず学習し授業に備えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - I) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - I

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業では、実践英語の習得に不可欠の基本文法の学習を基盤とし、英語運用4技能のうち「聴く・読む」技能の向上に重点を置いた指導を行っていく。「聴く」に関しては、付属のCDを使って文章単位の「聞き取り練習」を毎回実施し、英語の音に慣れると同時に文章内容を自然な音の速さで把握していく力を養っていく。「読む」に関しては、テキストの各課記載の文章を正確に読み取っていく「精読」を中心とした学習作業を通して、「速読」につながる読解力が身に付くよう指導していく。(TOEIC目標スコア・・・前学期スコアの50点アップ)

教科書 /Textbooks

Donald Beaver 他著 「Navigator for the TOEIC Test」 南雲堂 1890円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

綿貫 陽, マーク・ピーターセン 「表現のための実践ロイヤル英文法」 旺文社 1800円
各個人の目標スコアにあったTOEIC問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション&実力確認テスト
- 第2回 Lesson1/2 動詞
- 第3回 Lesson3/4 時制
- 第4回 Lesson5/6 形容詞
- 第5回 Lesson7/8 名詞
- 第6回 Lesson9/10 分詞構文
- 第7回 Lesson11/12 不定詞
- 第8回 Lesson13/14 動名詞
- 第9回 復習テスト
- 第10回 Lesson15/16 一致
- 第11回 Lesson17/18 関係詞
- 第12回 Lesson19/20 接続詞
- 第13回 Lesson21/22 仮定法
- 第14回 Lesson23/24 否定
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績 復習テスト・・・50% 期末テスト・・・50%
上記講義成績にTOEICスコアを反映させた成績が最終評価となる。反映方法は、初回授業で文書を配布し説明する。
欠席は2回まで。遅刻は2回で一回欠席とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回予習・復習を怠らないこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

This is an English Communication course. Focus will be on improving the four major English skills-speaking, listening, reading and writing. Various communication activities, individual/group work, and presentations will be used in class to facilitate the acquisition of these skills. Upon completion of this course, students should have increased confidence in their ability to speak and understand English and communicate more confidently in English with those around them.

教科書 /Textbooks

Interchange Book 2 with Audio CD (Third Edition) by Jack C. Richards (Cambridge University Press) as well as materials prepared by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to have both an English-to-Japanese and Japanese-to-English dictionary.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week One: Course Introduction
- Week Two: Unit 1 "A Time to Remember" People; childhood; memories
- Week Three: Unit 1 "A Time to Remember" Practice and wrap up
- Week Four: Unit 13 "Good Book, Terrible Movie!" Entertainment; movies and books; reactions and opinions
- Week Five: Unit 13 "Good Book, Terrible Movie!" Practice and wrap up
- Week Six: Unit 16 "What's Your Excuse?" Requests; excuses; invitations
- Week Seven: Unit 16 "What's Your Excuse?" Practice and wrap-up
- Week Eight: Midterm Review
- Week Nine: Unit 5 "Going Places" Travel; vacations; plans
- Week Ten: Unit 5 "Going Places" Practice and wrap-up
- Week Eleven: Unit 11 "It's Really Worth Seeing!" Landmarks and monuments; world knowledge
- Week Twelve: Unit 11 "It's Really Worth Seeing!" Practice and wrap-up
- Week Thirteen: Unit 4 "I've Never Heard of That!" Food; recipes; instructions; cooking methods
- Week Fourteen: Unit 8 "Let's Celebrate!" Holidays; festivals; customs; celebrations
- Week Fifteen: Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- Participation - 20%
- Reports - 20%
- Quizzes and Presentations - 20%
- Final Exam - 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to bring the following to class: 1) textbook 2) notebook 3) clear file or folder 4) electronic dictionary. In addition, READ English books to increase your vocabulary. Write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation whenever you can. WATCH English movies and LISTEN to English music in order to create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English Communication class, so all students are expected to speak English as much as possible. Your instructor will do the same. The instructor will provide a fun, learning environment for the students. Thomas Jefferson once said, "Nothing can stop the man with the right mental attitude from achieving his goal; nothing on earth can help the man with the wrong mental attitude." Having the right attitude for learning English will help the student achieve the goals for this class.

キーワード /Keywords

English communication

英語III (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 1, Cengage, ISBN 0-534-83572-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Asking for personal information.
- 3 回 Talking about dislikes
- 4 回 Talking about travel jobs
- 5 回 Explaining facilities
- 6 回 Describing locations
- 7 回 Opening times
- 8 回 Talking about schedules
- 9 回 Reservation problems
- 1 0 回 Confirming reservations
- 1 1 回 Changing reservations
- 1 2 回 Asking about preferences
- 1 3 回 Checking in
- 1 4 回 Checking out
- 1 5 回 Student Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies in 2013-14. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語III (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 1
Optimal Levels! Project Book

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Introduction / Writing
- 第 2 回 Love-Introductions
- 第 3 回 Love-Building Skills
- 第 4 回 Love-Essay composition
- 第 5 回 Presentation
- 第 6 回 Justice-Introduction
- 第 7 回 Justice-Building Skills
- 第 8 回 Justice-Essay composition
- 第 9 回 Presentation
- 第10回 Humanity-Introduction
- 第11回 Humanity-Building Skills
- 第12回 Humanity-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test Practice / Composition

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1
Week 3 Unit 2
Week 4 Unit 3
Week 5 Unit 4
Week 6 Unit 1-4 Expansion
Week 7 Discussion Planning
Week 8 Mid-Semester Review
Week 9 Unit 5 and Discussion 1
Week 10 Unit 6 and Discussion 2
Week 11 Unit 7 and Discussion 3
Week 12 Unit 8 and Discussion 4
Week 13 Units 5-8 Expansion
Week 14 Review
Week 15 Diary Interviews

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語III (律政群 1 - D) 【昼】

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名
/Instructor

クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 律政群 1 - E
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling.

During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)Introduction to the course
- 第2回Unit 1: Me and You
- 第3回Meeting new people
- 第4回Unit 2: We get along
- 第5回Talking about families
- 第6回Unit 3: Too scared to watch
- 第7回Talking about the movies you like
- 第8回Review of units 1-3
- 第9回Unit 4: Hanging out
- 第10回Talking about lifestyle
- 第11回Unit 5: Short of cash
- 第12回Talking about how we use money
- 第13回Unit 6: My new place
- 第14回Talking about where you live
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

英語III (律政群 1 - E) 【昼】

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No references

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Orientation
- Week 2 Shadow Talking
- Week 3 Speaking for Speed
- Week 4 Repeating for Communication
- Week 5 Conversation Style
- Week 6 Expand and Recycle
- Week 7 Speaking on Topics
- Week 8 Workarounds
- Week 9 Speaking on Topics
- Week 10 Disagreement
- Week 11 Reason Articulation
- Week 12 Group Conversation
- Week 13 Group Conversation
- Week 14 Test Practice
- Week 15 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.
Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are heavily advised to do Shadow Talking for at least five minutes before the start of each class. More information on Shadow Talking will be provided in class.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語III (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

Communicative English skills

教科書 /Textbooks

English in Common 2 (Pearson)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Getting to know you)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (School and Leisure)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Your free time)
- 第 6 回: Unit 4 and discussion in English (Food)
- 第 7 回: Unit 5 and discussion in English (Around the house)
- 第 8 回: Unit 6 and discussion in English (Around town)
- 第 9 回: Unit 7 and discussion in English (Describing people)
- 第 10 回: Unit 8 and discussion in English (Dressing right)
- 第 11 回: Unit 9 and discussion in English (Entertainment)
- 第 12 回: Unit 10 and discussion in English (Going places)
- 第 13 回: Unit 11 and discussion in English (Education)
- 第 14 回: Unit 12 and discussion in English (Your goals)
- 第 15 回: Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

As directed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy learning English

キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語Ⅲ (律政 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Essential Approach for the TOEIC Test” 『TOEICテストへのニューアプローチ』
(大須賀直子共著) 成美堂 ¥2,000 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、Pre-test
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Unit 5
- 7回 Unit 6
- 8回 Unit 7
- 9回 Unit 8
- 10回 Unit 9
- 11回 Unit 10
- 12回 Unit 11
- 13回 Unit 12
- 14回 Unit 13
- 15回 Unit 14、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、課題含む）：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor
リズ・クレシーニ / Riz CRESCINI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - A /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

This is an English Communication course. This course will build on the speaking, listening, reading and writing skills achieved in the previous semester course. Various communication activities, individual/group work, and presentations will be used in class to facilitate the acquisition of these skills.

教科書 /Textbooks

Interchange Book 2 with Audio CD (Third Edition) by Jack C. Richards (Cambridge University Press) as well as materials prepared by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week One: Course Introduction and Review
 Week Two: Unit 3 "Time for a Change!" Houses and apartments; lifestyle changes; wishes
 Week Three: Unit 3 "Time for a Change!" Practice and wrap up
 Week Four: Unit 6 "OK. No Problem!" Complaints; household chores; requests; excuses; apologies
 Week Five: Unit 6 "OK. No Problem!" Practice and wrap up
 Week Six: Unit 7 "What's This For?" Technology; instructions
 Week Seven: Unit 7 "What's This For?" Practice and wrap up
 Week Eight: Midterm Review
 Week Nine: Unit 9 "Back to the Future" Life in the past, present, and future; changes and contrasts; consequences
 Week Ten: Unit 9 "Back to the Future" Practice and wrap up
 Week Eleven: Unit 15 "What Would You Do?" Money; hopes; predicaments; speculations
 Week Twelve: Unit 15 "What Would You Do?" Practice and wrap up
 Week Thirteen: Unit 10 "I Don't Like Workin on Weekends!" Abilities and skills; job preferences; personality traits; careers
 Week Fourteen: Unit 10 "I Don't Like Workin on Weekends!" Practice and wrap up
 Week Fifteen: Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation - 20%
 Reports - 20%
 Quizzes and Presentations - 20%
 Final Exam - 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Students are expected to bring the following to class: 1) textbook 2) notebook 3) clear file or folder 4) electronic dictionary. In addition, READ English books to increase your vocabulary. Write down vocabulary and phrases you don't know and then try to use those words and phrases in English conversation whenever you can. WATCH English movies and LISTEN to English music in order to create your own English listening environment. Be ready to ask questions in English, speak English, write English and listen to English. Stop being over-dependent on your electronic dictionary to learn English.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an English Communication class, so all students are expected to speak English as much as possible. Your instructor will do the same. The instructor will provide a fun, learning environment for the students. Thomas Jefferson once said, "Nothing can stop the man with the right mental attitude from achieving his goal; nothing on earth can help the man with the wrong mental attitude." Having the right attitude for learning English will help the student achieve the goals for this class.

キーワード /Keywords

English communication

英語Ⅳ (律政群 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

This task-based course aims to improve students' ability to use English for daily communication. Speaking English individually and in small groups is required in each class.

教科書 /Textbooks

Hall & Blappert, First Class English for Tourism 1, Cengage, ISBN 0-534-83572-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student Presentations – Summer Holidays
- 2 回 Transferring calls
- 3 回 Responding to requests
- 4 回 Travel itineraries
- 5 回 Reacting to schedule changes
- 6 回 Ordering in restaurants
- 7 回 Complaining about problems
- 8 回 Fixing problems
- 9 回 Taking messages
- 1 0 回 Asking and giving directions
- 1 1 回 Recommending and giving travel advice
- 1 2 回 Discussing prices and bargaining
- 1 3 回 Changing money
- 1 4 回 Extra charges
- 1 5 回 Saying goodbye to guests and customers

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...50% 学期末試験...30% プレゼンテーション...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies in 2013-14. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

Tourism

英語Ⅳ (律政群 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、外国語コミュニケーション能力の向上をねらいとする。後期は加えて5段落エッセイを構成よくまとめる能力を養う。

教科書 /Textbooks

Optimal Levels! Philosophy Flavor Book 2
Optimal Levels! Project Book 2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing
- 第2回 Happiness-Introductions
- 第3回 Happiness-Building Skills
- 第4回 Happiness-Essay composition
- 第5回 Presentation
- 第6回 Religion-Introduction
- 第7回 Religion-Building Skills
- 第8回 Religion-Essay composition
- 第9回 Presentation
- 第10回 War-Introduction
- 第11回 War-Building Skills
- 第12回 War-Essay Composition
- 第13回 Presentation
- 第14回 Test Practice / Composition
- 第15回 Test Practice / Composition

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーション 各25% (計3回) 試験(essay) 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストブックはModule 3 までしか使用しませんが、Module 4~6は休講期間等を利用して各自完成させておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の語りたいことを英語で語れるようになる、楽しいクラスです。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。文法の用法や単語、表現の方法など講義中の質問は大歓迎です。

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - D) 【昼】

担当者名 /Instructor
ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

The course aims to develop skills in communicating in a foreign language using English. As the students already have a detailed knowledge of many useful grammatical and lexical features of English, the course aims to create situations where students can put that knowledge to use in creative ways using their own lives, opinions, research ideas as well as the contexts provided through the text and other core materials. Activities include keeping a weekly English journal, conversational pair-work, discussion and debate, small written responses as well as those activities provided in the course text-book, which also uses a mixed approach. Monthly Reviews will also be used as well as two elective activities where students can choose tasks that suit their learning styles and needs.

教科書 /Textbooks

Let's Talk 2 2nd edition Leo Jones
Cambridge

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 9
Week 3 Unit 10
Week 4 Unit 11
Week 5 Unit 12
Week 6 Unit 9-12 Expansion
Week 7 Discussion Planning
Week 8 Mid-Semester Review
Week 9 Unit 13 and Discussion 1
Week 10 Unit 14 and Discussion 2
Week 11 Unit 15 and Discussion 3
Week 12 Unit 16 and Discussion 4
Week 13 Units 13-16 Expansion
Week 14 Review
Week 15 Diary Interviews

成績評価の方法 /Assessment Method

Diary 20%
Diary Interview 10%
Class Discussion Presentation 20%
Mid Semester Review 20%
Final Examination 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Write Diary and prepare to discuss contents
Assigned tasks from course textbook
Discussion and Review Preparation
Other assigned tasks

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語IV (律政群 1 - D) 【昼】

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

This course is a general English course that includes the four language skills. There will be plenty of chance for discussion, individual work, pair work, and occasionally group work. It is hoped that the students enjoy the various topics under discussion and try to participate as much as possible, thereby making the lesson fun, refreshing, and fulfilling. During this course, students will be able to improve their English language communication skills using a variety of interesting topics.

教科書 /Textbooks

Gear Up, Student book 1, (Macmillan Language House) by Steven Gershon and Chris Mares

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese/English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(Week 1)My summer vacation / true or false.
- 第2回Unit 7: Time to eat
- 第3回Talking about where to eat tonight
- 第4回Unit 8: I found a job!
- 第5回Talking about part-time jobs
- 第6回Unit 9: I can't cope
- 第7回Talking about stress in your life
- 第8回Review of units 7-9
- 第9回Unit 10: What's up?
- 第10回Talking about things you love and hate
- 第11回Unit 11: Who's your type?
- 第12回Talking about dating
- 第13回Unit 12: What tomorrow brings
- 第14回Talking about your future plans
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam, class participation and positive attitude. To be explained in more detail in the first lesson.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Good attendance is a prerequisite for getting a credit.

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor
ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

This class will generally build on skills obtained in the previous class (英語Ⅲ). Students who did not take that class should confer with the instructor as to how to compensate.

The goal of this course is to improve students' English communication abilities. The focus will be on increasing reading and speaking speed to help with overall English comprehension as well as improve communication skills for international situations. Students are encouraged to focus less on grammar and syntactical precision, and more on conversation skills. While the practices can be quite a lot of work themselves they should generally be enjoyable. Class attendance is of great importance, please see below for details. Students are expected to conduct themselves in an enthusiastic but studious manner.

教科書 /Textbooks

NO text will be issued. Any printed material to be used in class will be handed out.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

No References

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Orientation
Week 2	Shadow Talking
Week 3	Speed
Week 4	Repeat
Week 5	Conversation Style
Week 6	Speaking on Topics
Week 7	Control Techniques
Week 8	Control Techniques
Week 9	Workarounds
Week 10	Charting
Week 11	Charting
Week 12	Group Conversation
Week 13	Group Conversation
Week 14	Test Practice
Week 15	Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Assignments=30%, Class Participation=20%, Final Test=50%.

Students will be expected to come to class regularly and on time and to keep track of their own attendance records. Excessive lateness can lead to penalties. If a student is absent THREE times or more this will lead to automatic failure of this course. There is no mid-term exam. Absences will be excused only by presentation of an official absence report (kouketsu) or a doctor's letter.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

Not applicable

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語Ⅳ (律政群 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

Communicative English skills

教科書 /Textbooks

English in Common 3 (Pearson)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

電子辞典

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Timed speeches and Q&A - Introduction
- 第 3 回: Unit 1 and discussion in English (Your schedule)
- 第 4 回: Unit 2 and discussion in English (Musical tastes)
- 第 5 回: Unit 3 and discussion in English (Fine cuisine)
- 第 6 回: Unit 4 and discussion in English (Survival)
- 第 7 回: Unit 5 and discussion in English (Life events)
- 第 8 回: Unit 6 and discussion in English (Destinations)
- 第 9 回: Unit 7 and discussion in English (Mind and body)
- 第 10 回: Unit 8 and discussion in English (Life in the fast lane)
- 第 11 回: Unit 9 and discussion in English (Careers)
- 第 12 回: Unit 10 and discussion in English (Animal planet)
- 第 13 回: Unit 11 and discussion in English (World travel)
- 第 14 回: Unit 12 and discussion in English (Money matters)
- 第 15 回: Consolidation

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation and semester test

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

As directed by teacher

履修上の注意 /Remarks

必修科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Lets enjoy learning English together

キーワード /Keywords

Meet people \ Make friends \ Have fun!

英語Ⅳ (律政 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

TOEIC対策用テキストを用いての問題演習及び問題解説。
TOEICのスコアアップとともに実践的な英語力、コミュニケーション能力の向上を目標とする。

教科書 /Textbooks

“Aim High for the TOEIC Test” 『TOEICテスト総合実践演習』（塩見佳代子共著）
成美堂 ￥2,000 + 税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1
- 3回 Unit 2
- 4回 Unit 3
- 5回 Unit 4
- 6回 Review Test 1及び解説
- 7回 Unit 5
- 8回 Unit 6
- 9回 Unit 7
- 10回 Unit 8
- 11回 Review Test 2及び解説
- 12回 Unit 9
- 13回 Unit 10
- 14回 Unit 11
- 15回 Unit 12、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験：60%、Review Test（2回）：20%、日常の授業への取り組み（小テスト、課題含む）：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

次回授業のUnitは宿題として必ずやってくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第四課 自己紹介【人称代名詞】【指示代名詞】【動詞の文】【是の文】
- 5回 第四課 自己紹介(本文)
- 6回 第五課 北京【形容詞の文】【名詞の修飾】【数字】
- 7回 第五課 北京(本文)
- 8回 第六課 天津【動詞が複数ある文】【時間詞】【量詞】
- 9回 第六課 天津(本文)
- 10回 第七課 上海【指示代名詞】【方位詞】【存在の在】【存在の有】【複文】
- 11回 第七課 上海(本文)
- 12回 第八課 蘇州と杭州【前置詞の在】【所有の有】【是～的】
- 13回 第八課 蘇州と杭州(本文)
- 14回 前期のまとめ(1)
- 15回 前期のまとめ(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。
 (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要なことは表現できるようになることを目標とします。
 (2)課文の講読を通して中国の一部の都市や地理、人文について理解します。
 (3)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ、知識を得ることができます。

教科書 /Textbooks

『西遊記』 <試用本> (『中国秀シリーズ』編集委員会)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」電子辞書 (CASIO等)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 義烏【了】【動作の現在進行形】【助動詞】【前置詞】
- 2回 第九課 義烏(本文)
- 3回 第十課 西安と洛陽【動詞+過】【動作の回数】【結果補語】【状態補語】【助動詞】
- 4回 第十課 西安と洛陽(本文)
- 5回 第十一課 成都【前置詞】【複文】【結果補語】【動作の時間を表す単位】【動作の時間】
- 6回 第十一課 成都(本文)
- 7回 第十二課 昆明【複文】【結果補語】【前置詞】
- 8回 第十二課 昆明(本文)
- 9回 第十三課 広州【結果補語】【前置詞】【ちょっと、少しの表現】【複文】【方向補語】【把の構文】
- 10回 第十三課 広州(本文)
- 11回 第十四課 大連【比較表現】【比喻表現】【使役表現】【受身表現】
- 12回 第十四課 大連(本文)
- 13回 第十五課 日本の紹介【複文】【了】【助動詞】
- 14回 第十五課 日本の紹介(本文)
- 15回 後期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。まず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

- 『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
- 『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
- 『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
- [総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 中国語概説・単母音と声調
- 2 . 子音 1 と複母音 1
- 3 . 子音 2 と複母音 2 ・ 基本挨拶
- 4 . 鼻母音・音節と音便・教室用語
- 5 . 発音の復習とまとめ
- 6 . 「自己紹介」（判断文・疑問文 1 ・ 人称代名詞）
- 7 . 復習と実用練習
- 8 . 「空港で」（授受表現・存在表現・疑問文 2 ）
- 9 . 復習と実用練習
- 10 . 「両替」（願望表現・数字・場所）
- 11 . 復習と実用練習
- 12 . 「道を尋ねる」（方位表現・移動表現・禁止表現）
- 13 . 復習と実用練習
- 14 . 「乗り物に乗る」（動作の進行・状態の持続・動作の実現）
- 15 . 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国語Ⅲ【昼】

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / Wang Zhanhua / アジア文化社会研究センター

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国語の発音、基礎文法、日常生活によく使用される実用会話を身につけることを目標とする。先ず初習外国語としての中国語の基本である発音および基本文法を一部分ずつ詳しく解説した上、十分な練習を通じて身に付け、その上、実用会話が中心になっている場面で編成された本文について読解と音読の訓練を行う。また、将来中国語検定試験・中国語HSK試験などの就職に役立てる能力試験を受けるため、語学資格検定の試験問題も練習する。

教科書 /Textbooks

『比較中国語（実用・基礎編）』（王 占華 著 駿河台出版社）
『中国語コミュニケーションステップ24』（胡金定 他著 白帝社）
『中国を歩こう』（陳淑梅 他著 金星堂）
[総合編集のコピー配布]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語学概論』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）
- 『就職に役立てる中国語』【改訂版】（王占華 他著 駿河台出版社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 「中国語Ⅲ」についての復習・中国語で夏休みについての話
2. 「宿泊」（可能表現・時点・時量）
3. 復習と実用練習
4. 「食事」（数量表現・形容詞述語文・程度表現）
5. 復習と実用練習
6. 「ショッピング」（指示表現・仮定表現・比較表現）
7. 復習と実用練習
8. 「ツアーでの旅行」（方向補語・使役表現・受身表現）
9. 復習と実用練習
10. 「友達を作る」（意向確認・難色を示す・ことわる）
11. 復習と実用練習
12. 「会社見学」（必要表現・可能補語・経験表現）
13. 復習と実用練習
14. 「電話を掛ける」（方向補語・処置表現・複文）
15. 復習と実用練習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の参加態度・授業中の練習・小テスト（4割）、定期試験の成績（6割）で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

確認と復習として、文法規則としての重要性、文例としての実用性、使用頻度の角度から文字及び口頭による常用短文の作文、中→日、日→中双方向の訳などの練習を課する。コミュニケーションの基礎としての代表的な文例について、活用できるように要求するので、予習と積極的な練習を望んでいる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語の発音 中国語の基礎文法 中国語の実用会話 中国語能力試験 中国事情

朝鮮語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

基本となる文字と発音の訓練に力を注ぎ、正確な読み書きができることを第一の目標とする。同時に簡単なあいさつ表現や初歩的な会話表現なども学びたいと思う。

教科書 /Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社(2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 『朝鮮語辞典』 小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 【韓国語入門の予備知識】
- 2回 基本母音字とその発音 【基本母音】
- 3回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 4回 基本子音字(平音)とその発音 【基本子音】
- 5回 子音(激音)字とその発音 【派生子音1】
- 6回 子音(濃音)字とその発音 【派生子音2】
- 7回 合成母音字とその発音 【派生母音】
- 8回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 9回 終声子音字とその発音 【パッチム】
- 10回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 11回 連音化、激音化、濃音化 【音の変化】
- 12回 辞書を引いてみよう 【辞典の引き方】
- 13回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 14回 自己紹介 【指定詞の丁寧形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50%(小テスト・課題・態度)、定期試験50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 貞淑 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の初級文法・基本語彙などを習得し、簡単な作文と読解ができることを目指す。

教科書 /Textbooks

厳基珠 他 『韓国語の初歩 改訂版』、白水社 (2010年3月)、2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典『朝鮮語辞典』小学館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 会社員ではありません【体言否定】
- 3回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 4回 どこで習っていますか【用言の基本形・丁寧形】【指示代名詞】
- 5回 暑くありません【用言の否定形】
- 6回 誕生日はいつですか【打ち解けた丁寧形】【漢数詞】
- 7回 誕生日はいつですか【固有数詞】【時間の言い方】
- 8回 どこに住んでいますか【動詞の連用形】
- 9回 どこに住んでいますか【動詞の連用形】
- 10回 先生、いらっしゃいますか【敬語】
- 11回 何をしましたか【過去形】
- 12回 何をしましたか【過去形】
- 13回 何を召し上げますか【意志・推量形】
- 14回 何を召し上げますか【意志・推量形】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日頃の学習への取り組みと試験による評価。
授業中に遅刻や私語、無断欠席などで注意された場合は減点の対象になる。
平常点50% (小テスト・課題・態度)、 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をすること。
特に予習の課題が多いので必ずノートを作ること。

履修上の注意 /Remarks

欠席が多い場合は平常点が少なくなるので、そのことを自覚してしっかり取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく書きましょう！

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor チャン ユンヒャン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営群1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

まず、基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主にしてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル(文字)と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ!韓国語』(白水社)、担当者が作ったプリントとメディア資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語を学ぼう』別冊練習長(朝日出版社)
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』(小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化紹介【民族衣装】【民族遊び体験】【日韓交流のサブカルチャ紹介】
- 13回 存在詞、場所名、セスチュア一位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ヘアで指示代名詞の質問と応答】【皆に家族紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況...25% 課題...25% 期末試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この講義と朝鮮語Iの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

キャリア学概論【昼】

担当者名 見館好隆/地域創生
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

<目的>

代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、全編ワールドカフェを行って、最終的に自らの地域活動や社会人生活、つまり学びと実践を繋げます。また、期間中フィールドリサーチを実施し、最終授業にてプレゼンテーションをしていただきます。

<進め方>

グループワーク主体です。講義は短時間です。

- ①来週までに予習する。
- ②キャリアの基本的な理論を学ぶ。
- ③ワールド・カフェ
- ④発表
- ⑤レポートを仕上げる。
- ⑥次回の予習の課題をメモする。

<期待される効果>

学群の実習はもちろん、課外活動やアルバイトも含めたさまざまな経験を自らの成長に活かす方法が得られると思います。また、将来の自分のキャリアを描くヒントも得られると思います。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 中原淳ほか『企業内人材育成入門』ダイヤモンド社
- モーガン・マッコール『ハイフライヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス(キャリアとは?)
 - 2回 ダイアログ・ワールドカフェ
 - 3回 キャリア・デベロップメント
 - 4回 成人教育学(大人の学び)
 - 5回 働く個性・仕事へのこだわり
 - 6回 働く理由・ワークモチベーション
 - 7回 一皮むけた経験・経験からの学習
 - 8回 企業文化・経営理念
 - 9回 企業内人材育成
 - 10回 大学生のキャリア(大学生活・就職活動)
 - 11回 課題解決型学習・サービスマーケティング
 - 12回 計画された偶発性・セレンディピティ
 - 13回 キャリア・アダプタリティ/バウンダリーレス・キャリア
 - 14回 フィールドリサーチのプレゼンテーション①
 - 15回 フィールドリサーチのプレゼンテーション②
- ※期間中、フィールドリサーチを実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...70% プレゼンテーション...20% 最終レポート...10%
※プレゼンテーションと最終レポートは必須です。

キャリア学概論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず予習をしてください。予習するポイントはその都度指示します。

履修上の注意 /Remarks

※第1回目の授業で履修者調整する可能性がありますので、第1回目は必ず出席してください。何らかの事情で出席できない場合は、事前に教員 (mitate@kitakyu-u.ac.jp) までメールで連絡をしてください。

※1年次に1学期の『キャリア・デザイン』を受講していることが望ましい。

※授業の特性上、出席しなければ点数は付きません。よって体育会などで欠席が多くなる学生は履修を避けてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業を通してさらに地域活動や社会人生活を充実したのしたい、という意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、地域活動、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、課題解決型学習、プロジェクト型学習、サービス・ラーニング、経験学習

指導的実習I【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋和博・伊野憲治/地域創生

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

指導的実習Iでは、地域で実践的な活動するために必要な素養を身につけた上で、実際に地域に出て活動をしていただきます。まずは、「自分たちの学びの場をいただいている」という学修者としての立ち位置を明確にしなが、地域の方々と関わり活動をしていただきます。自分が「やりたいこと」だけを追求するのではなく、まずは地域の中でしっかりと活動することができる基本的な素養、知識、技術等を身につけます。また、定期的に振り返りを行いながら、実践を学びに変えていきます。その他、1年生全体で取り組む「FMラジオ番組制作実習」の内容も組み込まれています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 【一般的な心構え】
- 2回～3回 ラジオ番組制作実習
- 4回～14回 前期実習 【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】
- 15回 前期実習・活動の振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、多様な知識や経験を得るために、主たる実習テーマだけでなく地域共生教育センターやまちなかESDセンターで展開されているような地域活動やボランティア活動にも取り組むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

指導的実習II【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋和博・伊野憲治/地域創生

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 指導的実習IIでは、指導的実習Iに引き続いて地域活動を行っていただきます。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 特に指定しません。自分が直面している課題に関する文献、資料を適宜参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 1回 ガイダンス
 2回～14回 後期実習【地域創生力】【チームでの協働】【課題解決】
 15回 後期実習・活動の振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method
 主たるテーマの実習の取り組み状況 ... 50% その他の実習への積極的な参加 ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 地域において活動を実施するのは簡単なことではありません。学生の皆さんが「地域貢献」を目的に活動したとしても、地域の方々にとっては「迷惑」になってしまうこともあります。地域の方々との関係づくりを大切に、勉強させていただいているという姿勢を絶対に忘れないでください。つまり、様々な方の支援があつてこそ、自分たちが活動できるということです。
 加えて、地域で活動するということは「責任」が発生するということです。身勝手な振舞いは許されません。従って、社会人としての言葉遣いやマナーなどの振る舞いはもちろんのこと、責任ある行動や主体的な行動が求められます。その点を肝に銘じておくこと。
 この実習では、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)にも取り組んでもらいます。また、多様な知識や経験を得るために、主たる実習テーマだけではなく地域共生教育センターやまちなかESDセンターで展開されているような地域活動やボランティア活動にも取り組むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習 A 【昼】

担当者名 真鍋和博/地域創生
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

地域創生学群で実習をすすめていくために必要な考え方やチーム形成を学びます。FMラジオ番組企画制作実習のガイダンスを行い、各チームで自律的主体的にすすめていきます。また、ポートフォリオの書き方をレクチャーしつつ、自己の目標設定やセルフマネジメントの手法を学びます。後半では、各コース、各実習チームに分かれてのチームミーティングや進捗発表などを行います。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回オリエンテーション・実習の心構え
- 第02回FMラジオ番組企画制作実習ガイダンス
- 第03回ポートフォリオ1
- 第04回FMラジオ番組企画制作実習プレゼン1(1限+2限)
- 第05回ポートフォリオ2
- 第06回FMラジオ番組企画制作実習プレゼン1(1限+2限)
- 第07回各コースごと
- 第08回各コースごと
- 第09回各コースごと
- 第10回各コースごと
- 第11回各コースごと
- 第12回各コースごと
- 第13回各コースごと
- 第14回各コースごと
- 第15回アセスメント解説・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度 ... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

FMラジオ番組企画制作実習は、各チームごとに授業時間外にミーティング等を行い、やるべきことを期日までに仕上げる必要があります。また、各コース、実習ごとに分かれてからは、水曜日の1限、2限を使ってミーティング等を行います。詳しくは、第1回目の授業のときに説明します。
遅刻・欠席をしないこと。どうしても遅刻・欠席せざる得ない場合は、事前に、担当教員に連絡をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野憲治 他 地域創生学群教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップを、グループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 実践報告1、ディスカッション
 - 3回 実践報告2、ディスカッション
 - 4回 実践報告3、ディスカッション
 - 5回 実践報告4、ディスカッション
 - 6回 実践報告5、ディスカッション
 - 7回 実践報告6、ディスカッション
 - 8回 実践報告7、ディスカッション
 - 9回 実践報告8、ディスカッション
 - 10回 実践報告9、ディスカッション
 - 11回 実践報告10、ディスカッション
 - 12回 実践報告11、ディスカッション
 - 13回 実践報告12、ディスカッション
 - 14回 実践報告13、ディスカッション
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度 ... 50 %
 積極的な演習への参加 (指導的実習プログラムへの取り組みを含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 正規の授業時間外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋和博 他 地域創生学群教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 指導的実習プログラムで各自が実践している課題を取り上げ、特にPDCAサイクルのCに当たる振り返りを行い、さらにはA、次を取るべきステップをグループワーク等をまじえながら、受講者全員で考えてみる。

教科書 /Textbooks
 特に指定しません。毎回、授業の中で資料を配布することがあります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜、指示する。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 オリエンテーション
 - 2回 実践報告1、ディスカッション
 - 3回 実践報告2、ディスカッション
 - 4回 実践報告3、ディスカッション
 - 5回 実践報告4、ディスカッション
 - 6回 実践報告5、ディスカッション
 - 7回 実践報告6、ディスカッション
 - 8回 実践報告7、ディスカッション
 - 9回 実践報告8、ディスカッション
 - 10回 実践報告9、ディスカッション
 - 11回 実践報告10、ディスカッション
 - 12回 実践報告11、ディスカッション
 - 13回 実践報告12、ディスカッション
 - 14回 実践報告13、ディスカッション
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業中に取り組む課題の達成度...50%
 積極的な演習への参加(指導的実習プログラムへの取り組みを含む)...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 正規の授業時間以外に個別の学習・実習テーマが与えられることがあります。
 地域においてチームで活動していく際に必要な考え方、技術、スキル等を学ぶ機会を授業中に組み入れていきます。

履修上の注意 /Remarks
 地域マネジメントコースの学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域創生基礎演習B 【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

地域創生基礎演習Bでは地域創生基礎演習Aにおいて各人の学びの方向性の決定を受けて、各指導者教員のゼミに所属します。当ゼミでは今後必要とされる基本的知識やスキルを学ぶほか、各人の課題を設定した上、2年時から始まるスポーツボランティア実習の目的・具体的計画を策定する。ゼミでの議論を通じて、その目的や具体的計画を練り直し、目的を明確にする。あわせて、実習に必要とされる基本的知識とスキルをロールプレイングを体験しながら具体的に学んでいく。

教科書 /Textbooks

資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のねらい、進め方
- 2回 実習の計画
- 3回 コミュニケーション 1
- 4回 コミュニケーション 2(他者との関係)
- 5回 コミュニケーション 3(クラスメイトを知る)
- 6回 コミュニケーション 4(自己を知る)
- 7回 コミュニケーション 5(他人を知る)
- 8回 コミュニケーションの事例研究1
- 9回 コミュニケーションの事例研究2
- 10回 コミュニケーションの3Vの法則の理解
- 11回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(子供の理解)
- 12回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング(地域の理解)
- 13回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 14回 具体的な場面・過程を想定したロールプレイング
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中に取り組む課題の達成度... 50%
積極的な演習への参加(指導的実習への取り組みを含む)... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次以降にスポーツボランティア実習Iを履修予定の学生には、上記テーマとは別に、正規の授業時間外(土曜日や日曜日、夏期や冬期の休暇期間を含む)に「指導的実習」に取り組んでもらいます。また、正規の授業時間外に個別の学習テーマが与えられることがあります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論 【昼】

担当者名 /Instructor 岡 邦信 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 日本における法観念の歴史を考察し、法の継受と立法の歴史から現代の日本法を考えることを機軸にすえ、さらに法の存在形態、解釈等、法学の基礎的な知識の習得を目的とする。

教科書 /Textbooks
 使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 適宜紹介する

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 はじめに
 - 2回 法とその他の社会規範
 - 3回 法の分類
 - 4回 日本人の歴史的法観念・前近代
 - 5回 日本人の歴史的法観念・近代
 - 6回 法系と日本法
 - 7回 法系と法思考・裁判の諸類型
 - 8回 近代法成立前史・法の存在形態
 - 9回 近代法成立前史・法運用
 - 10回 近代日本の成熟
 - 11回 敗戦と日本法
 - 12回 戦後改革
 - 13回 新憲法
 - 14回 法の支配
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 テキストを使用しませんので、復習が重要です

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

国家の基本法といわれる憲法の基礎を学ぶ。
憲法分野に関しては、この講義以降、「憲法人権論」「憲法機構論」「憲法訴訟論」とより専門的な講義が用意されているが、それらに共通する基本的な内容を概観することが本講義の目的である。
本講義で日本国憲法の全体像を把握した上で、上記各講義へ進んでいってもらいたい。

教科書 /Textbooks

安藤高行編『エッセンス憲法』（法律文化社、2012年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 野中俊彦ほか『憲法I 第5版』『憲法II 第5版』（有斐閣、2012年）
- 芦部信喜『憲法（第5版）』（岩波書店、2011年）
- 長谷部恭男『憲法（第4版）』（新世社、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 憲法とは何か
- 第2回 憲法史概論
- 第3回 日本国憲法制定史①-明治憲法から日本国憲法へ
- 第4回 日本国憲法制定史②-マッカーサー草案から新憲法公布まで
- 第5回 国民主権
- 第6回 平和主義①-その歴史性
- 第7回 平和主義②-日本の安全保障と平和主義
- 第8回 基本的人権の体系
- 第9回 自由権①-精神的自由
- 第10回 自由権②-その他の自由権
- 第11回 社会権など
- 第12回 日本国憲法の統治構造①-権力分立
- 第13回 日本国憲法の統治構造②-議院内閣制
- 第14回 地方自治
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる期末試験による（100％）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書を指定しているので、次回講義の該当箇所を事前に読んでおくことが望ましい

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法史 平和主義 基本的人権 統治機構

憲法人権論 【昼】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権総論
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 特別権力関係論・私人間効力
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 平等原則
- 第6回 精神的自由①(信教の自由)
- 第7回 精神的自由②(表現の自由総論)
- 第8回 精神的自由③(表現の自由各論)
- 第9回 精神的自由④(知る権利)
- 第10回 経済的自由
- 第11回 社会権①(生存権・教育を受ける権利)
- 第12回 社会権②(労働基本権)・受益権
- 第13回 参政権
- 第14回 人身の自由
- 第15回 違憲審査基準論の展開

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

民法総則【昼】

担当者名 /Instructor 小野 憲昭 / ONO NORIAKI / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 4単位
 学期 /Semester 1学期(ペア)
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

民法の第一篇総則が講義の内容です。民法は、私達が日常営んでいる経済生活や家族生活における人と人との関係を規律する法律ですが、そのうちの、主として経済生活を規律する部分(財産法)の通則にあたるのが、この総則です。各種の取引活動を円滑にすすめるための具体的な規定や制度に共通する内容がその対象となっていますから、やや抽象的で、難解な部分もありますが、民法の世界の細部に分け入る前に、民法全体を俯瞰し、制度の枠組みを知るとともに、個々の規定や制度に共通する内容や考え方を知り、日常生活における人と人との関係のあるべき姿を考えていただきたいと思っています。

到達目標は以下の通りです。

- ・民法に共通する諸概念や民法の基本的な考え方を理解することができるようになっていただきます。
- ・民法に共通する諸制度の内容、社会における運用状況を知り、法的な問題解決の仕方を理解できるようになっていただきます。
- ・講義で得た知識が日常生活における人と人との関係のあるべき姿を考える上での基盤となっていることを知っていただきます。

教科書 /Textbooks

川井健著『民法概論1 民法総則[第4版]』有斐閣 2008年 3,990円
 中田裕康=潮見佳男=道垣内弘人編『民法判例百選①総則・物権[第6版]』有斐閣 2009年 2,095円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 内田 貴『民法I[第3版]総則・物権総論』東京大学出版会 2005年 3,200円
- 川島武宜『民法総則』有斐閣 1965年
- 四宮和夫=能見善久『民法総則 第7版』弘文堂 2005年 3,200円
- 我妻 栄『新訂民法総則(民法講義I)』岩波書店1965年 3,900円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス - 民法の学び方、民法の仕組み、民法の世界観
- 2回 民法上の権利義務、権利の相対性
- 3回 権利の主体 - 「人」、権利能力と行為能力
- 4回 制限行為能力者制度①【未成年】
- 5回 制限行為能力者制度②【成年後見】【保佐】
- 6回 制限行為能力者制度③【補助】【任意成年後見】、住所について
- 7回 法人の必要と役割、法人の種類
- 8回 法人の設立、組織
- 9回 権利の客体 - 「物」
- 10回 法律行為 - 種類と解釈
- 11回 法律行為の有効要件
- 12回 法律行為の自由とその限界① - 【法律行為の自由】【取締規定違反】【脱法行為】
- 13回 法律行為の自由とその限界② - 【公序良俗違反】
- 14回 法律行為の構成要素 - 意思表示
- 15回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示①【心裡留保】
- 16回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示②【通謀虚偽表示】【錯誤】
- 17回 意思の不存在と瑕疵ある意思表示③【詐欺】【強迫】【誤認・困惑】
- 18回 代理制度、表見代理と無権代理
- 19回 表見代理①代理権授与の表示による表見代理
- 20回 表見代理②権限踰越の表見代理
- 21回 表見代理③代理権消滅後の表見代理、表見代理規定の競合
- 22回 無権代理
- 23回 無権代理と相続
- 24回 無効と取り消し
- 25回 条件と期限
- 26回 時効制度①【存在理由】【消滅時効と除斥期間】
- 27回 時効制度②【時効の援用・放棄】
- 28回 時効制度③【時効の中断・停止】
- 29回 取得時効
- 30回 消滅時効

成績評価の方法 /Assessment Method

課題……20% 定期試験……80%

民法総則 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義ではレジュメを配布しますが、教科書の他に毎回必ず六法も持参してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容や教科書、参考書を参照しながら、論点ごとに講義ノートを作成して理解を深めてください。

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①3人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにして考えています。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 NPOの基礎知識(3)
- 11回 第5回講演会
- 12回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書は変更する可能性もありますので第1回の講義には必ずご参加ください。また、本年は担当教員が3人のため、授業内容の変更等がありますのでご了承下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシーNPO、ミッション、寄付

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱本 真輔 / SHINSUKE HAMAMOTO / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

政治に関わる人々は、何を考え、どのように行動しているのだろうか。人々の行動を左右する制度や文化にはどのようなものがあるのだろうか。本講義では、政治制度、政治に参加する人々への理解を深めることに重点をおきます。

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ (A3で2-3枚) を配布します

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参照した教科書、関連する内容を含んだ、より詳細な文献の案内を講義中に行います

伊藤光利編『ポリティカルサイエンス事始め - 第3版 - 』有斐閣、2009年。
 久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛児・真淵勝『政治学』有斐閣、2011年。
 伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣、2000年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション 【政治システム】 【権力】
- 第2回 民主政治の諸制度(1) 【デュベルジェの法則】 【機械的效果】 【心理的效果】
- 第3回 民主政治の諸制度(2) 【議会の機能】 【変換型議会】 【アリーナ型議会】
- 第4回 政治文化 【政治的社会化】 【脱物質的価値観】
- 第5回 マスメディア 【疑似環境】 【議題設定効果】 【プライミング効果】
- 第6回 政治参加・投票行動(1) 【制度的参加】 【非制度的参加】
- 第7回 政治参加・投票行動(2) 【コロンビアモデル】 【ミシガンモデル】 【業績投票】
- 第8回 政治家・政党(1) 【大衆政党】 【包括政党】 【カルテル政党】
- 第9回 政治家・政党(2) 【ダウンズモデル】 【連合理論】
- 第10回 利益団体 【利益集団】 【集合行為論】
- 第11回 官僚制 【政治行政二分論】 【政治行政融合論】 【逆機能】
- 第12回 首相・大統領 【リーダーシップ】 【PM理論】
- 第13回 政治体制(1) 【権威主義体制】 【全体主義体制】
- 第14回 政治体制(2) 【自由民主主義体制】 【多極共存型民主主義】
- 第15回 地方政治・ガバナンス 【ガバナンス】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (70%)、日常の授業への取り組み (30%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「政治学」をすでに履修している場合は、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

「政治過程論」は政治学の理論やモデルの紹介に重点があります。そのため、日本政治への適用や日本の特徴については、「日本政治論」で詳しく講義します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉国家論【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向(どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか?)、②日本の社会保険の特徴(諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか?)。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

毎回、B4版のレジュメを配布するのでしっかりノートを取り、保存してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「自由と平等の規範」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第3回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第4回「年金保険」 財政悪化と空洞化
- 第5回「年金保険」 世代間格差と世代内格差
- 第6回「年金保険」 改革の論点
- 第7回「医療保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第8回「医療保険」 年金と共通する問題点
- 第9回「医療保険」 医療と規制緩和
- 第10回「医療保険」 医療サービスの量と質
- 第11回「生活保護」 原理・原則
- 第12回「生活保護」 扶助の種類
- 第13回「生活保護」 保護の透明性
- 第14回「福祉国家の類型」 3つの福祉国家
- 第15回「福祉国家の類型」 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・100%

原則として、毎回、出席をとります。欠席1回につき、期末試験得点より2点程度減点します。

*ただし、教室定員に対して受講生数が著しく多い場合は、出席による評価を変更する可能性があります。確定された成績評価基準は、第1回目の授業でお知らせします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

年金や医療について関心をもっておいください。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳しく注意します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語は厳しく注意します。

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門 A 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 (ねらい・ テーマ) >

1. 経済学の基本的原理を学ぶ。
2. ミクロ経済学の初歩的な手法を学ぶ。
3. 市場メカニズムについて学ぶ。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 経済学的思考法ができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題をミクロ経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回： イントロダクション
なぜ？経済学を学ぶのか？、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回： グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回： 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回： 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回： 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回： 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回： 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回： 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回： 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回： 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回： 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回： 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回： 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回： 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回： 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

各担当教員の評価方法に従う。(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

マクロ経済学の基礎理論を修得する。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
 - 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
 - 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
 - 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
 - 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
 - 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
 - 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】
 - 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
 - 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
 - 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
 - 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
 - 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
 - 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
 - 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
 - 15回 まとめ
- (第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。

この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

マクロ経済学の基礎理論を修得する。

教科書 /Textbooks

井出 多加子・井上 智夫・北川 浩・幸村 千佳良 著
 経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)

2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】

3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】

4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】

5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】

6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】

7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利子率】

8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】

9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】

10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】

11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】

12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】

13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】

14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】

15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援フォルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代日本経済入門A 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、産業活動を中心として、時系列的に、平易に解説していく。主な学習項目としては、近年の日本経済のトレンド、日本企業（とくに製造業）の国際競争力、規制緩和と制度改革、新規事業展開などを中心にすえ、現代日本経済にかかわる専門分野の知識やスキルを得ることができるようになる。

学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を、企業のレベルまで深く掘り下げながら理解できるようになり、卒業後にも役に立つ生涯学習力が身につく。講義では新しい資料も交えて、昨今の経済事情についても解説を加えることとする。

教科書 /Textbooks

なし。プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

橋本寿朗他著『現代日本経済 第三版』有斐閣、2011年、¥2,625（新版はデータが古いので、使用しないこととする。）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本経済のトレンド(1)【高度成長】【経済改革】【ドッジライン】
- 2回 日本経済のトレンド(2)【高度成長】【重厚長大産業】【エネルギー革命】
- 3回 日本経済のトレンド(3)【安定成長】【ニクソンショック】【オイルショック】【バブル経済】
- 4回 日本経済のトレンド(4)【構造改革】【IT革命】【グローバリゼーション】
- 5回 日本経済のトレンド(5)【アジア展開】【リーマンショック】【中国市場】
- 6回 まとめと復習
- 7回 日本企業の国際競争力(1)【鉄鋼業】【寡占間競争】
- 8回 日本企業の国際競争力(2)【自動車クラスター】【トヨタイズム】【ジャストインタイム】【企業系列】
- 9回 日本企業の国際競争力(3)【東アジア市場】【電機産業】【産業空洞化】
- 10回 日本企業のアジア展開【アジア間ネットワーク】【対外開放】【世界最適調達】
- 11回 まとめと復習
- 12回 流通革命と情報化のインパクト【IT革命】【サプライチェーン】【大規模小売店】
- 13回 規制緩和と企業制度改革【日本型企业システム】【構造改革】【持ち株会社】
- 14回 日本企業の組織改革と日本経済のシステム転換【フラット化】【ICT】【新日本型ハイブリッド】【分権化】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題と期末試験を重視して評価する。

課題 ... 10% 学期末試験 ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新聞等で、授業計画・内容に記載されているキーワードに関わる経済記事を、よく読んでおくとう理解がしやすくなる。

履修上の注意 /Remarks

現代日本経済入門Bにおいて、金融、財政的側面を学習すれば、理解がより深まる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日本経済の動向を、時系列的に整理するよう努めてください。

キーワード /Keywords

国際競争力、IT革命、グローバリゼーション、流通革命、情報化、クラスター、規制緩和、企業制度改革

現代日本経済入門B 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代の日本経済が抱える問題点について、平易に解説していく。現代日本経済にかかわる専門分野の知識やスキルを得ることができるようになる。学生は、日本経済と日本産業が直面しているシステム転換の実相を深く掘り下げながら理解できるようになり、卒業後にも役に立つ生涯学習力が身につく。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重 (2011) 『ゼミナール 現代日本経済入門』日本経済新聞社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※適宜、ビデオ学習等をするため、若干のズレがありえる。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1回 現代経済を解剖する | 【リーマンショック】 |
| 2回 現代経済を解剖する | 【ギリシャ問題】 |
| 3回 経済をマクロから見る | 【均衡財政乗数】 |
| 4回 経済をマクロから見る | 【マネーストック】 |
| 5回 金融がわかれば経済がよく見える | 【インフレーション・ターゲットイング】 |
| 6回 金融がわかれば経済がよく見える | 【サブプライムローン】 |
| 7回 市場の機能を知る | 【格差問題】 |
| 8回 市場の機能を知る | 【市場の失敗】 |
| 9回 企業と産業 | 【ネットワーク外部性】 |
| 10回 企業と産業 | 【ゲーム理論】 |
| 11回 国民生活から経済を見る | 【少子高齢化】 |
| 12回 国民生活から経済を見る | 【医療の経済学】 |
| 13回 国際経済を見る目を磨く | 【実質為替レート】 |
| 14回 国際経済を見る目を磨く | 【FTA】 【WTO】 |
| 15回 総復習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

図書館で折に触れて『日本経済新聞』を読み、今日の日本経済について知識を蓄えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。
企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○
伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

マネジメント論基礎【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

経営学には株式会社の仕組みなどについて学ぶ「企業論」と、企業のマネジメントについて学ぶ「マネジメント論」の二つの主要領域があります。本科目では後者の「マネジメント論」の基礎について講義します。
企業経営や社会に関する諸問題を解決していく上で必要とされる、マネジメントの基礎知識を身に付けることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。
適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

坂下昭宣『経営学への招待(第3版)』白桃書房、2007年。○
伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門(第3版)』日本経済新聞社、2003年。○
他、適宜講義中にお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび経営学を学ぶ意義
- 第2回 経営戦略とは【経営環境】【経営資源】
- 第3回 企業の成長戦略【ドメイン】【PPM】
- 第4回 企業の競争戦略【三つの基本戦略】【バリューチェーン】
- 第5回 国際化の戦略【現地生産】【空洞化】
- 第6回 組織とは何か1【伝統的管理論と組織】
- 第7回 組織とは何か2【近代的管理論と組織】
- 第8回 現代の経営と組織【ドラッカー】
- 第9回 事例研究
- 第10回 組織形態【職能別組織】【事業部制】【マトリックス組織】
- 第11回 企業の組織文化【価値観】【パラダイム】【行動パターン】
- 第12回 企業のインセンティブ・システム【動機づけ】【誘因】【交換と統合】
- 第13回 企業のリーダーシップ【リーダー】【ビジョン】
- 第14回 現代のマネジメントの課題【知識社会】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果(80%)と学期中の小レポートの結果(20%)によって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学系の基礎科目ですので、予習・出席・復習をしっかりとるようにしてください。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

全員が責任を持って良い教室環境を作るよう、心がけてください。
予習・復習など講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

現代社会と企業 経営者の役割 戦略 組織 仕事

企業論基礎【昼】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

経営学を学習するには、「学説(史)」・「経営組織論」・「経営戦略論」や「経営学各論(人事・ファイナンス・マーケティングなど)」・「現代企業の経営」という各分野をカバーしなければならない。
 この講義では、上記の分類からすると「現代企業の経営」につき発展的に関連するように、企業形態・株式会社制度・日本の企業と経営・経営史(経営事情)について学習していく。ことに講義の前半2/3で株式会社制度の特徴を理解して、コーポレートガバナンスの問題を、後半1/3では持株会社の基本的な仕組みについて理解してもらいたい。

教科書 /Textbooks

未定

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 1、企業論関係～①下谷正弘『持株会社と日本経済』岩波書店(2009年)〔○〕・②下谷正弘『持株会社の時代』有斐閣(2006年)〔○〕・③下谷正弘『持株会社解禁』中央公論社、(1996年)・④ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波新書(2006年)
- 2、法律関係～①岸田雅雄『ゼミナール会社法入門～第7版～』日本経済新聞社、(2012年)〔○〕・②日本の会社制度に関わる資料集として、落合誠一編『会社法Visual Materials』有斐閣、20011〔○〕。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 1回 企業形態と会社 | 【起業】【企業】【会社】【私企業】【公企業】【公私混合企業】 |
| 2回 企業形態の分布 | 【税務統計からみた法人企業の実態】 |
| 3回 私企業1 | 【会社法と企業形態】【持分会社】【公開会社と非公開会社】 |
| 4回 私企業2 | 【企業集中】【持株会社】【多国籍企業】 |
| 5回 私企業3 | 【株式会社と証券市場】【所有と経営との分離】【経営者支配】 |
| 6回 株式会社制度1 | 【会社機関】【会社法と会社機関】【企業ガバナンス】 |
| 7回 株式会社制度2 | 【企業のファイナンス】【直接金融】【間接金融】 |
| 8回 株式会社制度3 | 【株式所有構造】【株主行動の変化】 |
| 9回 株式会社の国際比較1 | 【米国の株式会社】【ドイツの株式会社】 |
| 10回 株式会社の国際比較2 | 【中国における株式会社】【資本主義・社会主義市場経済】 |
| 11回 企業統治1 | 【機関設計の多様化】【委員会設置会社】 |
| 12回 企業統治2 | 【取締役会の改革と会社経営者】 |
| 13回 持株会社の解禁 | 【独禁法】【企業集団】【持株会社】 |
| 14回 株式会社の社会的責任 | 【現代と株式会社】【企業不祥事】【CSR】 |
| 15回 まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして的小テスト...20%(この割合を100点満点で換算する)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、講義の際、レジュメを用意するが、レジュメだけにしがみつけない。
- ②、現実の日本企業に関心をもつこと。
- ③、経営学全体を意識しながら学習してほしい。
- ④、自分にあった参考文献を見つけよう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業形態・会社法の会社・株式会社(上場会社)・会社機関・ガバナンス・株式会社の国際比較・持株会社解禁とそのブーム

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
 - 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
 - 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
 - 4回 簿記の要素【収益】【費用】
 - 5回 取引と勘定
 - 6回 仕訳と転記【仕訳】
 - 7回 仕訳と転記【転記】
 - 8回 仕訳帳と元帳
 - 9回 試算表
 - 10回 精算表
 - 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
 - 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
 - 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
 - 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論I【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論Iでは、「簿記の基礎」を中心に講義する。「簿記」という学問は、徐々に知識を積み上げていかなければならない地道な学問である。したがって、安易に欠席すると理解できなくなる可能性があるので十分に注意してほしい。本講義のねらいは、基本的な簿記一巡の手続きを理解することにある。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記3級商業簿記』（税務経理協会）、加古宜士・穂山幹夫監修『段階式日商簿記ワークブック3級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記3級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 企業の簿記【簿記の意味】【簿記の目的】
 - 2回 企業の簿記【簿記の役割】【簿記の種類】
 - 3回 簿記の要素【資産】【負債】【純資産】
 - 4回 簿記の要素【収益】【費用】
 - 5回 取引と勘定
 - 6回 仕訳と転記【仕訳】
 - 7回 仕訳と転記【転記】
 - 8回 仕訳帳と元帳
 - 9回 試算表
 - 10回 精算表
 - 11回 決算（その1）【決算の意味】【決算の手続】【元帳の締切り】
 - 12回 決算（その1）【繰越試算表の作成】【仕訳帳・補助簿の締切り】【財務諸表の作成】
 - 13回 現金・預金の記帳【現金】【現金過不足】
 - 14回 現金・預金の記帳【当座預金】【小口現金】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / SHIRAISHI KAZUTAKA / 経営情報学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks

白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
- 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
- 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
- 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
- 5回 掛取引の記帳
- 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
- 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
- 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
- 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
- 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
- 11回 費用・収益の繰延と見越
- 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
- 13回 記帳の合理化、特殊な取引
- 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

簿記論II 【昼】

担当者名 /Instructor 岡部 勝成 / Katsuyoshi Okabe / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 商業簿記を初めて学ぶ人たちのために、その基礎となる複式簿記の知識と技術を詳しく解説することにした。簿記論IIでは、簿記論Iで学んだ「簿記の基礎」を基にしながら、「取引の記帳と決算I」、「取引の記帳と決算II」、「記帳の合理化、特殊な取引、支店の会計、株式会社の記帳と決算」などについて講義したいと思う。本講義のねらいは、日商簿記検定3級、さらには2級レベルの簿記をマスターすることである。

教科書 /Textbooks
 白石和孝編『簿記概論（改訂版）』（税務経理協会）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 1学期の日商簿記3級の参考文献に加えて、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記2級商業簿記』（税務経理協会）、渡部裕亘・片山覚監修『段階式日商簿記ワークブック2級商業簿記』（税務経理協会）、TAC簿記検定講座『合格テキスト日商簿記2級』（TAC出版）。

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 商品売買の記帳（その1）【商品勘定】
 - 2回 商品売買の記帳（その1）【注意すべきその他の処理】
 - 3回 商品売買の記帳（その2）【仕入帳】【売上帳】
 - 4回 商品売買の記帳（その2）【商品有高帳】
 - 5回 掛取引の記帳
 - 6回 固定資産の記帳【固定資産の取得】【減価償却】
 - 7回 固定資産の記帳【固定資産の除却と売却】
 - 8回 手形取引の記帳【手形の種類】【約束手形】【為替手形】
 - 9回 手形取引の記帳【手形の裏書】【手形の割引】【受取手形】【支払手形】
 - 10回 その他債権・債務の記帳、有価証券の記帳
 - 11回 費用・収益の繰延と見越
 - 12回 資本と税金の記帳、決算（その2）
 - 13回 記帳の合理化、特殊な取引
 - 14回 支店の会計、株式会社の記帳と決算
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 小テスト...20% 定期試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 予習・復習は必ずしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

数学【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解するため、経済学部で使う数学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における問題分析や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的表現を理解し、数理的計算力を身につける。
2. 関数の性質を基礎から学び、微分と積分に関する基本的な計算スキルを身につける。
3. 数理的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

「新しい微分積分」培風館、池辺、厚山、水谷、松本著、1600円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「経済・経営系 数学概説」新世社、竹之内著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|--------------|---------------------|
| 1回：関数とグラフ | 【極限】、【連続関数】 |
| 2回：関数と微分 | 【接線】、【導関数】 |
| 3回：指数関数と対数関数 | 【指数関数のグラフ】 |
| 4回：指数関数と対数関数 | 【逆関数】、【対数関数のグラフ】 |
| 5回：導関数 | 【n次関数の微分】 |
| 6回：導関数 | 【指数関数の微分】、【対数関数の微分】 |
| 7回：微分 | 【関数の和・差の微分】 |
| 8回：微分 | 【関数の積・商の微分】 |
| 9回：微分法 | 【合成関数の微分】、【対数微分法】 |
| 10回：微分法 | 【関数の増減】、【関数の凹凸】 |
| 11回：不定積分 | 【n次関数不定積分】 |
| 12回：不定積分 | 【指数関数・対数関数の不定積分】 |
| 13回：定積分 | 【n次関数の定積分】 |
| 14回：定積分 | 【指数関数・対数関数の定積分】 |
| 15回：まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲から毎回レポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経営数学で学んだことが、経済・経営・情報などで基礎として活用されます。さらに「経営統計」を履修すると、確率分布の使い方などがよく分かります。

数学【昼】

キーワード /Keywords

関数、微分、積分

経営統計【昼】

担当者名 吉田 祐治 / Yuji Yoshida / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

この授業のねらい・テーマは、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解するため、統計学の基礎を身につける。
2. 習得した知識とスキルをもとに、経営における統計学的分析方法や解決に役立てることができる。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

1. 経営における数理的データ表現を理解し、統計的処理を身につける。
2. データの整理の仕方や平均・分散・標準偏差などの基礎から学び、推定や仮説検定に関する計算スキルを身につける。
3. 統計的な観点で、問題を分析するスキルを身につける。

教科書 /Textbooks

「初等統計学」培風館、P.G.ボーエル著、浅井晃、村上正康訳、1700円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「統計学の基礎」培風館、J.C.ミラー著、村上正康訳

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：データの表現【度数分布表】、【平均】、【分散】、【標準偏差】
- 2回：確率【確率】、【条件付き確率】
- 3回：確率分布表【確率分布表】、【期待値】、【平均と分散の性質】
- 4回：確率分布【独立試行】、【2項分布】
- 5回：確率分布【一様分布】、【正規分布】
- 6回：標本抽出【中心極限定理】、【統計学の基礎理論】
- 7回：推定【大標本法】
- 8回：推定【小標本法】、【t分布】
- 9回：仮説検定【大標本法による平均の検定】、【片側・両側検定】
- 10回：仮説検定【小標本法による検定】、【2つの平均の差の検定】
- 11回：相関【相関係数】
- 12回：回帰分析【最小2乗法】
- 13回：カイ2乗検定【カイ2乗分布】
- 14回：カイ2乗検定【適合度の検定】
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート提出(毎回出題)・・・ 30%
期末試験・・・ 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

新しいことを学ぶたびに、例題を計算して解きます。例題を通して、問題解決方法を具体的に学びます。授業を復習し確実に身につけるため、授業で行った範囲からレポートを出題します。レポートは授業内容や例題の解き方を理解していれば必ず分かる内容です。毎回のレポート問題を自分で解くことで確実なスキルアップと自信になります。レポートを確実に提出するよう心掛けてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は「数学」を履修していることは前提としていませんが、履修していれば「経営統計」がより深く理解できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

統計学の基本的な考え方や道具立てを学ぶために、この科目を履修することをぜひお勧めします。

経営統計【昼】

キーワード /Keywords

平均、分散、標準偏差、分布、推定、検定

プログラミングI【昼】

担当者名 武藤 直彦 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

プログラミング言語Javaを用いて、プログラムの作成を行う。
解決すべき問題を正確に把握したうえで、その問題の解決方法を構築する力を養うことを目指す。正確なプログラムを書くことも大切であるが、論理的な考え方を身につけることもこの講義の大きな目標である。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋 麻奈 著『やさしいJava』ソフトバンククリエイティブ
(株)アंक 著『Javaの絵本』翔泳社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 基本操作【Java】【Eclipse】
 - 2回 Javaの利用【Eclipse】【コメント】
 - 3回 変数の利用【変数宣言】【データ型】【算術演算子】
 - 4回 繰り返し(forループ)【forループ】【条件式】
 - 5回 繰り返し(whileループ)【whileループ】【do-whileループ】
 - 6回 配列の利用【配列宣言】
 - 7回 条件分岐【if文】【条件式】【論理演算子】
 - 8回 問題演習1【forループ】
 - 9回 値の入力【例外処理】【BufferedReaderクラス】
 - 10回 コマンドライン引数【コマンドライン】【例外処理】
 - 11回 問題演習2【whileループ】
 - 12回 問題演習3【条件分岐】
 - 13回 問題演習4【値の入力】
 - 14回 総合問題演習
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 70% 課題... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

最初のうちは、なかなかまともに動くプログラムが作れずに苦労すると思うが、エラーが起こったときは、そのエラーをきちんと発見し修正することを心がけて、できるだけたくさんプログラムを作成してもらいたい。
自分のパソコンにJAVAシステムをインストールするため、あらかじめサーバに準備されているJAVAシステムをダウンロードしたり、授業で作成したプログラムを保存するため、USBメモリーを準備してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks
 特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
 - 2回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の主体的側面】
 - 3回 社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】
 - 4回 社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】
 - 5回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
 - 6回 生活保護法【生存権保障】【原理・原則】
 - 7回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
 - 8回 社会福祉の歴史(イギリス)【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
 - 9回 社会福祉の歴史(日本)【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
 - 10回 社会福祉の歴史(日本)【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
 - 11回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
 - 12回 福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】
 - 13回 現代社会の変化と福祉政策【社会的排除】【社会的包摂】
 - 14回 福祉政策の関連領域【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政策】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めらるので、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【昼】

担当者名 /Instructor 松川 素子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

- ・ 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。
- ・ 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割など）について理解する。
- ・ 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。
- ・ 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks
特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
講義中にその都度紹介する

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 福祉政策の主要な論点と課題①【効率性と公平性、必要と資源】
 - 2回 福祉政策の主要な論点と課題②【普遍主義と選別主義】
 - 3回 福祉政策の主要な論点と課題③【自立と依存、参加とエンパワーメント】
 - 4回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割①
 - 5回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割②
 - 6回 福祉政策における政府・市場・国民の関係と役割③
 - 7回 福祉政策の手法と政策決定過程および政策評価
 - 8回 福祉供給部門と福祉供給過程①【公私関係、非営利協働】
 - 9回 福祉供給部門と福祉供給過程②【再分配、行財政、計画】
 - 10回 福祉利用過程【スティグマ、情報の非対称性】
 - 11回 福祉政策と教育政策【資格教育】
 - 12回 福祉政策と住宅政策【貧困対策、障害・介護と住宅改修】
 - 13回 福祉政策と労働政策【貧困対策、障害・高齢者と就労】
 - 14回 福祉供給の政策過程と実施過程【供給システムの多元化】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
レポート ... 30% 試験 ... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
事前に配布する講義レジュメ・資料、参考文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

相談援助の基盤と専門職 1 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義時に指示

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
 - 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
 - 3回 相談援助の定義と構成要素1【ソーシャルワークの概念】
 - 4回 相談援助の定義と構成要素2【ソーシャルワークの構成要素】
 - 5回 相談援助の形成過程I1【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
 - 6回 相談援助の形成過程II2【ソーシャルワークの発展期】
 - 7回 相談援助の形成過程II3【ソーシャルワークの展開期】
 - 8回 相談援助の形成過程II4【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 9回 相談援助の理念I1【ソーシャルワーカーと価値】
 - 10回 相談援助の理念I2【ソーシャルワーク実践と価値】
 - 11回 相談援助の理念I3【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
 - 12回 相談援助の理念I4【ソーシャルワーカー倫理綱領】
 - 13回 相談援助の理念II1【クライアントの尊厳と自己決定】
 - 14回 相談援助の理念II2【ノーマライゼーションと社会的包摂】
 - 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks
 社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords
 相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【昼】

担当者名 坂本毅啓/地域創生
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義時に随時紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
 - 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
 - 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
 - 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
 - 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
 - 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
 - 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
 - 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
 - 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
 - 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
 - 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
 - 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
 - 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。

履修上の注意 /Remarks
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords
 相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

心理学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

社会心理学、発達心理学、及び臨床心理学の基礎的内容が主要テーマである。まず、人間の社会的行動を、集団における人間関係、自己意識と社会システムの関係などから考察する。次に、ヒトの発達現象における心理学的な捉え方、生涯発達と発達課題、発達における障害について考察する。最後に、心理臨床の観点からパーソナリティ、ストレスと不適応、心理的援助を考察する。

到達目標は以下の通りである。

- ・ 集団、発達、臨床といった心理現象を理解するために必要な基礎的な専門知識を修得する。
- ・ 人間関係に問題意識をもち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

適宜、レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：本講義の概要について
- 第2回 心理学の研究方法について【実証主義】【仮説】【有意性】
- 第3回 社会心理学の基礎理論【原因帰属】【認知的不協和】
- 第4回 集団における人間関係【リーダーシップ】【集団凝集性】
- 第5回 自己と社会の関係【大衆社会化】【自分探し】
- 第6回 発達現象の心理学的な捉え方【遺伝と環境】
- 第7回 乳児期から児童期の発達理論【共同注意】【言語発達】【学習理論】
- 第8回 生涯発達と発達課題【発達段階】【アイデンティティ】
- 第9回 発達における障害①【肢体不自由】【知的障害】【発達障害】
- 第10回 発達における障害②【アセスメントと発達支援】
- 第11回 パーソナリティに関する心理学研究の歴史【類型論】【特性論】
- 第12回 パーソナリティの形成に関する心理学研究の歴史【愛着理論】
- 第13回 不適応の理解と援助①【防衛機制】【不適応】
- 第14回 不適応の理解と援助②【心理アセスメント】【心理的支援】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1学期開講の「基礎心理学」と併せて受講されることを薦めます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ボランティア活動論 【昼】

担当者名 西田心平/地域創生
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ボランティア活動の中身とそれを取りまく社会状況について理解できるようになることを目的とする。また、自分が取り組んでいるボランティア活動について、振り返ることができる能力を培う。
地域ボランティア養成コースの必修である。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で随時紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ大学で「ボランティア活動」を学ぶのか？
 - 2回～3回 ボランティア活動の戦後史
 - 4回～5回 ボランティア活動の現代史
 - 6回～7回 ボランティア活動の特性
 - 8回 中間まとめ
 - 9回～10回 ボランティア活動の争点①
 - 11回～12回 ボランティア活動の争点②
 - 13回～14回 ボランティア活動の争点③
 - 15回 まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では、テーマに即してレジュメや資料を配布する。VTRなどの視聴覚教材を用いることがある。受講にあたっては、毎回出席することが前提である。レジュメを読みながら、講師の話をしっかりメモすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツ指導論【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

スポーツの考え方を明らかにし、スポーツを文化としてとらえることの重要性について理解を深め、スポーツ指導者として求められる役割などを学習する。初めてスポーツに出会う子供をはじめ、どの年代からでも生涯を通じて楽しむ方法や機会を提供するとともに、人間としてのマナーやエチケットなどを学習する。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツ技術・戦術以外のスポーツ文化的内容(ルール、マナー、エチケット)
- 2回 21世紀のスポーツ指導者像とは
- 3回 スポーツ指導の心構え
- 4回 競技者育成プログラムの理念とは
- 5回 救急処置
- 6回 指導計画の立て方
- 7回 スポーツ活動と安全管理
- 8回 指導者の法的責任
- 9回 スポーツと人権
- 10回 スポーツ活動中に多いけがや病気
- 11回 新たなスポーツ環境とスポーツ指導者
- 12回 これからのスポーツ振興の方向性
- 13回 部活動とスポーツ指導者
- 14回 日本武道の必要性
- 15回 地域スポーツクラブとスポーツ指導

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度...70% レポート...30%
(遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害者スポーツ指導論 【昼】

担当者名 /Instructor 小手川 郁人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

障害者スポーツは、最近ようやく社会に認められハンディキャップを持つ人々の意識も高まりスポーツやレクリエーションを通して社会参加することができるようになってきたが、反面それらを支える支援者の数が不足しているのも事実である。本講義では「障害とは何か」、「様々な障害状況に対しどのようにアプローチすればいいのか」などを考えその意義や指導論を学習していく。さらにこの講義では、障害者スポーツの現場で活用できる内容を重点的に取り入れ自分の考える課題や他者との意見交換を行い発表するという体験的要素を導入する。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 障害者スポーツセンターの役割
- 3 障害者スポーツの意義と理念
- 4 障害者スポーツの発展の歴史
- 5 障害者福祉施策の具体的恩恵
- 6 障害者スポーツ指導者制度
- 7 障害状況に応じた車いすの種類
- 8 常用車いすの介助・体験
- 9 肢体障害とスポーツ 脊髄損傷・頸椎損傷
- 10 肢体障害とスポーツ 脳血管障害
- 11 肢体障害とスポーツ 脳性麻痺・切断
- 12 視覚・聴覚障害とスポーツ
- 13 知的障害・精神障害とスポーツ
- 14 障害者スポーツ指導員の心得
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・ 60% 試験・・・ 30% レポート・・・ 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各回配布する資料をよく読み込んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義中に障害者スポーツ教室や大会、地域住民と一緒にいる行事等紹介するので、積極的に参加し体験してほしい。
国際大会などの情報を知りたければ遠慮なく聞いてほしい。

キーワード /Keywords

スポーツ・ボランティア指導論【昼】

担当者名 徳永政夫/地域創生
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

スポーツ活動や身体運動を通して、子供から高齢者まで様々な活動を支援していく。スポーツ教室とスポーツ大会の目的の違いなどを理解すると同時に、スポーツ参加や選考など学生自身がスポーツ種目の企画、立案、実施を通して学んでいく。

例えば、開会式から閉会式までを考え実施していくことや同時に人間的な幅広さをも学んでいく。また、総合型スポーツクラブである北九州スポーツクラブACEの取り組み行事などに積極的に参加し、市民のスポーツ活動の未来を考える。

教科書 /Textbooks

必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツボランティアとは
- 2回 スポーツボランティアの目的
- 3回 地域スポーツを考える(1)
- 4回 地域スポーツを考える(2)
- 5回 スポーツイベントの運営(1)
- 6回 スポーツイベントの運営(2)
- 7回 スポーツイベントの計画と実践(1)
- 8回 スポーツイベントの計画と実践(2)
- 9回 中高年者とスポーツ(1)
- 10回 中高年者とスポーツ(2)
- 11回 女性とスポーツ
- 12回 小学生のスポーツ活動
- 13回 小学生のスポーツ実践
- 14回 障がい者スポーツの支援(1)
- 15回 障がい者スポーツの支援(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

受講態度...70% レポート...30%
(遅刻は認めない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必要があればその都度連絡する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

歴史と政治【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ペリー来航（1853）から1970年代までの日本政治の歩みを外交政策の展開と関連させて概説します。日本のことを知らないで、国際化社会に対処することはできません。この講義では、日本近代史を学び直すことを通じて、21世紀にふさわしい歴史的感覚を涵養していきます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○伊藤之雄『明治天皇』（ミネルヴァ書房）、○小林道彦『児玉源太郎』・『桂太郎』（ともにミネルヴァ書房）、○岡義武『山県有朋』（岩波新書）、○岡義武『近衛文麿』（岩波新書）、○高坂正堯『宰相吉田茂』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 明治維新【木戸孝允】【大久保利通】【西郷隆盛】
- 第3回 明治憲法と自由民権運動【伊藤博文】【井上毅】【板垣退助】【大隈重信】
- 第4回 日清戦争【伊藤博文】【陸奥宗光】
- 第5回 立憲政友会の成立【伊藤博文】【山県有朋】【星亨】
- 第6回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第7回 政党内閣への道【原敬】【山県有朋】【桂太郎】
- 第8回 憲政の常道【浜口雄幸】【田中義一】
- 第9回 満州事変【関東軍】
- 第10回 日中戦争【軍部】【近衛文麿】
- 第11回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第12回 敗戦と戦後改革【マッカーサー】【吉田茂】
- 第13回 55年体制と日米安保【吉田茂】【鳩山一郎】【岸信介】
- 第14回 高度経済成長【池田勇人】【佐藤栄作】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な講義への取り組み...10% 期末試験...90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【夜】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「文化」という言葉から伝統芸能や芸術活動を連想する受講者も多いかもしれない。本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。(おそらく大部分が)北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。
本講義は、A文化とB文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身に着ける手掛かりを学んでほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業ではPower Pointを使用するが、それだけに頼らず、各自ノートをしっかり取ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：グローバルでローカルな世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 家族は普遍的な概念か？

第3回 生殖医療の時代の家族・親族関係を考える

第4回 近代家族 / 伝統的家族？

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと文化

第7回 伝統について：構築主義と本質主義

第8回 文化相対主義の考え方

第9回 中間試験

第II部 文化と世界観

第10回 現代社会における儀礼の役割

第11回 不幸への対処と文化

第12回 宗教紛争と日常の中の宗教

第13回 中間試験の講評 / 呪術・占いとリスク社会① 呪術とは

第14回 呪術・占いとリスク社会② 現代社会のなかの呪術

第15回 講義のまとめ：人権と文化の独自性

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 30%、期末試験 70% を基本に、エッセイによる授業貢献を適宜加点する。

※受講者の数によっては中間試験はレポートになることもあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回最後の10-15分は授業の感想と、指定するトピック(次回のテーマに関するもの)についてのエッセイを記述し、提出してもらいます。次の講義の冒頭で、提出されたエッセイの中から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入に講義を進めます。専門分野に関わらず、日常的に新聞、雑誌、書籍などを読む習慣をつけ、自分の考えをまとめる訓練を心がけてください。

異文化理解の基礎【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 出席しただけでは評価しません。講義に9割出席していても、偶然1回休んだ日の内容がテストに出て回答できなければ、結果として単位を落とすこともあります（ほかの日の内容が完全に理解できているならばそんなことはありませんが）。出席することより理解することを心がけてください。質問は歓迎します。
- ・ 中間試験の無断欠席者および授業態度が目には余る受講生は、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ 受講者が多い場合は受講制限をします。第1回目は来てください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義「異文化理解の基礎」の応用編はテーマ科目「政治のなかの文化（新カリのみ）」とビジョンII「現代社会と文化（旧カリ：文化と政治）」です。基礎が分かるからこそ面白いと思える内容ですので、受講すると、文化についてより包括的な理解が深まります。

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、共同体、社会関係

ことばの科学 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータや最新の脳科学での発見を交え、「ことば」について考えていきます。

教科書 /Textbooks

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』スティーヴン・ピンカー著、椋田 直子訳、NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序(1)：ことばの不思議
- 第2回 序(2)：ことばの習得
- 第3回 ことばの単位(1)：音韻
- 第4回 連濁
- 第5回 鼻濁音
- 第6回 ことばの単位(2)：語
- 第7回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第8回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第9回 ことばの単位(3)：文
- 第10回 動詞の自他
- 第11回 日本語と英語の受動態
- 第12回 数量詞
- 第13回 時制と相：方言比較
- 第14回 ことばと脳：言語野と他の領域
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度...10% 課題...30% 期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際学入門【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究(国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など)と②世界の多様化に対応するための研究(地域研究、比較文化論、比較政治論など)である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、「地域研究のルーツ」
- 第4回～6回：「地域研究」における総合的認識。【総合化】【全体像の把握】
- 第7回～9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ。【文化主義】【オリエンタリズム】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題。
- 第13回～14回：地域研究の視点、ミャンマー研究を事例として。
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

可能であるならば、本講義と共に、国際関係論、国際機構論、比較文化論などを履修することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活世界の哲学【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「生活世界」を講義全体のキーワードとして、初学者向けに社会哲学への手引きを行なう。この科目を真摯に受講すれば、20世紀のヨーロッパで展開された社会思想に関する基本的な知識が得られるだろう。具体的には、マックス・ヴェーバーからフランクフルト学派、ハンナ・アーレントにまで至る思想家たちの「近代」に対する基本的なスタンスを説明したあと、近年盛んに論じられている公共性と親密圏の交錯という問題に取り組む。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 姜尚中『マックス・ヴェーバーと近代—合理化論のプロブレマティーク』御茶ノ水書房
- ハンナ・アーレント『人間の条件』(志水速雄訳)ちくま学芸文庫
- 斎藤純一『公共性(思考のフロンティア)』岩波書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション【成績評価およびテスト日程について】
- 2回 「近代」とはいかなる時代だったのか(1)【形式合理性】
- 3回 「近代」とはいかなる時代だったのか(2)【官僚制】
- 4回 「近代」とはいかなる時代だったのか(3)【工場労働】
- 5回 「近代」とはいかなる時代だったのか(4)【物象化】
- 6回 「近代」とはいかなる時代だったのか(5)【啓蒙の逆説】
- 7回 中間のまとめ(確認テスト)
- 8回 生活世界論のはじまり(1)【ガリレオ・ガリレイと科学革命】
- 9回 生活世界論のはじまり(2)【フッサールの科学批判】
- 10回 生活世界論のひろがり【アーレントの近代批判】
- 11回 公私の区別とその起源(1)【古代ギリシャ概説】
- 12回 公私の区別とその起源(2)【古代ギリシャにおける公と私】
- 13回 宗教の私事性と公的領域(1)【迫害と弾圧】
- 14回 宗教の私事性と公的領域(2)【社会との確執】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト...50% 学期末試験...50%
(第7回に予定している確認テストを受験していない者は、自動的に期末試験の受験資格を失う。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業前に高校世界史の教科書を一通り読み直しておくことが望ましい。初回の授業で確認テストの方法・日程に関する詳しい説明を実施するので、受講予定者は必ず出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向け科目であることを考慮に入れ、分かりやすい講義となるよう心がけたい。しかし、2回にわたって実施する試験はいずれも難度の高いものであり、単位取得のためには相当な努力が求められる。

キーワード /Keywords

生活世界 形式合理性 活動 ポリス

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

わが国の防衛に関する概説を通じて、その必要性や意義について理解し、防衛一般についての知識や理解に基づいて、広く安全保障一般に対する思考を促すことを目的とする。具体的には、安全保障とは何か、防衛とは何か、といった基礎概念の提示を行い、防衛の必要性や意義を論ずることになるが、これらを理解するためには、前提として、わが国が置かれた環境および目下の脅威を把握する作業（状況認識）が欠かせない。一方で、わが国は憲法9条のもと「平和主義」を標榜していることから、その防衛も様々な制約を受けることになる。従って、わが国の防衛を考えるには、そうした「制度」面での知識も欠かせない。以上を踏まえ、本講義では、日本の防衛について、現実的な視点と制度的な視点の双方を重視し、総論、各論を通じて、現状と課題の理解と思考を促したい。

なお、この授業の到達目標は、同分野における①総合的知識・理解の獲得、②課題発見・分析・解決力の獲得、③生涯学習力の獲得、に置かれている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、『防衛ハンドブック』、その他は適宜指示する。

日本の防衛【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2-3回 安全保障と防衛
安全保障を学ぶことの重要性、安全保障の目標、安全保障のスペクトラム、安全保障の定義、脅威の定義、安全保障の非軍事的側面と総合安全保障、国土安全保障
- 第4回 わが国周辺の軍事的脅威(1)
有事の意識、三矢研究、有事の想定(国民保護「基本指針」)、わが国の地理的・地政学的特性、防空の基本(警戒・管制、領空と防空識別圏、領空侵犯対処とスクランブル、現況と今後)
- 第5回 わが国周辺の軍事的脅威(2)
海上警備の基本(空と海の違い、哨戒について、九州南西海域不審船事案)、北朝鮮の脅威について①(兵力の特徴、特殊部隊、江陵事案、わが国の防衛に対する意味、島嶼防衛とゲリコマ対処)
- 第6回 わが国周辺の軍事的脅威(3)
北朝鮮の脅威について②(1993年ノドン発射、北朝鮮の保有する弾道ミサイルとノドンの重要性、1998年テポドン発射、弾道ミサイルと人工衛星、2006年ミサイル発射、米国のMD構想と日本のBMD)、2009年テポドン2発射と日本の対応、2012年ミサイル発射と日本の対応)
- 第7回 わが国周辺の軍事的脅威(4)
中国海空軍の脅威について(中国軍の不透明性、軍事態勢、海軍の動向と海上戦略、動的防衛力) ロシア軍の動向について(軍事再編の概況、極東の現況、ロシア海空軍の動向)
- 第8回 「平和主義」国の防衛(1)
いわゆる「軍隊のない国」はわが国の参考になるか、憲法9条と平和主義①(戦争放棄で放棄される「戦争」とは、自衛権について、「防衛戦争」と「防衛行動」、わが国が「自衛」で認められる範囲について)
- 第9回 「平和主義」国の防衛(2)
「戦力」と「防衛力」の違い、「必要最小限度の実力」と防衛力の限界、専守防衛とは何か、
- 第10回 「平和主義」国の防衛(3)
「防衛」の目的、攻撃の未然防止と「抑止」、「さらなる攻撃の阻止」と専守防衛、わが国の「拒否力」のあり方と動的防衛力、敵基地攻撃の可能性と限界)
- 第11回 国際平和協力
国際平和協力活動の枠組み、国際平和協法力について、主な取り組み、課題(武器使用基準、駆けつけ警護、集団的自衛権について)
- 第12回 海洋国家日本とシーレーン
シーレーンとは何か、シーレーン問題についての議論の推移、91年海自ペルシャ湾派遣の「目的」、海賊対処の重要性
- 第13回 防衛計画の大綱(1)
基盤的防衛力構想と51大綱、16大綱までの概略
- 第14回 防衛計画の大綱(2)
22大綱の特徴(基盤的防衛力構想からの離脱、動的防衛力とは何か、自衛隊の新体制と課題、わが国防衛はどこに向かってゆくのか)
- 第15回 予備

成績評価の方法 /Assessment Method

試験100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

安全保障や防衛問題に関心があれば、誰でも履修してみてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。そもそも生命とはなにか。生物はどのような物質からできていて、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では生命を物質的な側面からとらえ、生きているということについて科学する。また、生物多様性の大切さ、多様性と進化の原動力となった突然変異とその影響について学ぶ。また、生命と環境がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方の大切さについて理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「文系のための生命科学 第二版」 東京大学生命科学教科書編集委員会 2011年(羊土社)
 - 「宇宙と生命の起源 ビッグバンから人類誕生まで」 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)
 - 「生物と無生物のあいだ」 福岡伸一著 2007年(講談社)
- 高校生物IおよびIIの教科書または参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 ミクロとマクロの世界【物質の単位】【自然科学】
- 3回 宇宙に生まれた物質【元素】【原子】【超新星爆発】
- 4回 生命と分子のなりたち【DNA】【タンパク質】
- 5回 生命の誕生・細胞【細胞膜】【共生説】
- 6回 単細胞から多細胞生物へ【全球凍結】
- 7回 生物の分類と系統【種】【進化】
- 8回 生殖と生命多様性【有性生殖】【染色体】【細胞分裂】
- 9回 遺伝子につけられた名前【突然変異】【遺伝学】
- 10回 放射能と放射線【放射性同位元素】【確率的影響】
- 11回 科学と似非科学【血液型】【星座】
- 12回 太陽と地球の環境【太陽活動】【地球温暖化問題】
- 13回 人類の起源【ミトコンドリア】【ゲノム】
- 14回 関連ビデオ鑑賞
- 15回 質疑応答とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小テスト20点x3回、期末レポート30点、積極的な授業への参加10点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自然科学系科目が苦手な者も歓迎します。高校の教科書や参考書等を入手し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んでください。興味がある者は2学期開講の「人間と生命」も合わせて受講するとよいでしょう。

キーワード /Keywords

情報社会への招待【夜】

担当者名
/Instructor

中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります:

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、情報社会を総合的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎として、変化し続ける情報技術と正しくつき合い適応できる能力を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『エンドユーザのための情報基礎』(浅羽 修丈他著) FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル、炎上、情報漏洩、著作権問題】
- 2回 情報を伝えるもの【光、音、匂い、味、触覚、電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数、ビット・バイト、文字コード】
- 4回 コンピュータを構成するもの【CPU、メモリ、記憶メディア、キーボード、マウス、ディスプレイ】
- 5回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS、拡張子とアプリケーション】
- 6回 電話網とインターネットの違い【回線、パケット、LAN、IPアドレス】
- 7回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名、DNS、サーバ/クライアント】
- 8回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン、位置情報、GPS、GIS、プライバシー】
- 9回 ネットワーク上の悪意【ウイルス、スパイウェア、不正アクセス、詐欺、なりすまし】
- 10回 自分を守るための知識【暗号化、ファイアウォール、クッキー、セキュリティ更新】
- 11回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア、防犯カメラ、ライフログ】
- 12回 集合知の可能性とネットワークサービス【Wikipedia、フリーミアム、クラウド】
- 13回 著作権をめぐる攻防【著作権、オープンソース、クリエイティブコモンズ】
- 14回 大規模データがもたらすもの【検索エンジン、データベース、データマイニング】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 75%
日常の授業への取り組み ... 25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ

環境問題概論 【夜】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

本講義では「自然環境を保護する」という考え方や行為に対し、正しい理解を身に着けることを目的とする。
具体的には以下の5つの論点を提示し、詳細な解説を行うことによって、環境問題と向き合う際に必要となる基礎的知識の充足を目指す。

1. 現代社会における自然とのかかわり方について - 自然と人間の共生を考える -
2. 自然環境保護活動の歴史 - 人間はどのように自然を守ってきたか -
3. 環境問題の解決に向けて - 自然環境を守っていくための考え方 -
4. 具体的事例への言及 - 白神山地の保護をめぐる論争 -
5. 現代社会における自然環境保護とは - 我々にできることは何か？を考える -

教科書 /Textbooks

『自然保護を問い直す—環境倫理とネットワーク』（鬼頭秀一 著）ちくま新書 ¥760+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『環境問題とは何か』（富山和子 著）PHP新書 ¥660+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 人間と自然との共生とは何か
- 第3回 自然を支配しようとする人間 - 人間中心主義という考え方 -
- 第4回 自然の権利とは何か - 動植物にも生きる「権利」があるのか？ -
- 第5回 「宇宙船地球号」と「共有地（コモンズ）の悲劇」について
- 第6回 ディープ・エコロジーとは何か - 人間と自然は本当に対立するのか？ -
- 第7回 自然の価値とは何か - なぜ、人間は自然を守らなければならないのか？ -
- 第8回 小テストとその解説
- 第9回 「生業」と「生活」の視点から環境問題を考える
- 第10回 遊び・仕事・分配の営みが自然環境を守る
- 第11回 白神山地の保護をめぐる論争
- 第12回 世界自然遺産指定をめぐる春秋林道の問題
- 第13回 地域社会は「よそ者」にどう対処すべきか
- 第14回 現代社会において、我々ができる環境保護活動とは何か
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト：30%、日常の授業への取り組み：20%、学期末試験：50%
(※なお、小テストを未受験者は、学期末試験を受けることができない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球の生いたち【夜】

担当者名 /Instructor 長井 孝一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

我々の住む地球は太陽系の第3惑星として、今から約46億年前に誕生した。その46億年の地球史の中で、大地や海、大気が形成され、地球生命が誕生し、さらに、そのそれぞれが進化あるいは変遷を繰り返してきた。地球生命は約38億年前に誕生し、長大な時間をかけて進化を繰り返してきた。我々人類は今、地球の生物史上初めて地球に能動的にかかわる生物として、その長大な時間の延長線上にいる。高度文明社会が人類や地球の未来を危うくしかねない問題を次々と引き起こしている現在、我々はこれまでも増して地球のしくみと地球史について正しく理解する必要がある。

この授業では、地球のしくみと地球史に対する講義を通して、地球と人間とのあるべき関係を正しく理解するとともに、地球と人間との共生の道をさぐる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上伸一『生命と地球の共進化』(日本放送協会), 1071円
丸山茂徳・磯崎行雄著『生命と地球の歴史』(岩波書店), 861円
田近英一著『地球環境46億年の大変動史』(化学同人), 1680円
その他の参考書については授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目: 地球の歴史の表し方【地質時代と絶対年代】
- 2回目: 生きている地球1【プレートテクトニクス】
- 3回目: 生きている地球2【ウエゲナーと大陸移動説】
- 4回目: 地球惑星の起源と進化【水の惑星の誕生】
- 5回目: 地球生命の起源と目に見えない生物の長い長い時代【先カンブリア時代】
- 6回目: 先カンブリア時代末の大事変【全球凍結】
- 7回目: 生物進化史上最大の事変1【カンブリア爆発】
- 8回目: 生物進化史上最大の事変2【カンブリア爆発の意義】
- 9回目: 顕生累代の生物の変遷史1【古生代】
- 10回目: 繰り返す大量絶滅1【ペルム紀末の大量絶滅】
- 11回目: 顕生累代の生物の変遷史2【中生代】
- 12回目: 繰り返す大量絶滅2【白亜紀末の大量絶滅】
- 13回目: 顕生累代の生物の変遷史3【新生代】
- 14回目: 人間圏の成立と地球環境問題【人類と環境】
- 15回目: まとめと演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験: 90%, ミニレポート: 10%
欠席の多い学生は減点する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回配布する資料プリントの説明文や図表類を帰宅後に読み直し、授業の内容を復習すること。また、シラバスによって次回の授業内容の確認を行ない、可能であればシラバスに載せている参考書を用いて、授業に関係する部分を適宜予習・復習すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球史を学ぶ事を通して、地球と人間との関係について考えましょう。

キーワード /Keywords

地球史, 生命と地球, 共進化

思想と現代【夜】

担当者名 伊原木 大祐 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

19世紀末から20世紀にかけて発展してきた重要な思想の流れを解説する。この時代がいわゆる「哲学の終焉」以降の時代であることを意識しつつ、その中から生まれてきた新たな哲学的発想（実存思想・精神分析・フェミニズム）に着目してゆく。これらの発想をヒントにすることで、自我の成立、および他者との関係性について複眼的な思索ができるようになることを本授業の目的とする。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『哲学の歴史 第9巻—反哲学と世紀末』中央公論新社、2007年。
- 『哲学の歴史 第12巻—実存・構造・他者』中央公論新社、2008年。
- 小此木啓吾『フロイト思想のキーワード』講談社現代新書、2002年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 実存の思想(1)【概説】
- 3回 実存の思想(2)【キルケゴール】
- 4回 実存の思想(3)【ハイデガー】
- 5回 実存の思想(4)【サルトル】
- 6回 実存の思想(5)【メルロ=ポンティ】
- 7回 中間総括(確認テスト)
- 8回 精神分析の思想(1)【前期フロイト】
- 9回 精神分析の思想(2)【後期フロイト】
- 10回 精神分析の思想(3)【メラニー・クライン】
- 11回 フェミニズムの思想(1)【第一波~第二派】
- 12回 フェミニズムの思想(2)【日本のウーマン・リブ】
- 13回 フェミニズムの思想(3)【フレンチ・フェミニズム】
- 14回 フェミニズムの思想(4)【クエア】
- 15回 全体総括

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト... 50% 期末テスト... 50%
(※確認テストを受験していない者は、期末テスト受験の権利を失う)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第7回に確認テスト(第3回~第6回が試験範囲)を実施するので、受講希望者は遅くとも第3週目から出席しておく必要がある。テスト予定日は授業内で早めに通知するつもりである。原則としてこのテストを受験していない者には単位を認めないので、あらかじめ注意しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学を読む【夜】

担当者名
/Instructor

馬場 美佳 / MIKA BABA / 比較文化学科, 岩本 真理子 / 比較文化学科
五月女 晴恵 / 比較文化学科, 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
福島 勲 / FUKUSHIMA ISAO / 比較文化学科, 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

◎総合テーマ 大学に入るまでに私たちは「国語」という科目の中で「文学」に触れ、また自ら図書館や書店の棚で「文学」を手にとってきた体験があります。こうした「文学を読む」という行為は、人間にとって当たり前前の営みだと感じられがちなのですが、それは本当なのでしょうか?さらには「古典」「名作」と名づけられた作品は、今なお読むに値するどのような意味・意義を有しているのでしょうか。一見自明に見える課題を再度問い直し、私たちにとって現実的な営みとしての「文学」を捉えなおすことが、この科目の目的です。

◎2013年のテーマ:「言葉の力」文学とは、言語を用いた芸術作品である、という当たり前のことがわかっていながら、ひとつひとつの言葉の持つ深い意味や、そこから広がる世界の大きさをじっくり考えながら文学作品を読んでいる人は、一体どのくらいいるのでしょうか。たとえば文学の中でも「詩」という表現形式は、芸術作品としての「言葉」の密度がきわめて高いものです。また、「言葉」はその力を拡大して、文学というジャンルを超えた表現形式へ生まれ変わることもあります。この授業では、複数の教員がオムニバス方式で各国言語で書かれた詩や警句・ことわざ、また言語芸術から生まれた造形芸術について講義し、芸術作品としての「言葉」の深さ、可能性、美しさなどの発見を促します。

この授業の主な到達目標は、以下の通りです。

1言語芸術に関する基本的・総合的な知識を獲得する。

2「言葉」の意味の深さや可能性について考え、自分で課題を設定し、解決する能力を磨く。

3修得した知識を今後の知的生活の中で応用できるようになる。

教科書 /Textbooks

特定のテキストを使用するのではなく、各教員が講義ごとにプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に各教員が指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 導入・言語芸術の可能性

2回 岩本(文学部比較文化学科)

3回 岩本

4回 馬場(文学部比較文化学科)

5回 馬場

6回 田部井(文学部比較文化学科)

7回 田部井

8回 福島(文学部比較文化学科)

9回 福島

10回 伊藤(外国語学部英米学科)

11回 伊藤

12回 五月女(文学部比較文化学科)

13回 五月女

14回 木原(外国語学部英米学科)

15回 木原

(各講義の題目や順番は変更になる場合があります。第1回に詳細な予定表を配布します。)

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員ごとのレポートまたは小テスト・100%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

私語と授業中の教室への出入りは厳禁します。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に関する問い合わせはコーディネーターの馬場まで

キーワード /Keywords

民主主義とは何か【夜】

担当者名 /Instructor 中道 壽一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

今年度は、「比較民主主義論」というテーマで講義を行います。

民主主義を理論、運動（組織）、制度の3つのレベルに区分し、まず、民主主義の理論の比較として、同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論、参加民主主義論、共生の民主主義論、熟議民主主義論等について考察します。次に、運動（組織）のレベルでは、1938年と1968年における日独の青年の政治的位置の比較を行い、制度のレベルでは、議院内閣制民主主義と大統領制民主主義を比較します。そして、こうした比較を通じて見えてくる差異性（多様性）や共通性から、「新しい政治」について検討します。

教科書 /Textbooks

テキストはなし。
基本的にレジュメを配布して講義します

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考文献としては、
○中道『政治思想のデッサン』（ミネルヴァ書房）、
○J・リンズ他『大統領制民主主義の失敗』（南窓社）、
○中道編『現代デモクラシー論のトポグラフィー』（日本経済評論社）、
○イアン・シャピロ『民主主義理論の現在』（慶應義塾大学出版会）
を挙げておきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

「授業計画・内容」としては、下記の通りです。

第1回 はじめに・・・民主主義の3レベルについて
第2回 民主主義の理論の比較・・・同質性民主主義論、エリート主義的民主主義論
第3回 参加民主主義論、共生の民主主義論
第4回 熟議民主主義論、ラディカル・デモクラシー論
第5回 民主主義理論の比較のまとめ
第6回 まとめのグループ討論、グループ発表
第7回 民主主義の運動（組織）の比較・・・1989年の東欧革命について
第8回 1968年の「青年の反乱」の日独比較
第9回 1938年の日独青少年交歓事業について
第10回 民主主義の運動の比較についてのまとめ・・・1938、68、89年の日独青年の政治的位置の比較について（グループ討論、グループ発表）
第11回 民主主義の制度の比較について・・・議院内閣制と大統領制
第12回 議院内閣制民主主義の諸問題について
第13回 大統領制民主主義の諸問題について
第14回 民主主義制度の比較のまとめ・・・首相公選制について
第15回 全体のまとめ・・・「新しい政治」について

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、下記のような配分で、総合評価します。

日常の授業への取り組み	20%
小テスト	10%
レポート	20%
定期試験	50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

民主主義に興味があれば、どなたでも受講できますが、国内外のニュースを読んだり見たりしておいてください。多くの情報を持っていれば、それだけ講義の内容に興味を持つようになります。

民主主義とは何か【夜】

履修上の注意 /Remarks

毎回、講義のレジユメを配布しますので、紛失ないようにファイルし、毎回の講義に持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3人一組のグループを作り、グループ内で議論したことを、代表者に発表してもらうという、「まとめ」を2回ほど行うつもりですので、講義に積極的に参加してほしいし、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

講義を楽しむ

人権論 【夜】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

「人権」といえば「特別なこと」というイメージを持つかもしれないが、実際には「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無意識に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では、「人権とは何か」という基本的な概念をふまえて、現存する「人権課題」の実情や社会的背景を考察していく。その上で、自分自身がどのように「人権」と向き合っていくのかを問う。

目標

1. 人権とは何かについての理論的概念が理解できる。
2. 人権獲得の歴史を体系的に理解できる。
3. 現代社会における様々な人権課題についての認識を深め、自分との関係を知る。
4. 自分自身にとっての人権課題を明確にする。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』（横田耕一著 / 福岡県人権研究所発行 ¥1000）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『部落問題資料と解説』（解放出版社発行）
必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」：自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」：人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」：人権獲得の歴史を近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」：世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「部落問題について」：現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 6 「部落問題について」：当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 7 「在日外国人と人権課題」：急増する在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 8 「在日コリアンについて」：在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 9 「ハンセン病について」：ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く日本社会の歴史や現状を解説する。
- 10 「教育と人権～識字問題」：読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 11 「教育と人権～夜間中学」：教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 12 「障害者と人権」：障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 13 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 14 「アジアの人権状況」：アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」：現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50% 期末テスト・ミニレポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日常生活の中にあるさまざまな人権課題に関心を持ち、授業のミニレポートまたは感想用紙に反映させることが望ましい。

人権論【夜】

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁

出席回数が基準を満たさない場合は期末テストの受験資格を失う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生自身が持つ「学ぶ権利」を意識して授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」

ジェンダー論 【夜】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

なぜ男言葉と女言葉があるのか、なぜ女性の大芸術家は現れないのか、「男は仕事、女は家庭」は自然な役割なのか、なぜ政治学や法学・科学の分野に女性教員や女子学生が少ないのか、なぜ戦時・平時にかかわらず女性に対して暴力が振るわれるのか—そのような日常的に「当たり前」となっていることをジェンダーの視点で問い直すことで、社会や文化に潜むジェンダー・ポリティクスを読み解く視点と理論を学ぶ。

教科書 /Textbooks

牟田和恵編『ジェンダー・スタディーズ—女性学・男性学を学ぶ』（大阪大学出版会、2009）
適宜、補足資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納実紀代編『岩波女性学辞典』（岩波書店、2002）
マギー・ハム『フェミニズム理論辞典』（明石書店、1997）
R.W. Connell, Gender: Short Introduction. Polity, 2002.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本語とジェンダー—戦後から現代までの日本歌謡曲【女言葉】【男言葉】
- 2回 ジェンダー・リテラシーで読み解く文学—村上春樹作・小説『ノルウェイの森』【眼差し】
- 3回 現代アートとジェンダー—映画『ロダンが愛したカミーユ・クローデル』【制度】
- 4回 男もつらいよ—アーサー・ミラー作・戯曲『セールスマンの死』【男らしさ】【性別分業】
- 5回 ジェンダー—家族を超えて—週刊誌『女性自身』にみる皇室家族の肖像【近代家族】
- 6回 セクシュアリティを考える—あだち充作・マンガアニメ『タッチ』【ホモソーシャル】
- 7回 学校教育の今昔—学園TVドラマの系譜【隠れたカリキュラム】
- 8回 社会保障とジェンダー—津村記久子作・小説『ポトスライムの舟』【貧困の女性化】
- 9回 ジェンダーの視点からみる農業—エレン・グラスゴー作・小説『不毛の大地』【農業経営】
- 10回 アジア現代女性史の試み—ミュージカル『ミス・サイゴン』【女性に対する暴力】
- 11回 女性差別撤廃条約と人権—絵本『世界中のひまわり姫へ』【民法】【均等法】【DV防止法】
- 12回 ジェンダーと平和学—女性戦士の系譜『リボンの騎士』『風の谷のナウシカ』【平和構築】
- 13回 グローバリゼーションと労働市場—国連『人間開発計画報告書』【移住労働】
- 14回 デートDV—TVドラマ「ラスト・フレンズ」【ドメスティック・バイオレンス(DV)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の積極的な発言...25%、プレゼン...25%、レポート...25%、期末試験...25%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1)法制度改正の動きを新聞等で把握しておく。(2)メディア表現を含め日常的な会話・風景をジェンダーの視点で問い直す作業を日頃から行い、授業中の発言、プレゼン、レポート、期末試験に反映させる。(3)プレゼンにはパワーポイント使用のためプレゼンおよびPPTスキルを身につけておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ジェンダー」「セクシュアリティ」「ポリティクス」

社会調査【夜】

担当者名 山本 努 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

- 1) 新聞を開けば、社会調査の結果が載っていない日はないかもしれない。我々は新聞やテレビやインターネットなどを通して、膨大な調査結果や統計データに日々、さらされている。社会調査から生み出されるこれらの情報や知見や現状分析(認識)などを批判的に読み込む力を培う。
- 2) また、社会調査の方法を学ぶことは、社会科学の問題構築、仮説検討、現状分析などのよき入門(つまり、社会科学のよき入門)ともなる。
- 本講義では社会調査の基礎を学ぶが、上記の二つをねらった講義を計画している。

教科書 /Textbooks

谷富夫・山本努編『よくわかる質的社会調査(プロセス編)』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法—2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会調査のよい例、わるい例
- 2回 社会調査とは何か
- 3回 社会調査の種類
- 4回 量的(統計)調査の方法
- 5回 質問文の作り方
- 6回 量的(統計)調査の難点
- 7回 質的調査の方法
- 8回 質的調査のフィールドの実際
- 9回 質的調査の意義、量的(統計)調査との関係
- 10回 量的(統計的)社会調査の作品群の概要
- 11回 ミクロの量的(統計)分析の代表事例
- 12回 マクロの量的(統計)分析の代表事例
- 13回 ミクロの実験(統計)の代表事例
- 14回 質的・量的(統計)調査の作品の対比
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(あるいは定期試験の時に課題提出)・・・70%、
普段の授業への取り組み・・・30%
* 授業出席不振の学生には単位は認定しません。
* 成績評価の詳細は初回の授業でお話します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段から社会的な事象や問題に関心をもっておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会調査、質的社会調査、量的社会調査、社会的世界

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものが、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 枠組みの設定
 - 3回 民衆行動の分析①
 - 4回 民衆行動の分析②
 - 5回 市民運動の分析
 - 6回 市民の活動の展開 / 戦前 (上)
 - 7回 市民の活動の展開 / 戦前 (下)
 - 8回 市民の活動の展開 / 戦後 (上)
 - 9回 市民の活動の展開 / 戦後 (下)
 - 10回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (上)
 - 11回 市民の活動の展開 / 高度成長期 (下)
 - 12回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (上)
 - 13回 市民の活動の展開 / ポスト高度成長期 (下)
 - 14回 市民活動の現在
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極参加... 30% 期末試験... 70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合がある。その際の積極的な参加が求められる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業と社会【夜】

担当者名 /Instructor 山岡 敏秀 / toshihide yamaoka / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

我が国は、アジア太平洋戦争に敗北した。しかし、その後の日本は、日米同盟という軍事的・政治的・経済的枠組みのもとで、奇跡的とも言うべき復活・再生（高度成長から安定成長）を果たした。そして、その後の不況下の物価上昇というスタグフレーションをひとまず克服した日本経済は、欧米からジャパンアズナンバーワン[日本の経営(温情主義的経営)]とも賞賛された。しかし、こうした日本の企業社会であるが、その「ピーク=破壊」たる1990年代前半のバブル崩壊を契機として、一転して失われた10年さらには15年とも評価されるにいたっている。

終身雇用 (= ライフタイム・コミットメントという英語の日本語訳、広義には職場共同体という感覚)・年功制や労使協調型経営のシステムは、今や、液化して剥き出しの資本制経済の荒波(マーケット中心主義)にさらされている。日く、ワーキングプア(働いていても生活がいよいよ苦しい)・ネットカフェ難民(帰るべく家がない)・格差から貧困(経済的格差・貧困から意欲の格差が目される)・99%対1%、等々。

にもかかわらず、経済政策をリードしている新自由主義(マーケット型資本主義)路線。すなわち「市場=マーケット」万能路線である。ここでは、市場から脱落・排除(彼女/彼らはこれを退出という)された者は、もはや回帰不可能な存在として処理されているかのようである(例えば、退場をしたサッカー選手は、帰るべく家があるが、市場から退場を命じられた労働者に帰るべく家は必ずしも存在しない)。

だからこそ、これまでの日本経済においては、ケインズ型経済政策を基底にして、社会そのものがこうした人々を支えるセーフティネットをもってたと判断される(社会統合機能)。しかし、赤字財政と経済危機という観点から、いよいよ新自由主義なる路線が浸透しているかのようである(社会統合機能の麻痺と当該社会の正統性の危機)。

そうすると行き着くところ、社会(資本制経済あるいは資本家の生産社会)というものは、必ずしも人々の生命の再生産を所与としながらいかに振る舞うことが可能なのだろうか？

こうした問題を、日本の企業社会という文脈にひきつけて展開してみようというのが講義のねらいである。

教科書 /Textbooks

テキストは、竹内章郎『新自由主義の嘘』岩波書店、2007年。レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1、市場を扱った文献については、カール・ポランニー『市場社会と人間の自由』大月書店、2012』(○)
- 2、格差と貧困に関わるテーマを扱った文献については、①雑誌『世界』(○)・岩波新書(白波佐和子『生き方の不平等』2010(○)等の最新の文献、②『私たちは"99%"だ』(岩波書店、2012)』(○)、③國島・重本・山崎編『「社会と企業」の経営学～新自由主義的経営から社会共生的経営へ～』ミネルヴァ書房(2009年)(○)、森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、2012。
- 3、社会統合と社会の正統性に関する議論については、ハバースとルーマンの議論を紹介した文献を参照。①山之内靖『システム社会の現代的位相』岩波書店、2011、②尾関周二『言語的コミュニケーションと労働の弁証法』大月書店、2002。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会とは(社会認識の諸類型)。資本制経済(資本家の生産様式)。【社会認識】
- 2回 資本主義という俗語と市民社会という講学用語。【資本主義】【市民社会】
- 3回 市場とは。買い物を通して。日常的に観察される買い物すなわち商品流通から、ふたつの人間類型が見いだされる。→「C(商品) - M(貨幣) - C(商品)」[私達]と「M(貨幣) - C(商品) - M(貨幣)」[資本家]。私達と資本家は、商品流通レベルでは平等。【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】
- 4回 商品流通(商品交換)の次元における私達→私達は平等である(等価交換と市民法)。【商品流通(商品交換)】【平等・自由】
- 5回 商品流通の次元における私達は平等であるのに、何故、格差・貧困・「99%対1%」なのか。【格差】・【貧困】
- 6回 市民社会の歴史的創出 = 本源的蓄積過程。商品流通 (C - M - C) の内実たる(M - C - M)での剰余価値の生産。資本家 と労働者。【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】
- 7回 労働者および資本家の歴史的誕生。英国のケース。【本源的蓄積過程】
- 8回 商品流通と生産過程・利潤の源泉【剰余価値】【賃労働関係】
- 9回 長時間労働・過労死そして格差・貧困の発生【剰余価値】【絶対的剰余価値】【相対的剰余価値】
- 10回 戦後資本主義の特性=恐慌と危機。ケインズ政策の登場。【恐慌】【危機】【ケインズ政策】
- 11回 セーフティネット装置のビルトインされた国家=福祉国家(混合経済)の登場。【福祉国家】
- 12回 福祉国家の危機=赤字財政というシステム統合危機。市場回帰志向の新自由主義の台頭。【赤字財政】【新自由主義】
- 13回 新自由主義の台頭とセーフティネット装置の浸食。システム統合危機から社会統合危機へ。【危機】【統合】
- 14回 システム統合と社会統合。マーケットとその外側(生活世界)。【システム統合】【社会統合】【生活世界】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%、およびボーナスとして、レポート...10%と小テスト...10%。この配分を100点満点に換算して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- ①、テキストを用意すること。②、レジュメだけにしがみつかない。

企業と社会【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最近では、ブラック企業という言葉が頻繁に聞きます。就活にとって無視できません。私たちは、次々とこうした魔物にからめとられてしまうのでしょうか。だから、私達にとって社会とは、単なる観察対象ではなく、観察主体である自らも観察対象であることを常に意識してもらいたい。

キーワード /Keywords

【商品流通】【資本家】【労働者】【市民社会】【資本制経済】【市民法】【本源的蓄積過程】【剰余価値】【賃労働関係】【福祉国家】【ケインズ政策】【新自由主義】【システム統合】【社会統合】【生活世界】

現代の国際情勢【夜】

担当者名
/Instructor

下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 板谷 俊生 / 中国学科
 総田 芳憲 / Kaseda Yoshinori / 国際関係学科, 篠崎 香織 / 国際関係学科
 山本 直 / Tadashi YAMAMOTO / 国際関係学科, 尹 明憲 / YOON, Myoung Hun / 国際関係学科
 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科, 横山 宏章 / Yokoyama Hiroaki / 社会システム研究科 博士後期課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
											○

授業の概要 /Course Description

東アジア現代の国際情勢を政治・経済・思想などを中心に考察する。近年、国際関係分野において注目されている諸理論・現象を紹介しながら講義を進める。

教科書 /Textbooks

各担当教員が適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各担当教員が適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業は複数の教員が各自の専門と関心からアジアと国際関係を論じるオムニバス授業である。授業テーマと担当者については初回授業で紹介するので、必ず出席すること。

※授業では出席をとることがある。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 下野寿子「グローバル化の中の中国」
- 第3回 " "
- 第4回 尹明憲「北東アジアの経済事情」
- 第5回 " "
- 第6回 鄧紅「日中関係の過去、現在と未来」
- 第7回 " "
- 第8回 総田芳憲「日本の安全保障」
- 第9回 " "
- 第10回 山本直「アジアとヨーロッパ」
- 第11回 " "
- 第12回 板谷俊生「中国のノーベル文学賞作家」
- 第13回 横山宏章「東アジアの安全保障」
- 第14回 篠崎香織「東南アジア：『周縁』で形成される文明の新たなかたち」
- 第15回 " "

※都合により、講義の順番は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートで評価する(100%)。
 レポートの本数・形式など詳細については初回のオリエンテーションで指示する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜参考文献などを紹介するので自主的に読むこと。
 平素から新聞や関連する本を読んで、授業内容への理解を深める努力をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

開発と統治【夜】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / HIROYUKI MIYAKE / 政策科学科, 伊野 憲治 / 基盤教育センター
 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

グローバル化が刻々と進行している中、現在、持続可能な社会の構築が求められています。なかにはその目標に向かって進んでいる国や地域がある一方で、紛争や対立を繰り返している国や地域もあります。本講義では各国や地域を熟知・精通した教員が、各自が考える「ガバナンス(統治)」の意味を世界各地の国(ミャンマー、バングラデシュ、韓国、米国と日本が対象国)や地域社会の具体的な実例を用いて説明します。そして、最後に受講生にとって「ガバナンス」とは何なのかについてグループワークを通じて回答を出してもらいます。

以上の概要を通して、ガバナンス概念の知識を吸収すると同時に理解し、地域においては自らもガバナンスの一翼を担えるような能力を付けてもらいたいと考えています。

教科書 /Textbooks

その都度指定

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『○○を知るための○章』のシリーズ(授業の該当国)、明石書店
 (特に、米国、韓国、ミャンマーやバングラデシュ版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「開発と統治」をはじめるとあたって 担当: 三宅
- 第2回 民主化問題を考える視座(1) 【民主化問題】 担当: 伊野
- 第3回 民主化問題を考える視座(2) 担当: 伊野
- 第4回 理論と現実-ミャンマーの民主化をめくって 【ミャンマー】 担当: 伊野
- 第5回 もっと知りたいアジア-ソーシャルビジネスとユニクロ 【ソーシャルビジネス】
 担当: チョウドリ・三宅
- 第6回 お祭り騒ぎ・内戦模様の今年の総選挙を通して見たバングラデシュの政治活動
 【バングラデシュ】 担当: チョウドリ・三宅
- 第7回 途上国と一村一品運動 【一村一品運動】 担当: チョウドリ・三宅
- 第8回 NGOs活動としめ社会のガバナンスの変化 【BRAC】 担当: チョウドリ・三宅
- 第9回 韓国の民主化とガバナンスの形成過程 【韓国】 担当: 申
- 第10回 アメリカにおけるガバナンスと環境 【米国】 担当: 申
- 第11回 エネルギー問題にみるガバナンス形成 【エネルギー問題】 担当: 申
- 第12回 地域社会から見たガバナンス 【地域社会】 担当: 三宅
- 第13回 日本の子ども会を取り巻く環境 【子ども会】 担当: 三宅
- 第14回 ガバナンスについてのグループ・ワーク 【グループワーク】 担当: 三宅
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加態度...30% 小課題の提出...20% 試験...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な国々を対象とするので、参考書は読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各教員が対象国での研究や生活経験が長いので、現場に由来する非常に面白い事項を盛り込み授業を展開する予定。

キーワード /Keywords

ガバナンス ミャンマー 韓国 バングラデシュ 米国 子供会 グループワーク

国際紛争と国連【夜】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

国際紛争に対し国連がどのような対応を取ってきているのかについて、法的・制度的枠組みや実際の活動の紹介・分析を通じ、学習することで、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題についての認識を深めてもらうことを目指します。

まずは国際紛争とは何か、時間経過軸による紛争の分類 (Phase化)の議論を紹介し、紛争の各段階における国連の対応の必要性を認識してもらいます。次に、その分析軸を基に、総論として、国連における国際の平和と安全のための活動の基本的枠組みと、そこでの加盟国が果たすべき役割を認識してもらった上で、各論として、①平和的解決の手法を駆使し平和を創出する段階、②停戦合意後の暫定的な平和を維持する段階、③政治的意思の欠如から平和を強制せざるを得ない段階、④紛争後の平和を持続・定着させる段階についてそれぞれ取り上げ、Case Studyとしての事例の紹介も交えながら、国連による国際紛争の処理メカニズムの現状と課題について、学んでもらいます。

教科書 /Textbooks

テキストは設定しません。
講義の理解に必要な参考資料を、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考書 財団法人日本国際連合協会『わかりやすい国連の活動と世界(改訂版)』(三修社・2007)○
その他の参考文献は、適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス
- 第2回 国連を知る【国連の生立ち】【国連の目的】【国連の組織構造】
- 第3回 国際紛争を見る分析軸【DisputeとConflict】【紛争のPhase】
- 第4回 国連における紛争処理のメカニズム【国連憲章上の枠組み】
- 第5回 国連による国際の平和と安全のための活動と加盟国【加盟国の地位の二重性】
- 第6回 国連による平和の創出【和平合意の形成】【勧告】【事務総長による周旋】
- 第7回 国連による平和の維持【国連平和維持活動(PKO)】
- 第8回 国連による平和の強制【平和に対する脅威等の認定】【強制措置】
- 第9回 Case Study①: 湾岸戦争と国連【多国籍軍】
- 第10回 Case Study②: ソマリア問題と国連【平和執行型PKO】
- 第11回 Case Study③: リビア問題と国連【保護する責任】
- 第12回 国連による持続的平和の定着【和解】【国家再建】【平和構築】
- 第13回 Case Study④: アフガニスタン問題と国連【平和構築】
- 第14回 Case Study⑤: PKOと日本の国際平和協力【PKO協力法】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題等への対応および学期末試験で評価します。
課題等への対応...30% 学期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、予習を前提とした講義を展開します。
指示された課題に誠実に取り組んでから、授業に臨むようにしてください。
詳細は、学習支援フォルダーで確認してください。

履修上の注意 /Remarks

成績評価において、授業を通じ提出を求められる課題への対応の比率が高く設定されています。
そのため単位取得のためには、提出を求められた課題に対し、誠実に取り組むことが必要となりますので、受講の決定の際には、この点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3つの願いがあります。
国際問題に関心を持ってほしい。国連の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際問題は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際紛争】 【国連】 【平和創出】 【平和維持】 【平和強制】 【平和構築】

歴史の読み方I【夜】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

ここでは明治時代をはじめとする、歴史上の人物や実際の史料を取り上げながら、今日の世界の中で日本の歴史がどう捉えられているのか、また、私たち自身が歴史をどう見ているのかを考えることを目的とした歴史の見方を学びます。具体的には、明治維新から敗戦までの一次史料を直接読み、さまざまな歴史認識の可能性を探っていきます。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜史料プリントを配布致します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○外務省編『日本外交文書』、○『山県有朋意見書』、○『原敬日記』、○『牧野伸顕日記』、○『木戸幸一日記』、○『西園寺公と政局』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 西南戦争【木戸孝允】
- 第3回 日清戦争【山県有朋】
- 第4回 日露戦争【桂太郎】【小村寿太郎】
- 第5回 韓国併合と「満州」経営【伊藤博文】【山県有朋】
- 第6回 辛亥革命【伊藤博文】【山県有朋】
- 第7回 政治家の肉筆書簡【田中義一】
- 第8回 政党政治(1)【原敬】【山県有朋】
- 第9回 政党政治(2)【牧野伸顕】
- 第10回 山東出兵と張作霖爆殺【牧野伸顕】
- 第11回 満州事変(1)【木戸幸一】【西園寺公望】
- 第12回 満州事変(2)【石原莞爾】
- 第13回 日中戦争【近衛文麿】
- 第14回 太平洋戦争【昭和天皇】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な取り組み... 10% 課題... 10% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義前に最低限高校教科書程度のレベルの知識を得ておくこと。適宜、参考文献を指示するので自主的に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人物と時代の歴史【夜】

担当者名 /Instructor 山崎 勇治 / 国際教育交流センター, 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師
兼口 真一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

歴史の面白さを、特定の代表的な人物を中心として講義して、学生に知らせることを目的とする。
なぜならば、歴史の背後にある人物や文化などを理解することが複雑な今日政治、経済、文化、外交、戦争などの諸現象を理解できるからである。
三人の教員が、イギリス・アメリカ・日本の代表的な人物について、人物と時代について語る。まず、イギリスについては1980年代の自由競争主義、民営化、ビッグバンなどグローバル化の基礎を築いたマーガレット・サッチャーについて述べる。
次にアメリカを代表する人物の話に移る。果たして、オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか。オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史について語る。そして、歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）について。
最後は、「剣と禅」に生きた山岡鉄舟と幕末・明治維新について語る。今、武士道（Bushido）が見直されている。核兵器と原子力を抑止するのは結局のところ人間の心しかない。禅と武道を極めた鉄舟もその心を無刀流においた。江戸時代、上杉鷹山はその儒教的経営で壊滅的な上杉家の財政を見事に立て直した。その技を見てみよう。次に、徳川幕府が始まってまだその礎が固まっていないとき、3代将軍家光の弟・保科正之は江戸幕府の礎を築いた。長い平安の時代が終わり、貴族に代わって武士が台頭したとき、貴族のための仏教に代わって、庶民のために仏教が生まれた。それを代表するのが浄土真宗の親鸞であった。日本古来の縄文信仰（アイヌや南方諸島に残る）や弥生信仰に代わって、聖徳太子（厩戸皇子）は仏教を大和（やまと）の国の根本におかれた。飛鳥・奈良時代、なぜ、インド・中国から渡来した仏教が日本で繁栄したのか。これらを明らかにする。

教科書 /Textbooks

教科書 /Textbooks 資料を配付します。（新村）
口述講義（山崎）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 新渡戸稲造『武士道』（BUSHIDO）
- 藤沢周平『漆の実のみのる国』（文春文庫）
- 中村彰彦『保科正之』（中公新書）
- 山崎勇治『石炭で栄え滅んだ大英帝国一産業革命からサッチャー改革まで』（ミネルヴァ書房、2008年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- イギリス、アメリカ、日本の歴史の中からテーマを厳選し、講義をする
- 第1回 イギリスとはどんな国かー日英交流史ー
 - 第2回 サッチャー登場の歴史的背景ーイギリス病に悩むイギリス経済ー
 - 第3回 サッチャーと炭鉱ストライキ
 - 第4回 サッチャーと民営化政策
 - 第5回 サッチャーとNHS改革
 - 第6回 サッチャーとビッグバン
 - 第7回 サッチャーの大学改革と北九州市立大のカーティフ大学誘致合戦
 - 第8回 オバマ大統領のノーベル平和賞授与は正しかったのか
 - 第9回 オバマ大統領の経歴と奴隷解放運動の歴史
 - 第10回 歴代大統領とその素顔（リンカーン、ケネディー、クリントン大統領）
 - 第11回 「ラスト・サムライ」山岡鉄舟と【幕末・明治維新】
 - 第12回 【江戸時代】、ギリシャと同様に壊滅的だった藩の財政を立て直した上杉鷹山と儒教的経営
 - 第13回 【3・11東日本大震災】同様の危機を乗り切ったり【江戸幕府】の礎を築いた三代将軍家光の弟・保科正之
 - 第14回 乱世の世に現れた宗教家・親鸞と【平安・鎌倉時代】
 - 第15回 聖徳太子と【飛鳥・奈良時代】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート（70%）と平常の学習状況（30%）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

* 受講する際に、各回で取り上げる人物やテーマについて図書館等で調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

人物と時代の歴史【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 中島 俊介 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルのタフさがなければ生活人としての活動は難しい。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされる。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。本講義では一般的な心理学を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を生涯発達（エリクソン理論）の視点からとらえながら、日々の生活を充実させるための、人生でのその時期、その時期でのストレスマネジメントの力を身につけることを大きな目的とする。

またこの授業での本大学の学位授与方針に関わる到達目標は、以下のとおりである。1．自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができるようになる。（自己管理）2．現実の諸問題を一面的な価値観にとらわれることなく多面的に考え解決策を考えることができる（思考判断）3．卒業後も現実社会で理想を失うことなく主体的に学ぶ姿勢を持ちつづける事ができる（生涯学習）。以上の到達を目標とする。

教科書 /Textbooks

教科書はない。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「こころの旅」神谷美恵子著 みすず書房
「こころと人間」中島俊介著,ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 以下のスケジュールで行う（【 】はキーワード）
- 1回 オリエンテーション, 受講上の注意, 講師自己紹介など。
 - 2回 心の健康を学ぶ目的。「心」とは「健康」とは。【心の健康】【生涯発達心理学】
 - 3回 乳幼児の心の健康を知る。【エリクソンの自我発達理論】
 - 4回 児童期の心の健康を知る 【勤勉性と劣等感】
 - 5回 思春期の心のありよう【第二反抗期】
 - 6回から11回 青年期から壮年期までの人生と心の健康 【豊かな心とは】
同一性の視点から ・遊びと人生
配偶者の選択 ・病いと人生
 - 12回から13回 発達の障がいについての理解 【自閉症】【アスペルガー - 】
 - 14回 健康な心と身体が行く末について。【老いと死の受容】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法
定期試験...50% 受講態度と勉学への熱意...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

当該個所に対する自分の課題や疑問を整理しておくこと。自分なりの意見をまとめておいて授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / TOKUNAGA MASAO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 バドミントンの基本原則・知識の習得
- 3回 フライト練習(1) <ヘアピン>
- 4回 フライト練習(2) <ハイクリアー>
- 5回 フライト練習(3) <ドライブ、スマッシュ>
- 6回 サービス練習 <ショートサービス、ロングサービス>
- 7回 攻めと守りのコンビネーション練習(1) <ヘアピンからリターン>
- 8回 攻めと守りのコンビネーション練習(2) <ドロップからリターン>
- 9回 ルール説明
- 10回 審判法
- 11回 ダブルスゲーム(1) <ゲーム法の解説>
- 12回 ダブルスゲーム(2) <陣形の解説>
- 13回 ダブルスゲーム(3) <ゲームの実践>
- 14回 ダブルスゲーム(4) <まとめ>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

気持ちよい授業を進めるために私も含めた参加者全員で大きな声で挨拶をする。このことを徹底したいと思う。運動のできる服装とシューズを準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

データ処理【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 再履 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 群・再履
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要です。この授業では、みなさんがコンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習します。具体的には以下のよう項目を身につけることができます：

- タイピングの基礎を習得することができます。
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎を習得することができます。
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎を習得することができます。
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎を習得することができます。
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎を習得することができます。

教科書 /Textbooks

「情報利活用 表計算」日経BP社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】【添付ファイル】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】【複合グラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題 ... 50% ,
積極的な授業参加 (タイピング , 電子メール送受信 , 情報倫理の理解等を含む) ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

コンピュータの基本的な操作 (キーボードで文字を入力する , マウス操作など) ができるようになっておくと受講しやすくなります。

履修上の注意 /Remarks

授業の進度、情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」に記入した内容の順番が入れ替わることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの操作が基本になるので、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切です。

キーワード /Keywords

表計算ソフト タイピング 電子メール 情報倫理

ビジネス英語I (群 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	群 1年				
対象入学年度 /Year of School Entrance	2002		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
													○

授業の概要 /Course Description

Students will learn how to properly write business emails and letters. Presentation skills will also be learnt.

教科書 /Textbooks

『Email English』 (Paul Emmerson編 Macmillan Education出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回Orientation
- 2 回Formal or informal?
- 3 回Key phrases
- 4 回Opening and closing
- 5 回Information, action, help
- 6 回Giving news
- 7 回Internal messages
- 8 回Attachments
- 9 回Arranging a meeting
- 1 0 回Invitations and directions
- 1 1 回Negotiating a project
- 1 2 回Checking understanding
- 1 3 回Verb forms
- 1 4 回Comparisons
- 1 5 回Sentence structure

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 学期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies in 2013-14. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

business; emails

ビジネス英語II (群 1 年) 【夜】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year	1年次	単位 /Credits	1単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	群 1 年				
対象入学年度 /Year of School Entrance	2002		2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
													○

授業の概要 /Course Description

Students will learn how to properly write business emails and letters. Presentation skills will also be learnt.

教科書 /Textbooks

『Email English』 (Paul Emmerson編 Macmillan Education出版社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Student presentations
- 2 回 Common mistakes?
- 3 回 Punctuation and spelling
- 4 回 Customers and suppliers
- 5 回 Inquiries and orders
- 6 回 Discussing and agreeing terms
- 7 回 Asking for payment
- 8 回 Describing business trends
- 9 回 Complaints
- 1 0 回 Report structure and key phrases
- 1 1 回 Linking words and relative clauses
- 1 2 回 Being direct and brief
- 1 3 回 Being indirect and polite
- 1 4 回 Being friendly
- 1 5 回 Job application

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60% 学期末試験...40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck with your studies in 2013-14. If you have any questions, please do not hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

business; emails

地域学入門【夜】

担当者名 真鍋和博 他 地域創生学群教員
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

地域創生学群での学習や実習を行う際に必要な知識や技術、マナー、心構えを身に付めます。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定はしませんが、各自必要な書籍を読んで授業の参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回オリエンテーション
- 第02回地域創生学群とは(目的、設立経緯、学部の仕組み等々)
- 第03回社会人・学生としてのマナー
- 第04回調査・実習・校外活動におけるマナー
- 第05回情報機器の操作におけるマナー、図書館の利用方法
- 第06回栄養管理、生活管理、学生生活
- 第07回デザイン技法、チラシ・ポスターの作り方1
- 第08回調査書・実践報告書の書き方
- 第09回レポートの書き方
- 第10回デザイン技法、チラシ・ポスターの作り方2
- 第11回会議の行い方
- 第12回グループディスカッション技法
- 第13回ハラスメントについて
- 第14回情報共有
- 第15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題に対する成果・・・50%
出席等の授業への取り組み姿勢・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各自適宜準備をおこなってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティ論【夜】

担当者名 /Instructor 石塚優/地域創生

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

コミュニティとは、今日では単に特定の場所や集団と同一視することができず、一つの理念で説明もできない用語といえる。社会学的視点による伝統的なコミュニティ(血縁・地縁に基づく近隣集団、小規模な町、空間的に限定される地域社会や職業に基づく特定の小規模集団を基礎にした社会組織)以外にも、文化的に規定される集団やイデオロギーの視点からのコミュニティ論も存在する。また、社会・文化・政治・テクノロジー等や、ポストモダン、グローバリゼーション、インターネット等の社会情勢の変化も加味する社会理論的立場もありうる。そのため伝統的コミュニティ及び、今日的解釈を通じたコミュニティでの人間関係を理解することをねらいとする。一方で、学生はコミュニティの曖昧さと今日の社会関係の多様性と匿名性を理解することができる。

教科書 /Textbooks

資料配布による

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに：社会、地域社会、コミュニティについて
- 第2回 伝統的コミュニティの概念
- 第3回 コミュニティの概念の多様性
- 第4回 今日の地域社会について
- 第5回 地域社会の変化と今日の地域生活①社会環境的研究と精神的健康
- 第6回 地域社会の変化と今日の地域生活②地域における人間関係
- 第7回 社会関係資本としてのコミュニティ
- 第8回 コミュニティ調査研究①【地域活動】
- 第9回 コミュニティ調査研究②【地域の互酬性】
- 第10回 調査結果に見る地域における関係性の多様化
- 第11回 関係性の変化と地域における教育
- 第12回 関係性の多様化と地域の位置づけ【ネットワークコミュニティ、バーチャル・コミュニティ】
- 第13回 文化的・イデオロギーの視点からのコミュニティ
- 第14回 コミュニティ再生への希求と郷愁
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加(課題・レポート提出等) 50% 試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

システムマネジメント 【夜】

担当者名 廣渡栄寿/地域創生
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本演習では、システムの管理・運営について学習します。システムを利用して業務の課題発見や改善策の立案を行う際に必要な考え方、行動の仕方について学びます。また、グループディスカッションや個人ワークなどを通じて、システムを活用していく際の問題点を共有し、利用時の正しい判断について議論していきます。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりです。

- ・ システム活用に必要な基礎知識を習得すること
- ・ システム利用者として必要な考え方や行動の仕方を理解すること
- ・ システムに関する知識が地域社会の問題解決に適用できることを学び、現実の地域貢献に結びつくことを理解すること

教科書 /Textbooks

『情報処理教科書 ITパスポート』（芦屋 広太著）翔泳社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『エンドユーザのための情報基礎』（浅羽 修文他著）FOM出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 企業と法務
- 3回 経営戦略
- 4回 システム戦略
- 5回 開発技術
- 6回 プロジェクトマネジメント
- 7回 サービスマネジメント
- 8回 基礎理論
- 9回 コンピュータシステム
- 10回 マルチメディア
- 11回 ヒューマンインターフェース
- 12回 データベース
- 13回 ネットワーク
- 14回 セキュリティ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に取り組む課題 ... 40%
積極的な授業への参加 ... 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」を既に受講している場合は、本演習の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

毎回、各自の視点に基づく疑問点を発表してもらいます。その疑問点について、グループディスカッションや質疑応答を繰り返しながら、授業を展開します。受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画や授業内容が変更になる可能性があります。変更がある場合は、授業中にお伝えします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロジェクトマネジメント 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤貴之/地域創生

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

身の回りの生活や実習活動において、プロジェクトに分類されるものが数多く存在します。プロジェクトとは何かを理解した上で、プロジェクトを成功させるために何に気をつけ、どのように取り組めばいいのか、ワークを通して理論と実践の両面から学習します。また、プロジェクトの失敗事例を取り上げ、その原因の分析と解決策について学習します。最終的には、実際のプロジェクトで活用できる実践的スキルを身に付けることを目指します。

教科書 /Textbooks

- 『プロジェクトマネジメント 理論編』（通勤大学 図解PMコース①）総合法令出版 ￥935
- 『プロジェクトマネジメント 実践編』（通勤大学 図解PMコース②）総合法令出版 ￥935

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『プロジェクトマネジメント標準PMBOK入門』 広兼修著、オーム社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン、プロジェクトとは何か
- 2回 プロジェクトマネジメントの理論(1) 【PMBOK】、【組織】、【プロセス】
- 3回 プロジェクトマネジメントの理論(2) 【スコープ】、【タイム】、【コスト】
- 4回 プロジェクトマネジメントの理論(3) 【品質】、【人材資源】、【コミュニケーション】
- 5回 プロジェクトマネジメントの理論(4) 【リスク】、【調達】
- 6回 プロジェクトマネジメントの実践(1) 【プロジェクト目標】、【キックオフ】
- 7回 プロジェクトマネジメントの実践(2) 【WBS】、【見積もり】、【ネットワーク図】
- 8回 プロジェクトマネジメントの実践(3) 【クリティカル・パス】、【ガント・チャート】
- 9回 プロジェクトマネジメントの実践(4) 【負荷】、【予算】、【リスク】
- 10回 プロジェクトマネジメントの実践(5) 【進捗】、【振り返り】
- 11回 失敗事例から学ぶ(1) 【予測】
- 12回 失敗事例から学ぶ(2) 【対応】
- 13回 総合課題(1) 【シナリオ】
- 14回 総合課題(2) 【グループワーク】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題...50% 積極的な授業参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や情報系の科目を履修していると、理解しやすくなる場合があります。また、実際に作業する内容が多いため、正規の授業以外に多くの時間を必要とする場合があります。

履修上の注意 /Remarks

原則、毎回ワークを行う予定です(グループワーク、個人ワークともに行います)。授業に遅れると課題やワークが全くできない可能性があります。遅刻はなるべく避けるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は興味がないと苦痛になるだけだと思います。授業に対して一生懸命取り組んでくれることを期待しています。

キーワード /Keywords

プロジェクト、マネジメント、PMBOK

地域コーディネート論【夜】

担当者名 西田心平/地域創生
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

地域を舞台とした人と人との様々な関わり合いを、「コーディネート」という視点からとらえ直す。分かりやすい事例を1つ1つ授業の中で検討していきながら、「コーディネートする」とはどういうことが、みんなで考える。

教科書 /Textbooks

とくに使用しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介していく。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「コーディネート」という視座について
 - 2回 地域社会の変化について①
 - 3回 地域社会の変化について②
 - 4回 地域社会の変化について③
 - 5回 地域社会の変化について④
 - 6回 中間まとめと課題提起
 - 7回 課題の実施
 - 8回 地域再生とコーディネート
 - 9回 福祉とコーディネート
 - 10回 まちづくりとコーディネート
 - 11回 受講生からの提起①
 - 12回 受講生からの提起②
 - 13回 地域の「私」「公」「共」①
 - 14回 地域の「私」「公」「共」①
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義では、テーマに即してレジюмеや資料を配布する。受講にあたっては、毎回出席することが前提である。レジюмеを読みながら、講師の話をしっかりメモすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学総論【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 弘 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、法に関する基礎的な見方などについて講義を行い、法律についての一般的な考えなどを修得することを目的にします。現在、国民生活の多くの場面に法律が存在し、多くの諸問題が法のルールによって解決されるような、いわゆる「法化社会」の現象があり、社会生活の中で法律を理解することは必要になって来ると言えます。本講義では、まず、法に関する一般的な考えについて触れていきます。いくつかの項目を挙げ、法に関する一般的理解が出来るように講義を進めていきたいと思ひます。その後、いくつかの分野を取り上げて、その分野での法律を少し具体的に示しながら、法律についての具体像を把握できるように、講義を進めていきたいと思ひます。

教科書 /Textbooks

星野英一著『法学入門』有斐閣 (2300円+税)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

刑事関係に関しては、三井誠・酒巻匡著『入門刑事手続法』有斐閣(第5版)(2900円+税)、福井厚著『刑事法学入門』法律文化社(第2版)(1900円+税)等。その他、適宜指定したいと思ひます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「法化社会」と法源
- 第2回 法と社会規範
- 第3回 法の理念
- 第4回 法の解釈と適用
- 第5回 法の種類と階層性
- 第6回 法と歴史
- 第7回 法と国家機構
- 第8回 法と人権
- 第9回 法と教育
- 第10回 法と労働
- 第11回 法と市民生活
- 第12回 法と紛争解決
- 第13回 法と犯罪
- 第14回 法と刑事裁判
- 第15回 法と国際化

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容に関する教科書の該当部分等について、予習・復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

憲法人権論 【夜】

担当者名 植木 淳 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法における人権理論について概説するとともに、そのことを通じて現代日本社会における問題についても検証する。人間には国家・社会によっても侵してはならない「自分だけの領域」があるはずである。そして、このような「自分だけの領域」の範囲について考えることが「人権論」だと考えている。講義全体のキーワードは【現代日本社会と人権】である。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦部法穂『憲法学教室(全訂第2版)』(日本評論社・2006年)
- 高橋和之他編『憲法判例百選I・II(第5版)』別冊ジュリ186・187(有斐閣・2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権総論
- 第2回 人権享有主体
- 第3回 特別権力関係論・私人間効力
- 第4回 幸福追求権
- 第5回 平等原則
- 第6回 精神的自由①(信教の自由)
- 第7回 精神的自由②(表現の自由総論)
- 第8回 精神的自由③(表現の自由各論)
- 第9回 精神的自由④(知る権利)
- 第10回 経済的自由
- 第11回 社会権①(生存権・教育を受ける権利)
- 第12回 社会権②(労働基本権)・受益権
- 第13回 参政権
- 第14回 人身の自由
- 第15回 違憲審査基準論の展開

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特に必要なし。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO論【夜】

担当者名 /Instructor 檀原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
森 裕亮 / MORI Hiroaki / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかという点必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①4人の担当する講師による「講義」、②NPO関係者を招いての講演会(2人×6回程度予定)、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにして考えています。

教科書 /Textbooks

早瀬昇・松原朗『NPOがわかるQ&A』(岩波書店、2004年)。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○檀原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』(2010年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入-講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(1)
- 3回 第1回講演会
- 4回 NPOの基礎知識(2)
- 5回 第2回講演会
- 6回 福祉NPO(1)
- 7回 第3回講演会
- 8回 福祉NPO(2) -社会福祉法人
- 9回 第4回講演会
- 10回 NPOの基礎知識(3)
- 11回 第5回講演会
- 12回 NPOと政治(1)【利益団体】【政治過程と参加】
- 13回 第6回講演会
- 14回 NPOと政治(2)【アドボカシーの意義と課題】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もってテキストを読む等をして授業に参加してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書は変更する可能性もありますので第1回の講義には必ずご参加ください。また、本年は担当教員が3人のため、授業内容の変更等がありますのでご了承下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、環境NPO、アドボカシーNPO

経済学入門 A 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

経済学の基礎の一つであるミクロ経済学の導入と初歩的な手法の習得を目指します。
また、下記の講義内容で挙げられた事項を練習問題を通じて習得し、今後の経済学学習の土台を築きます。

教科書 /Textbooks

適宜指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マンキュー 『マンキュー経済学I ミクロ経済学編』 (第2版) 東洋経済新報社、2005年 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 : イントロダクション
なぜ? 経済学を学ぶのか?、経済学の考え方、【仮定の役割】、【モデル分析】
- 2回 : グラフの読み方、一次関数の学習 【傾きの概念】
- 3回 : 経済学の基本原理について(1) 【トレードオフ】、【機会費用】、【限界原理】、【インセンティブ】
- 4回 : 経済学の基本原理について(2) 【取引】、【市場】、【生産性】
- 5回 : 相互依存と取引について(1) 【取引のメリット】、【生産可能性】、【機会費用】
- 6回 : 相互依存と取引について(2) 【絶対優位】
- 7回 : 相互依存と取引について(3) 【比較優位】
- 8回 : 需要と供給 (1) 【市場と競争】、【需要】、【供給】
- 9回 : 需要と供給 (2) 【需要曲線、供給曲線のシフト】
- 10回 : 需要と供給 (3) 【需要の弾力性】
- 11回 : 需要と供給 (4) 【供給の弾力性】
- 12回 : 市場均衡について(1) 【価格】、【均衡】
- 13回 : 市場均衡について(2) 【比較静学】
- 14回 : 需要、供給、政府の政策 【価格規制】、【税金】
- 15回 : 経済学再考 【市場メカニズム】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出 20% 期末試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

丸暗記するのではなく、理解するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済学入門B 【夜】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の1つである。例えば景気循環、経済成長、失業、インフレといった諸現象の研究はマクロ経済学の主要な課題である。
この講義ではマクロ経済学を学ぶ上で不可欠な基礎知識を提供することで現実のマクロ経済の動向に関する興味を喚起すると同時に、マクロ経済学I・IIで講義されるより専門的な内容を吸収できるための基礎的素養を養うことを目的とする。

教科書 /Textbooks

井出多加子・井上智夫・北川浩・幸村千佳良 著
経済経営セメスターシリーズ「経済のしくみと制度」多賀出版

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

テキストに沿って講義を行う。

- 1回 イントロダクション(マクロ経済学とは何か?・講義の進め方についての説明)
- 2回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【GDP】
- 3回 第1章 経済の大きさを測ってみよう【国民所得の三面等価】
- 4回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【GNI】
- 5回 第2章 豊かさの指標を考えてみよう【名目と実質】
- 6回 第3章 金融のしくみを知ろう【金融】
- 7回 第3章 金融のしくみを知ろう【利率】
- 8回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【貨幣】
- 9回 第4章 貨幣の奥深さに触れてみよう【金融政策】【為替】
- 10回 第5章 税金の大切さを知ろう【租税】
- 11回 第5章 税金の大切さを知ろう【財政】
- 12回 第6章 政府の役割について考えてみよう【市場の失敗】
- 13回 第6章 政府の役割について考えてみよう【財政政策】
- 14回 第7章 失業の意味を考えてみよう【失業】
- 15回 まとめ

(第8章「海外にも目を向けてみよう」は第3章、第9章「経済全体を再確認してみよう」は第2章で適宜説明を行う。)

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30% 期末試験...70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義の後は各自で練習問題を解くなどして、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

レジュメを学習支援ホルダーから入手しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マネジメント論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

私たちは、企業をはじめ、学校、政府、地方自治体など、必ず何らかの組織に属して生きています。ですから、組織のマネジメント、すなわち組織をいかに経営するかは、社会にとっても、また私たち自身の生き方にとっても非常に重要なテーマであると言えます。マネジメントを学ぶことは、自分の生活とかけ離れた理論を学ぶということではなく、現代社会に生きる私たちにとって不可欠な、重要な考え方と実践を学ぶことです。

本講義では、経営学やマネジメントの基礎について学んでいきます。基本的な考え方を知ること、自らが生きている組織や社会のマネジメントに興味をもてるようになり、自身が所属する組織において、少しでもマネジメントの考え方を活かしていくことができるようになることを目標としています。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ経営学』(中野 裕治・貞松 茂・勝部 伸夫・嵯峨 一郎 編) ミネルヴァ書房 2,800円
- 『管理とは何か』(三戸 公 著) 文真堂 4,200円
- 『経営学100年の思想』(宮田 矢八郎 著) ダイヤモンド 3,200円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 現代社会と企業
- 2回 企業における所有と支配について
- 3回 古典的管理論に基づくマネジメント(1) 【科学的管理と管理原則・管理過程】
- 4回 古典的管理論に基づくマネジメント(2) 【人間関係論】
- 5回 マネジメントの新次元 (近代管理論の成立)
- 6回 意思決定の科学としてのマネジメント
- 7回 人間性を重視するマネジメント論(1) 【動機づけ理論】
- 8回 人間性を重視するマネジメント論(2) 【リーダーシップ論】
- 9回 現代管理論の展開
- 10回 コンフリクトのマネジメント
- 11回 マネジメントにおける創造性
- 12回 知識社会のマネジメント
- 13回 日本の経営について
- 14回 企業の社会的責任について
- 15回 これからのマネジメントへ向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(レポート等提出物、受講態度)...40% 学期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業にあたっては、テキストをしっかりと読んでおいてください。
また、各回の授業で配布するレジュメを導入として、学習を深めていってください。
専門教育科目の「企業論基礎」「経営組織論」とあわせて受講することをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自ら考え学ぶ姿勢を大切にしてください。
授業中の私語は禁止します。

マネジメント論基礎【夜】

キーワード /Keywords

企業と社会	人と組織	組織と管理	機能性と人間性	相違性の統合	科学と経験
社会的責任	日本の経営				

企業論基礎【夜】

担当者名 /Instructor 中間 信博 / Nobuhiro Nakama / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

本講義では、主として企業の仕組みや役割、社会との関係などをできるだけ平易に説明します。
 本講義の目的は、現代企業を理解するために必要な基礎的知識を獲得することです。
 本講義の達成目標は次の通りです。

- ① 企業の定義と役割について説明できる。
- ② 企業の種類やその特徴について説明できる。
- ③ 株式会社の制度的特徴について説明できる。
- ④ 株式会社の所有と支配について説明できる。
- ⑤ 日本の株式会社の実態について説明できる。
- ⑥ CSR (企業の社会的責任) の概念と基本的な考え方について説明できる。
- ⑦ 企業の目的や存在意義について自分の意見を述べることができる。
- ⑧ CSRの意義について自分の意見を述べることができる。

教科書 /Textbooks

『現代企業論の基礎』(佐久間信夫編著 学文社 ¥2,800+税)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「なし」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション(講義の概要や目的、評価方法等の説明)
- 2回 企業とは何か(1) 【企業の定義】、【企業の役割】
- 3回 企業とは何か(2) 【企業の目的】、【企業の存在意義】
- 4回 企業とは何か(3) 【企業は誰のものか】
- 5回 企業形態(1) 【企業の法的形態と経済的形態】
- 6回 企業形態(2) 【会社形態】
- 7回 企業形態(3) 【非営利組織】
- 8回 株式会社の制度的特徴(1) 【会社機関】
- 9回 株式会社の制度的特徴(2) 【株式会社と証券市場】
- 10回 株式会社における所有と支配
- 11回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(1) 【株式所有構造の変化と株主総会】
- 12回 日本の株式会社の実態と企業統治改革(2) 【取締役会改革と委員会設置会社】
- 13回 企業に求められる21世紀型CSR
- 14回 SRI(社会的責任投資)の広がりとその課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テストを含む)...20% 学期末試験...80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

経営学や会社法関連の科目を受講しておくこと、本講義の理解が一層深まるでしょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は大学における「企業論」の入門的科目です。この講義を端緒として企業の分析に本格的に取り組んでくれることを期待します。

キーワード /Keywords

企業形態(企業の種類) 株式会社 企業統治(コーポレート・ガバナンス) CSR(企業の社会的責任)

簿記論I【夜】

担当者名 /Instructor 池口 慶一 / KEIITI IKEGUTI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

企業簿記は、企業の資産と資本の変動を一定の理法と組織によって秩序的に記録・計算・整理し、その結果を適正・明瞭に表示する特殊な技術である。

本講義ではその理法と組織がいかなるものであるかを考察し、併せてその原理が実務でどのように応用されているかを研究する。簿記は実務学科である。したがって、簿記を修得するためには普段の努力が必要である。受講生は努力を惜しまないで欲しい。

教科書 /Textbooks

入門簿記講義 早稲田大学会計学研究室編 中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中央経済社編 会計法規集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 簿記とは何か
- 第2回 簿記の目的
- 第3回 簿記の必要性
- 第4回 計算項目(1) 資産・負債・資本
- 第5回 計算項目(2) 収益・費用
- 第6回 会計取引とは何か
- 第7回 会計取引と帳簿記入(1) 仕訳の法則
- 第8回 会計取引と帳簿記入(2) 元帳転記
- 第9回 仕訳及び元帳の記入練習(1)
- 第10回 仕訳及び元帳の記入練習(2)
- 第11回 試算表の作成
- 第12回 精算表の作成
- 第13回 決算手続(1) 帳簿の修正
- 第14回 決算手続(2) 帳簿の締切
- 第15回 Accounting Cycle

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験70% レポート30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

簿記は極めて簡単な原理から成り立っている。その原理を確実に理解するためには練習が必要である。筆記具と紙を用いて何度も練習してほしい。

ただし、基礎知識が習得できたら次はできるだけ難しい問題に取り組むことが肝要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報デザイン 【夜】

担当者名 佐藤貴之/地域創生
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

理解しやすい情報や使いやすいシステムをデザインするには、利用者（ユーザ）のを中心に考えることが重要です。本授業では、そのために必要な、利用者のニーズやウォンツを知り、自分たちでアイデアを出し合い、形にまとめていく一連のプロセスをワークを通して体験しながら学習します。最終的には、情報関連分野のみならず、より広い領域で実践に生かせる知識、技術の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要資料は配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『情報デザインの教室』（情報デザインフォーラム編）丸善

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 リサーチ、ベンチマーク
- 3回 インタビュー、ファシリテーショングラフィック
- 4回 ふるまいの観察、ファウンドビヘイビア
- 5回 コンセプトデザイン、マインドマップ
- 6回 アイデアの発想、ブレインライティング
- 7回 ペルソナ手法、シナリオ手法
- 8回 プレゼンテーション、情報の構造化
- 9回 UIとは
- 10回 ルールと作法
- 11回 基本デザイン・構造設計
- 12回 画面デザイン・フロー設計
- 13回 ユーザビリティ、ヒューリスティック法
- 14回 総合課題
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に実施する課題...50% 積極的な授業参加...50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「データ処理」や情報関連科目を受講していると、理解しやすくなる場合があります。

履修上の注意 /Remarks

基本的には、毎回ワークを行います（グループワークが中心ですが、個人ワークもあります）。授業の時間と内容の都合上、遅刻は厳禁です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

興味がないとこの授業は苦痛になるだけだと思います。授業に対して一生懸命取り組んでくれることを期待しています。

キーワード /Keywords

要求分析、UI（ユーザインタフェース）、ユーザ中心設計

現代社会と福祉 1 【夜】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / KAWASHIMA SHIZUYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉の概念、対象、主体、目的についての理解を深める。社会福祉の歴史を通して社会福祉の機能と意義について考察する。社会福祉の理念や思想について理解する。近年の我が国の福祉をめぐる状況を踏まえながら、今後の社会福祉の在り方について検討する。

教科書 /Textbooks
 特になし、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 ○社会福祉士養成講座編集委員会『現代社会と福祉』中央法規

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉の概念【目的概念】【実体概念】【ウェルビーイング】
 - 2回 生活問題とソーシャルワーク【人間の基本的欲求】【個人と環境との不適合】【社会関係の主体的側面】
 - 3回 社会福祉の制度・政策と実践・技術【ソーシャルウエルフェア】【ソーシャルワーク】
 - 4回 社会政策と社会福祉【社会問題】【貧困問題】【生活問題】
 - 5回 社会保障、社会保険、社会手当、公的扶助【最低賃金】【セーフティネット】【所得再分配】
 - 6回 生活保護法【生存権保障】【原理・原則】
 - 7回 社会福祉の理念と思想【ノーマライゼーション】【コミュニティケア】【生活の質】
 - 8回 社会福祉の歴史(イギリス)【セツルメント】【慈善組織化活動】【劣等処遇の原則】
 - 9回 社会福祉の歴史(日本)【救貧事業】【保護事業】【厚生事業】【社会福祉】
 - 10回 社会福祉の歴史(日本)【福祉見直し論】【日本型福祉社会論】
 - 11回 福祉改革と日本の動向【社会福祉基礎構造改革】【規制緩和】【格差社会】
 - 12回 福祉政策の主体と手法【福祉ミックス】【福祉国家】【福祉社会】【福祉レジーム】
 - 13回 現代社会の変化と福祉政策【社会的排除】【社会的包摂】
 - 14回 福祉政策の関連領域【所得政策】【教育政策】【保健医療政策】【住宅政策】【雇用政策】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 日常の学習状況(小テスト・宿題など) ... 20% 期末試験... 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 各授業で配布したレジュメを閉じる専用ファイルを準備すること。前回の授業の復習のためにテスト用紙を配布、回答を求めらるので、参照のために毎回ファイルを持参のこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と福祉 2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description

- ①福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。
- ②福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む）の関係について理解する。
- ③相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。

教科書 /Textbooks

社会福祉士養成講座編集委員会・編集『新・社会福祉士養成講座第4巻 現代社会と福祉』中央法規出版
 ※最新版を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○社会福祉の動向編集委員会編『社会福祉の動向 2013』中央法規出版
 ※その他、講義時に随時紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 福祉政策の概要【現代社会と社会福祉政策】
- 2回 福祉政策における必要と資源【ニーズ、福祉政策】
- 3回 福祉政策の理念・主体・手法【理念、資源配分システム、政策決定過程・評価】
- 4回 福祉政策の関連領域①【人権擁護】
- 5回 福祉政策の関連領域②【保健医療】
- 6回 福祉政策の関連領域③【所得政策】
- 7回 福祉政策の関連領域④【雇用】
- 8回 福祉政策の関連領域⑤【教育、住宅、震災】
- 9回 社会福祉制度の体系【制度の構造、制度とサービス】
- 10回 福祉サービスの提供【利用、運営管理】
- 11回 福祉サービスと援助活動【相談援助の原則・視点・考え方と方法、地域福祉への展開】
- 12回 福祉政策の国際比較①【欧米の福祉政策】
- 13回 福祉政策の国際比較②【東アジア諸国の福祉政策】
- 14回 福祉政策の課題と展望
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題提出（20点）＋中間テスト（30点）＋期末テスト（50点）＝100点満点で採点。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

第1学期開講の「現代社会と福祉1」を受講していることを望みます。もし受講されていない場合は、あらかじめ教科書の前半部分を自分で学んでおくようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

社会福祉士養成課程の指定科目としても開講されますので、社会福祉士を取得することを前提とした内容になります。ただし、社会福祉士を取得しない学生でも分かるように配慮をしますので、教養としても是非学んで欲しいと考えています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代社会における社会福祉の必要性について、政策を中心に学びます。社会福祉分野だけではなく、法学、経済学といった社会科学への理解も求められます。講義の際には参考文献をご紹介しますので、積極的に学ぶことを期待します。

キーワード /Keywords

社会福祉士、現代社会、福祉

相談援助の基盤と専門職 1 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 社会福祉士および精神保健福祉士の役割と意義、相談援助の概念と範囲、相談援助の理念、そして相談援助における権利擁護の意義と範囲についての理解を目的とする。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義時に指示

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 社会福祉士の役割と意義、【現代社会と地域生活】
 - 2回 精神保健福祉士制度創設の背景、【ソーシャルワーカーとしての連携】
 - 3回 相談援助の定義と構成要素1【ソーシャルワークの概念】
 - 4回 相談援助の定義と構成要素2【ソーシャルワークの構成要素】
 - 5回 相談援助の形成過程I1【ソーシャルワークの源流と基礎確立期】
 - 6回 相談援助の形成過程II2【ソーシャルワークの発展期】
 - 7回 相談援助の形成過程II3【ソーシャルワークの展開期】
 - 8回 相談援助の形成過程II4【統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 9回 相談援助の理念I1【ソーシャルワーカーと価値】
 - 10回 相談援助の理念I2【ソーシャルワーク実践と価値】
 - 11回 相談援助の理念I3【ソーシャルワーク実践と権利擁護】
 - 12回 相談援助の理念I4【ソーシャルワーカー倫理綱領】
 - 13回 相談援助の理念II1【クライアントの尊厳と自己決定】
 - 14回 相談援助の理念II2【ノーマライゼーションと社会的包摂】
 - 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための必修科目である。社会福祉士国家試験受験資格を取得する予定の無い学生が受講する場合、事前に社会福祉に関する文献を1冊以上読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks
 社会福祉士国家試験受験資格取得のための科目であるが、教養として社会福祉について知りたい学生の受講を大いに歓迎する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords
 相談援助、専門職、ソーシャルワーク入門、社会福祉

相談援助の基盤と専門職 2 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本毅啓/地域創生

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理、総合的かつ包括的な援助と他職種連携の意義と内容について理解することを目的とする。地域で「総合的かつ包括的な相談援助」を実践するという点について、自ら具体的に考えることができるようになることも目指す。

教科書 /Textbooks
 社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 相談援助の基礎と専門職』中央法規出版。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 講義時に随時紹介

- 授業計画・内容 /Class schedules and Contents**
- 1回 専門職倫理と倫理的ジレンマ1【専門職倫理】、【倫理綱領】
 - 2回 専門職倫理と倫理的ジレンマ2【倫理的ジレンマ】
 - 3回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像1【総合的かつ包括的な相談援助】
 - 4回 総合的かつ包括的な相談援助の全体像2【地域】、【基本的視座】、【八つの機能】
 - 5回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論1【ジェネラリスト・ソーシャルワーク】
 - 6回 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論2【GSの特質】、【基礎理論】
 - 7回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲1【相談援助専門職の概念】
 - 8回 相談援助にかかる専門職の概念と範囲2【相談援助専門職の範囲】
 - 9回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能1【予防機能】
 - 10回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能2【新しいニーズへの対応機能】
 - 11回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能3【総合的支援機能】
 - 12回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能4【権利擁護機能】
 - 13回 総合的かつ包括的な相談援助における専門的機能5【社会資源開発機能】
 - 14回 地域創生とソーシャルワーカー【地域創生】、【ソーシャルワーカーの役割】
 - 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の学習状況(小レポート含む)...30%、課題...10%、期末試験...60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。「相談援助の~1」での学習内容を復習して臨むこと。

履修上の注意 /Remarks
 本科目は「相談援助の基盤と専門職1」に続く科目である。したがって「相談援助の~1」からの連続通年受講が望ましい。もし「相談援助の~1」を受講していない者、あるいは同年度で受講していない者が受講を希望する場合は、あらかじめ予習する項目を伝えるので、担当教員にまで相談を申し出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor
 社会福祉士及び介護福祉士法が改正されたことに伴って、あらたに設定された科目である。旧カリキュラムの社会福祉援助技術総論、あるいはソーシャルワーク入門と言われていた科目である。本科目を通して、相談援助を中心として社会福祉に関する方法論や専門職について理解を深めていただきたい。

キーワード /Keywords
 相談援助、社会福祉士、ソーシャルワーク入門、専門職

観光社会学【夜】

担当者名
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
												○

授業の概要 /Course Description
 本講義においては、社会学の枠組みから、現代における典型的なイメージ消費としての観光現象について、観光客、観光地住民双方の視点から批判的に分析する。旅行や、観光地のあり方に対し批判的に関心を持つ学生の参加を期待する。本講義は「観光」についての評価から距離を持った立場で講義を進めるので、観光地にいかにか集客すべきかといった、直接的に「役に立つ」テーマ（客観的旅行情報は提供するが）は扱わない。

教科書 /Textbooks
 須藤廣『観光化する社会-観光社会学の理論と応用』ナカニシヤ出版、2008年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 須藤廣『観光の向こう側-後期近代と観光社会学』明石書店、2012年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents
 (【 】はキーワード)
 1回 インTRODクシヨN
 2回 【観光】とは何か(観光文化の構造、及び場所の消費としての観光について)
 3回 観光の歴史①前近代(「【伊勢参り】」)
 4回 観光の歴史②近代・現代(【修学旅行】の起源から現代観光まで)
 5回 「イメージ消費地」としての【ハワイ】(ハワイ観光の表象はだれがどのように作ったのか)
 6回 映画『ブルーハワイ』『ハワイの夜』『ハワイの若大将』からハワイの観光表象を分析する
 7回 ハワイ観光の発展をとおしてみる、【観光表象】、観光客、観光業者、観光地住民との関係
 8回 イメージ消費としての観光地とその問題点①タイのカヤン族(首長族)の観光化
 9回 イメージ消費としての観光地とその問題点②門司港
 10回 イメージ消費としての観光地とその問題点③湯布院
 11回 イメージ消費としての観光地とその問題点④ベトナムのモン族、中国チベット族の観光化
 12回 内発的な観光表現の可能性と限界①ハワイモロカイ島住民の「反対運動的」観光地づくり
 13回 内発的な観光表現の可能性と限界②ブータン王国の「制限された」観光地づくり
 14回 【バックパッカー・ツーリズム】のパラドクス(ヒッピーから「深夜特急」、「あいのり」)
 15回 【デイズニー化】する社会の【リアリティ】及びまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method
 授業の感想、小テストとレポート(書籍やウェブサイトからのコピペ等不正行為は小さなものでも厳禁、0点となります)
 出席10%、小テスト30%、レポート60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class
 1学期間だけの授業では扱いきれないほどの多くの内容を詰め込んで行うので、授業をさぼると理解不能になります。なるべく休まないように。授業内容に積極的に関わり、情報提供してくれる学生歓迎。
 バックパッキング情報も随時提供するので、バックパッカー経験者(予定者)の授業参加歓迎。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords